No 5592/23

能樂薀奥集卷之四

四番目五番目能之部形付之事

艸紙洗小町

何事無出ル

上ニ床木掛佐名乗過甘謠出ス

此歌を頃座立中入

後次第立向 太夫女佑同王貫之男佑二人佐地次第ヨ座ヘ行王床木掛次ニ貫之佐同ッレ大夫佐正次ニ女佑正ヘウケ

各々 造物正ヘ出短冊上ニ有

小町を 貫立文臺ノ前ニ座正掛物ヨヽ心

御前ハ 子方ヘ敬

畏て 文臺ノ短冊ヲ取上兩手ニ持ヨヽ

皆々 座カヘリ

耻しの 子方ヘ

夫に今 佐ヘ問答心持

是こそ 佐艸紙ヲ出太夫ノ前ニ置

恨しや シホリ

此双紙 左ニテ艸紙ヲトリ見テ

いか樣 艸紙ヲ下ク

此万葉 見テ

兎に角 心持

余りヨ 貫ヘ

非しさに シホリ乍立右ヘ甘貫立ヨヒ返ス

御待候へ カヘリ大小前座子方ヘ敬太夫カヘリ座

あらハんと 立　波崎を ヒラキ 地次第ニ廿正　梅の句 少出ヒラキ

河原ふ 右ウケ 面遣ウ　春の歌 角所左廻　忍草 正ヘヒラキ

沮ハ 右ニテ シホリ　尺教の 少出　連の ヒラキ

神祇 右廻リ　紅葉 正ヘヒラキ　住吉の 正ヘ出

岸に 右ウケ面 遣ウ下右　白波を 扇ヒラキスグヒ 卿帋ニカケル心　後 之れハ 卿帋ヲ見

前 洗日〳〵 ニッスクヒカケル 當ヨヤウ　文字ハ 下ケ見　有難や 卿帋下置 合掌

悦ひて 卿帋取直子方ノ前ヘ行座 草子下置立カヘリ甘心　自害 佐橋ヘ行　なふ〳〵 佐ノ袖ヒカヘ

いかゝ黒土 カヘリ座　各々立寄 立後見座ヘ 甘物着正　花の ヒラキ

百色 右ウケ左ヘノリ込 破掛序舞留ワカ　朝ほら 上ケ扇　日影に 左右打込 ヒラキ

四海の 正サシ出 ヒラキ　堯舞 角所左廻

花の サシ角所カサシ左 廻小廻留スエ足　神國 ヒラキ

葵上

囃方座ヨ着小袖正面ノ前ニ出スツレワキ座ニ下居太夫一セイ越一ノ松ニ留

夕かほの 右ヘウケ　やる方 正　非しけれ シホリ内ヘ入大小ノ前ヘ 向次第謡め常

是まて 正ヘツメ足　あら耻かーや 足引ク モラン　語らん 正ヘツメ足

あつさの 右ヘウケカヘシニ 正ヘ見廻ス心吉　姿なけれハ シホリ　御名乗候へ 大小ノ前ヘ行下居 小袖チミル心吉飄出ス

是ハ六條 ツレヘ　我世に 正　是まて ツレヘ

おもひ 正ヘ向品ニ小袖 見廻シテ居立見込　何をなけく 少イ立小袖ヘ見 込ニリ方シッカ リト見　恨みハ 裾ノ方見廻シカヘシ ヘ又ミモドシトクト 下居シホリ

あら恨し 手チロシ小袖チ チヨト見テ　今ハうたては 小袖チミ込 イ立　いやいかに ツレヘ面斗吉 キットアシライ

枕に立寄 立ッカ〳〵ト 出下居　ちやうど 小袖チ強ク 一ッ打　此うへハ 立シッカニ 右ヘ甘心

思ひしらすや 面ヨリ小袖 ヘミ込テ　思いしれ ムチサシ 拍子一ッ　恨ーの 右ヘノリ込 柏子

人の恨 角取左ヘ廻リ 品ニ扇ヒラキ　水くらき サシ角ヘ行小ク廻 リカサシ上チ見　陰よりも 下チ面チ遣イ

契らん（ツメ足後ヘ下リ品ニ）　わらハと（ユウケン）　本あらさりし（右ヘ廻リ）

夫さへ（正ヘヒヲキ）　夢にたに（右ヘノリ込拍）　昔語り（ツレノ方ヘ行カカリ正ヘ出）

猶も思い（小袖ノ襟ヨリ裾ヘ見廻ス）　其面影（ツレノ方ヘツカ〳〵ト歩カ〳〵ト歩）　耻かしや（扇左ヘヨセ面右ヘ廻リ品ニ扇捨テノアタリヨリシヅカニ出ワキノ右ノ方下ウツムキ居）

うちのぜ（ツホヲリサワキ正ヘツカ〳〵ト出品ニ唐チリカブリウツムキ二足ツメ〳〵ニ右ヘ甘太コ座中入）　後　不淨を隔つ

一祈（ノビ上リワキヲ見ル　ワキシテヘレカト又ウツムク立働）　かさねて（正ヘヒラキ）　東方に（方角ヘ）

南方（方角ヘ段々ニサシ右ヘ廻リヒラキ品ニ打杖ニ左ノ手ヲカケ）　中央大（拍子右ヘノリ込）　なまくさ（角所左ヘ廻リ品ニワキヲキメ込テ打杖フリ上）

聽我說者（打杖ニテワキヲチイコミ）　知家心者（後ヘ下リ平座打杖下ヘ置）　あら〳〵（両手上ゲ耳ニアテル心）

是まで（ワキヘ）　來るまー（正ヘ扇ヌキヒラキテ）　讀誦の（ユウケン）

惡鬼心（立正ヘ出掛）　ほさつも（ムヲサシ高ク又下ヲサシ柏子一ツ）　成佛（右ヘ廻リ正ヘヒラキ品ニ合掌留スエ足）

安達原

始ヨリ造物入出ワキ着セリフノ内ニ引廻シヲロス
問答造物ニテ無別儀

さらハ留り（立造物戸ヒラキ出直ニ戸ヲサシ下居）　こと草（ワクカセ正ノ先ヘ出ス）　御みせ候へ（立ワクカセノ前ヘ行下居）

月も（上ヲミル）　麻草の（糸ヲクル次第ノ内）　悲ーさよ（シホリ）

恨ても（クモラシ）　今ハた（此アタリヨリ糸クリ掛テ）　思ひ明石（云時分ニ糸クリ止テ）

獨泣あかす（シホリ）　いかに（ワキヘ）　さらハ頓て（立入心ニテシテ柱ノ方ヘ行カヘリ品ニ）

やいかに（ワキヘ心持）　此ねやの（ツクリ物ヘ）　御覽しな（ワキヘ）

こなたの（ツレワキヘ面ノコシ中入）

後出羽不越一ノ松ニ留ワキヘミ込テいのにト謠

胸を（面直シ柴ヲトス）　野風（右ヘウケ）　鳴神（ヒラキ）

天地に（上下ヲ見廻ス）　鬼一口（ワキヲ見込）　足おと（左ヘニツノリ込ヒラキ）

ふりあくる（打杖フリ上テ）　あたり（ワキヲチイ込内ヘ入働留造物手掛打杖フリ上テ）　たかんまん（ヒラキ品ニ打杖ニ左ノ手掛）

見我心者（拍子ノリ込角取左ヘ廻リ）　聽我說者（左ヘ廻リ品ニワキヲチキメ廻リシテ柱先ヨリワキヲヲイコミ跡ヘ下リ平座スル扇ヌキヒラキ）

いかりを（立正へ出掛）　天地に（ムヂサシ高クシテ下見ヲロシ直ニ角ヘ行小廻リヲ）　まふど（扇顔ヘアヲ）

足本へ（左ヘ廻リ跡ヘ下リ左右ニ下ル吉）　安達原（角ノ方飛廻リ下ニ造物ヘムカイヲ）　黒塚と（見上ケ）

淺まーや（ワキノ方ヘツカ〳〵ト寄）　はつかしの（扇左ヘヨセ面右ヘフリ二三足引ヲ吉）　云聲へ（角取左ヘ廻リ品ニワキ座ヨリサシノリ込一ノ松ニテ扇左ヘ取飛鳥下居扇カツキ留）

船辨慶

ワキヨヒ出謠ナガラ出留問答

頼ても（正）　荒何とも（クモラシ何トナクシテ居）　みつから（ワキヘ）

能々（正）　童参り（ワキヘ）　御参り候へ（ワキノ跡ヘツキ内ヘ入眞中ヘ行子方ヘ向下居）

扨へ誠に（子方ヘ）　よしなき（ワキヘ）　退す〳〵（正クモラシ）

いやとゝ（ワキヘ）　波風も（正）　契りし（子方ヘ）

君と二度（ミ込シホル正ヘ直ス）　其時（立）　とかうの（右ヘウケ）

へたうの（正ヘヒラキ）　烏帽子の候（笛座ヘ廿下居烏帽子著立正ヘ出カケ謠ナガラ）　なすとかや（拍子）

袖うち（左右打込ヒラキイロエ）　句踐の（子方ヘ又ユウケン）　天の道々（ヒラキ上ヲミル）

されへ越の（出ヒラキ）　政を（角取左ヘ廻リ正）　上羽（左右打込ズニ）

小舟と（サシ廻シヒラキ）　五湖の（打込）

御身の（子方ヘ）　なけき玉（左ヘ廻リ）　終とへ（サレ角ニテカサシ左ヘ廻リ子方ヘ）

只頼め（甘序ノ舞）　たゞ頼めワカ　我世の中（左右打込ヒラキ）

かく尊詠（子方ヘ〳〵ユ左ヘ少ク廻リ）　頓て御代（ムヂサシ出下居）　舟子共（ヒザ立カヘ扇左ノ肩ヘ上ケ橋ヘミ込）

はや纜を（扇チロシ〳〵扇メヽミ正ヘ直ス）　すゝめやせへ（子方ヘ）　旅の宿り（子方立二三足出）

靜へかく〳〵（クモラシ正）　烏帽子（左ノ手ニテヒモトキ烏帽子チトシ左ニテシホリ作立足トメテルホリカヘシ）　中入

後早笛内ヘ入留切無別義長刀ニヘ不記ス

紅葉狩

始ニ一疊臺造物山引廻シ掛大小ノ前ヘ出後ニ引廻シテ不取
太夫ツレ次第内ニ入立向如常

先木の本 ワキ座ヘ行下居 ツレモ座ス　忍ぶ ワキヘ　あら情なの 立

いかでか ワキノ方ヘ レツカニ歩　恥かし作 足留テ面心持　袂よ 左ノ手ニテワキノ左ノ袖ニトリツク

さすが ワキ座ヘ行太夫入替リ大小前ニ下居　計なり 打切ニ扇ヒラキ心ニテ立ワキノソバヘ行下居シヤクスル

心かな 打切下略ニ打扇タヽミ立真中ヘカヘル　道へ様々 角取左ヘ廻リ ヒラキ　たくひ 左ヘノリ込 拍子

山 櫻 サシ廻シヒラキ片左右　上ケ羽 左右打込ヒラキ　かけてそ 右ヘ廻リサシ角ニテカザレ左ヘ廻リ左右

雲に嵐 右ウケ上チミル　散か正木 正ヘ　月の盃 正ヘ出ヒラキ

めぐらす 拍子一ッ甘序ノ舞三段目地頭よりクフヒスヽム　堪す紅葉 上ケ扇　〳〵 左右打込ヒラキ

暮行空 右ヘ出掛テ　雨うち 二ッマチキ正ヘ二三足歩右ヘ廻リ　山陰に 造物ヘミ入扇左ノ肩ヘ上ケ左ヘ引見上ケル

月待程 ワキヘアシチイ右ヘ廻リ蟄ヘ上リ造物ニ左ノ手カケワキヘ中入　後感陽宮の 造物より出右ノ方蟄ヘ上リ正

余りて 打杖逆手ニッキ左ノ手カケテ　まなこへ 右ハウケワキヘミ込　面をむく 打杖フリ上舞働有ヲモテ

微塵よ 拍子　飛てかゝる 飛チリテ一ッ打逆飛廻リ　むずと組 ワキノ腰ニ取付左ヘ廻リ

かうべを 左手ニテワキノセナカヲツカミ造物ノ方引蟄ヘ上リ　切 拂 ワキ切付ト飛チリ橋ヘツカ〳〵ト歩マクキワス行両手ヲ上ケマクニトリ

引おろし 平座スグニマクヘ入ワキト云合スベシ

ツク

造物一疊臺引立大宮佐座ヘ出ス俳枕持出臺ノ上ニ置口明終テ座ス次第常ノ如内ニ入詰

邯鄲

誠やう國 右ウケ　身の一大事 正　唯今 進界

野くれ 右ウケテ三足歩〳〵着足正

着セリフ云テ橋掛ノ方向俳ヨビ出問答太小ノ前ヘ行床木ニカヽル俳取扱問答過ケ立一疊臺ノ例ヘ行上ヨリトクト見チロシ臺ヘ上リ枕ヲ見ナガラ下居

是へ身を知 直ス　天の 心持右　日へまだ 西ノ方見上ル

かり寝 枕ヲ見テ　邯鄲の 團の柄ニテ左ノ袖ヲサヘヒザ立カヘ寐顔ニアテル心佑出一疊臺二ッタヽク超テ平面數珠チロス佐ヘ問答面斗ニテ吉

光かゞやく 與ヲ見ル　乘も習ひ 佐ヘ　天にも上る 心持有

玉の御輿 立臺より下り輿ニノル正ヘ出　上人と成そ 下居フイ座臺ヘ向袖アシフイ立臺ヘ上甘ククツク取子方扇出ワキ正ニ座ス太夫正角掛ヲ平座又正向居モ

ひがしに 方角　にしに 方角　たとへハ 直ス

日月 両手上ルヲロス時心有　そも天の 扇ヘ　國土安全 子方扇抜キ〳〵ニ立ウケ臺ノ側行

菊の盃 圓出ス子方酌スル心　めくれや 圓ヲ見子方〳〵ニ立扇タヽミ大小ノ前ヘ　すぐれバ 拍子出ヒラキ

花の袂 右ヘ廻リテモ又左ノ袖ヒロケ右ニ持ソヘテモ　さすも サシ込ヒラキ左右　我宿の 上羽左右打込ヒラキ

世も盡し 角取左ヘ廻リシテ柱先　汲共〳〵 下チスクと正ヘ出ヒラキ　のめハ 角ヘ扇左ニ取左ヘ廻リ

飛たつ 扇ハチテ正ヘ出右ヘ取サシ角ニテカサシ廻リ左右下居

太夫子方ノ舞ノ内心持有ベシ上羽過甘法被右袒正面ヘ直ス樂留リカ上ケ

猶幾久 拍子左右打込ヒラキ又半雲扇モ　月人男 二重ヒラキ　雲の羽袖 左ノ袖巻テヲロシ圓チノセ又左ノ袖チカヘシ

重ねつゝ 圓ノ上ヘノセル右ヘノリ込左ヘノリ込ヒラキ　悦日の 二ッ打合拍子　うたふ 〳〵ニ角取

日ハ又 見上ル左ヘ廻リ　豈かと 正ヘヒラキ頭トリ回廻ウ　春の花 サシ角取少廻リカサシ

雪も 面遣イ左ヘ廻リ　春夏 サレ分右ヘ廻リ面遣ウ二三足歩　ふーきやふ 後ヘ下リユウケン臺ヘコシカケテ

又サシテ橋掛ヘ行右ヘ廻リ見廻ス期て下甘心返ニ内ヘ入此仕舞ニハ悦日のユウケン吉

五十年の 立子方ヘ二足　皆消々と 立入又笛座ヘ行サシ見チシリ右ヘ廻リテ　有つる 枕ヘムチザシツカ〳〵

ト行臺ヘ飛上リ始ノ如寂 俳答ヲ起平座　松風の 橋掛ヲ見ル　宮殿 直ス　只邯鄲の 正面ノ柱チ見心持有

榮花の 直ス　つら〳〵 左ノヒザ立チカケ面クモラレ　身の爲にハ 此邊ヨリ右ヘミ廻ス心見廻スニテヘナク

げに 枕チ見ル　南無三寶 一ッ打臺ダチシラ柱先　智識ハ 立鯖枕ヘムチザル臺ヘ上リ下居

實有難や 枕両手ニテイタヾク臺ダ下リテ　夢の世そと シラ柱先ヘノリ込廻リヒラキ袖返スユ足

又實ト見ズ圓ニテ打ズ何トナク立テ臺下リ臺ニ片足掛イタヾク事モ有サトリエテ打合モ有實有難ヤト禮スル事モ有留謠ニ心持有

唐船

佐名乗座ス舟橋掛ニ出ス一セイ片越唐子二人舟ニ乗向合謠如常

波路遙に 兄正　箱崎に 向合

着セリフスキ俳舟ガチリ内ニ入楽内又俳子方ヘ答テ
舟ガチリ内ニ入ト佐謡掛ルワキ正ニ立問答

待やさうするよて候　甘下居尤太コ座
舟ハ俳橋掛板付ノ方ヘモメヤ置なり

太夫子方一セイ越子方橋掛裏表ト分リ立置並
子方ヘ目附テ置いのにト謡出ス

牛引　向合　秋さく　三人ヒ正　老の心向合　是ハ正

荒古郷　二足ツメ　又是も　子方ヘ　老木の　正

此身の　シホリ作正　あれを　正見ヤリ　いざや　子方ヘ打切正

いかに　子方ガ太夫ヘ　是花の　子方　扨唐土　正

九牛か　子方ヘ　左ほど　正　いやとよ　子方二人ヒ心持

語り慰　子方ガ内ヘ入地謡ノ前ヘ行太夫内ヘ入シテ柱先正ヘ出子方ヘ向合着にけり〳〵ニ甘扇ヌキ持正ヘ出子方座ス　其そんし　正

さん候　佐ヘ　何事よても　眞中ヘ行下居

是ハ思も　佐ヘ　來り候ヘ　佐立太夫モ立シテ柱先ヨリ橋ノ舟見テ　實是ハ　佐ヘ

玉り候ヘ　笛座ヘ甘扇チロレ立シテ柱先ヘ行子方ヘ　やあいかに　心持有

明やせん　ツメ足　春宵　太夫甘ヤウニシテネ方ヘ向合唐子内ヘ入ワキ正下居三人ヒ向合テ

諸越ハ　正　たうどや　合掌

俳唐子ヘ舟ノ事云唐子太夫ヘ向いかにやいト謡俳座ヘ得ル

如何にか候　佐ヘ　目出度　立　荒悲しや　日本子二人ヒ立

實ヨ出舟　日本子ヘ　暫　正　荒情なの　子方佐ヘ

情なく　シホリ　時とく　唐子立　呼子も　唐子ヘ

中ヨ留る　日本子ヘ　父獨り　正　たつきも　扇ステル左ニテシホリ下居

たとへハ　面直す　うつゞり　平座左右ノ手ヒザヲカカエテ　皆子ゆへ　面クモラシ心持有ベシ

いはんや　面直ス　船にも　唐子ヘ向面斗ニテ　とまるまじ　イ立テ日本子ヘ

岩ほに　立正　十念し　正合掌　既ヨ浮身　正ヘツカ〳〵ト出子方四人ツカ〳〵ト出留ル

唐土や（唐子ヲ見ル）　日本の（日本子ヲ見ル）　是を（四人ニシホル）

さすが（跡ヘ下リ平座両手ニテシホル子方四人ニ下リ地方ノ前ニ座ス）　是へ誠この（イ立テ佐ヘ）

有かたの（正ヘ合掌）　此子を（子方ヲ見廻シ又ミモトス）　斯て（佐ヘ）

暇ゆて（面クモラシ此前ニ舟シテ柱先ヘ出子方四人ニ立甘舟ニ乗筒ノ間ニ四人乗也太夫見合テ出園ヲ持舟ニノル）　面白や（樂留左右）

陸にハ（左右打込ヒラキ）　名残（正ヲ遙ニ見ヤリ又園ヲ前イダク心モ）　まねくも（二三足出）

舞の（左ノ袖アシライ）　追手とや（サレテ右ヘ廻リ掛テ）　帆引（園ヲ左ノ肩ヘヨセテ帆ヲ見ル）

帆引（直ニカザル左ヘ廻リヒラキユウケン）　唐土（右ノ方ヲチリテ入ル留足ナシ）

太夫舟ヨリチリルト子方追々ニチリ段々ニ入舟ハ俳持入ル始終舟ハ後見取斗ニ不及也

天皷

造物正面ノ先ニ出佐名乗太夫一セイ半越二ノ松ノ邊ニ留

又此秋（シホリ）　たにかゝる（シホリ）　恨なれ（ツメ足）

誰ゆて（佐ヘ）　せんゆて下居　いや〳〵（正）

重て（佐ヘたとひ打切ニ立）

問答心得有浮おがら立内ヘ入レテ柱ノ側ニテ正ヒラカヌニ

帝を（足留ラ）　老人か（少引テ下居佐ヘ合掌）　扨ハ（正）

うへに（立）　天の（造物ツメ）　地次第に（甘クリニ正向大小前ニ座ス）

くるしみの（心持有）　地を走る（直ス）　時の皷（少シイ立心造物ヲ見ヘリテシホル）

涙を留て（手ヲロス）　いそひて（佐ヘ）　打や（正）

立よる（立ナガラ扇サス）　雲龍閣（右ウケ）　玉の階（正下ヲ面遣ウ）

老の歩（心持有テ造物ノ前行）　心も（左ノ手ヲ掛テハチ二本ヲキ両手ニ分テ持）　うてゞ（一ツ打ヤヲト云間）

心耳を（少右ヘウケテキク心持）　實も親子（造物ヘ）　君も（正ヲミヤリ跡下リ平座ハチヲ捨テ）

浮へ玉ふぞ（両手ニテシホリ）　佐（詰ノ内手ヲロシ俳苔ヲ立レヅカニ入心持有ベレ）

後一セイ越内ニ入留

思ハさる外 佐へ　　浮ひ出たる 正左ヘノリ込ヒラキ　　是ハ天皷 佐へ

扨ハ 正　　うれしや 佐へ　　天降り 囃右ノコシニサレ造物ノキヘ〜行バチヌキ両手ニ持

天の皷打ならす 跡〜下リヒラキ　　呂水の サシ廻シヒラキ　　とう〜と 拍子ハヅシテ右ノリ込

より引 左右シカケテ正〜ヒラキ造物ノ側ヘ行　　樂 留左右　　秋風樂 正〜出掛テ

松の聲 橋ノ方ヘ見ヤリ　　柳葉を 正〜ヒラキ頭トリ　　月も 面遊ウ

うしやくの サシナカラ正ヘ出右ヘウケ肩ツマミ　　紅葉 正ヘノリ込角取左ヘ廻リ　　水ハ南 左ノ手方角ヘサシ

星ハ北 右ニテ方角ヘサシ廻リ　　天の海面 ワキ正ウケ正ヘ出ヒラキ　　月に 上見ノリ込飛廻リ下ニ居

波をうがち 袖内〜巻込ニツマヲキ　　袖を 左ノ袖カ〜シ見アシライ　　夜遊の 立角取左廻リ

ほの〜 方角ヘ雲扇　　時の皷 造物〜二重ヒラキ　　數ハ六ツ 拍子右〜ノリ込

又打よりて 造物ノ側〜ノリ込キリハト廻リ内ニ扇左ニ取ニツ打右ヘウケシテ柱ヘノリ込飛廻リ下ニ立トメ

造物ニ入大小ノ前ニ出ル道行ノ内ニ引廻シテチロス

梅がに

一夜を 立両手ニテ戸ヲヒラキ出　　むくらの ワキ正〜出掛　　袖を片敷 佐〜向出大小ノ前ニ座ス

西北に 正向居アシラワズ此内ニ造リ物舞衣ヲ出ス　　旅人の 佐〜向ズ必持　　何事よて 佐〜向居ル

其 比 正　　其後不二か 佐〜　　逆縁 左ニテシホリ

更ハ何とて 正　　此御代に 佐〜　　住も 打切ニ立右〜廻リカヘリ

へし物を 立カ〜リ佐〜　　たすけ 佐〜サシ込ヒラキ　　かきけす 正〜ヒラキ中入

後詰ノ内ニ出シテ柱先ニ立

實や 佐〜向大小ノ前〜行　　今身の上 シホリ座ス佐〜向居　　去よても 正

よしなき 立おかされト立　　女心の 出ヒラキ妻乃二重引　　形見 扇ニテ頭サシ

此狩衣 左ノ袖アシライ二三足出リ　常にえ ミ込テ　此太皷 遣物ヘムチサシ

寢もせす 角取右ヘ廻リ　佛所に 佐ヘ二足直ニ打込　上羽 左右

古人の 打込ヒラキ　思はし 身カヘ出ヒラキ右ヘ廻リ　岸よ 正ヘミ込

手折や サシ角取カサシ左ヘ廻リ　執心を 佐ヘ打切甘正　月も 上チシル

夜半樂 佐ヘ　心も共に 左ヘシリチリキ正ヘ出掛　松の隙より 遣ノミヤリ

波もて サシ込ヒラキ　沖も靜 サシ廻シヒラキ面遣ウ　青海 二ツマチキ

かへすや 角取左廻リ　梅か枝 サシ込ヒラキ　風ふかば 扇サシ作遣物ノ前ヘ行

樂 留左右　花の影 正ヘ出サシ込ヒラキ　我も 左右打込ヒラキ

今目前 サシ角取　舞の袖 左ノ袖カツキ左ヘ廻リ　樂の皷 正ヘツカ〳〵ト出足ツメテ

うつゝふの シホリ作跡ヘ下リ下居　思へは 面直シ立　〳〵 右ヘノリ込拍子

語るは 佐ヘツメテ　月も入 西ノ方ヘ見　音樂の サシ分右廻リノリ込ヒラキ左ノ袖カヘシ留スエ足

富士太皷

遣物正面先ニ出ス次第ニテ出子方太夫橋ニテ立向謠正向名ノリ笠ヌカズ

世にかくれ 向合　跡なれや 右ウケ後ヲ見打切ノ内ニ正笠ヌギ左ニ持折念の心

うつつに 三足出返ニ向合　急ぐ程に 正

此所ふて 子方ヘ云テ入替一ノ松ニテ内ヘ案内俳答笠後見ニ渡ス

俳答テ内ニ入眞中ニ立子方ワキ正ニ立向居

是に候 佐ヘ　何とふしに ツメテ　されは社 正

煙とは 面フセル　今は歎ふ 面直ス　思日子 子方ヲ見ル

いとゝ猶 シホリ　なくさめらへ 佐鳥甲鉾衣持出ル

少シ出兩手ニ取下居正子方下居舞衣トクト見テ面直シ謠出ス

誠にしるき 右ノ方鳥甲ヲ見テ　月日も 左ノ方鉾衣ヲ見ル　疑ふ所も 眞中ヲ見ル

痛いしや　面直シ　其うへ　舞衣見ル打切ニ面直ス　歎くぞ　平座舞衣持作シホリ

物着　スキヲ造物ヲトクト見テ荒恨めしやと謡　如何に姫　子方へ

いざ　立少シ出子方立右ノ袖左ニヲ留ル　あら淺　レホリ　うたての　子方へ

たゝ恨　造物ヲ見　いざ　子方へ　實理り　正

童か爲　子方へ　男の姿　正　うづゐん　子方へツメ足直ニ子方ヲツレテ造物ノ例へ行

秋の風　バチヌキ子方両手ニ持太夫甘心　冷〜や　一ッ打　打てや〜〜　子方ヲ見右〜ノリ込

あら扨　左足引造物ヲ見シホリ　猶も思へい　二重ヒラキスエ足　けしたる　出掛テ

心言葉　左〜ノリ込ヒラキ品ニ　ふしか　橋ノ方ヲ見テ　來ると　扇サシ造物ノ前へ行

よしなの　ハチ取左ノ手ニテ子ヲ押ノケル　樂　留左右　子方後へ二三足下リ笛ノ上ニ座ス　太皷の　ムヲサシ込ヒラキ

持たる　右ノバチヲ見テ〜〜出掛　しんゐの　面遣造物へ見込テ　れへず　サシタラ〜〜ト下リ右へ廻リ直ニハチ両方ニ持

天に上れい　上ヲ見ル　誠の　ハチニテ右へウケ正〜出ヲロシ

四方へ　両方〜分ルヤウニシテ右ノ方〜面遣ちるかと四ッ

又冷人の　左袖カヅキ左廻リ　花衣　サシ分テ角取左袖返シ正見開左〜廻リ大小ノ前ヶ作物キハ〜行　名のした　正〜出ツメテ

たゞひなや　左ノバチヲ捨右モ捨シホリ打切ニ甘扇ヒラキ正　此君の　ワキヘサシ込ヒラキ

扨また　出掛テ　民も　角取左〜廻リ　うたふ　西〜向ヒラキ

日も既に　上ヲ見テ　山の端　両手ニテマヲ子キ出右〜廻リヒラキ　嬉しや　造物ノ側へッカ〜〜ト行

思ふ敵　扇ニテカッコ一ッ打　うたれて　カッコチキット見テ　我よい　ユウケン二ッタラ〜〜下

ふみた　シホリ平座舞衣ヌギ　鳥　甲　鳥甲ヌキ左ノ手ニテ捨後見笠持來ル　我　心　イ立笠持下テ右ニ

乱　笠　笠ヲ子見ル　又ノリ拍　乱かみ　甘心立カ〜〜リ　浮人の　造物〜笠ニテサシ込ヒラキ品々両手ニテ持上

見置てそ　カッコチトクト見込正〜ヒラキスエ足笠右ニ持入

三　輪

造物大小ノ前ニ出ス次弟内ニ入如常

又此山影 ウケテ　けふも 正ツメ　いかに 佐ヘ問答必付ベシ

山居 ツメ足扇ヲ出テ戸ヲヒラク心右ノ方ヘ見ル　此山住ぞ 佐ヘ心持有　かくしも 三足出木ノ葉出見テ下居木ノ葉下置

つみを 合掌打切ニ正　如何に 佐ヘ

参らせ候へし 立佐ノ方ヘ行下居左ノ袖ニ佐衣ヲ掛ト見テ荒有かたや立造物ノ方ヘスラ〳〵ト歩佐暫ト云正ヘ留佐ヘ

其うへ 正　何しに 佐ヘ　吊ひ ツメ足

杉立る 二三足出佐ヘヒラキ　云捨て 正ヘハヅシ右ヘ廻リ造物右ノ方ニテヒラキ入　衣引廻シニ掛

後造物内ニテ問答謡地ニ成テ見合ニ後口ヵ出シテ柱先ニ出立心持大ニ有ベシ

御影 引廻シナロシ両手下ケ立居心持有クリニ大小ノ前ヘ行　かわらぬ 佐ヘ

故により 拍子出サシ込ヒラキ　いと 左右打込ヒラキ打切モ　たゞ同く 角取左ヘ廻リ

今より 正ヒラキ　契りも 佐ヘツメ足　さすゲ 面直シ佐ノ方ヘスラ〳〵ト歩

かへる所 シテ柱ヘ見帰リヒラキテ大小ノ前ヘ行　是を 扇上ケテ見テ　とぢ付 チロシ二足出心持有

跡を 橋ヘ見ヤリ心持有ベシ　上羽 左右拍子無正ヘ打込ヒラキ

糸くり 扇左ニ取ヤウニシテサシ分右ヘ廻リ　杉の 造物ヘサシ込ヒラキ　こはそも 身カヘ出ヒラキ

契りし 造物ツメ足　其糸の 正ヘ直扇右ヘウケ正ヘ出チロシテ　三わの 右ヘノリ込

語に 佐ヘハヅカシト甘正　彼上人 佐ヘ　先は 正

出さんと ヒラキ甘扇サシ幣持正ヘ出

造物ヘ向コイ合ノ聲ニ三足ツメ千早振幣フリ分イメヽキ正ヘヒラキ神樂序清テ遠拝留ワカ

引立て 扇前ヘ引立ル心　入玉へば 少廻リ角取　とこやみ 扇面ニチ〳〵ト左ヘ廻リ正ヘ小廻リヒラキ

八百万 正ヘ出造物ヘ向下居　神樂 両ニウケン　岩戸 雲扇

又とこやみ 立角取少ク左ヘ廻リ　人の面 正ヵサシ右ヘ廻リ面遣ウ　面白やニウケン

妙成 左右打込ヒラキ　思へハ 右ヘノリ込〳〵ニ角取左ヘ廻リ　夜も 方角ヘ雲扇

かく有がたき 正ヵサシ右ヘ廻リ小廻リヒラキ袖返シスエ足三番目ニ折返シテモ

龍田

呼掛如常一ノ松ニ留内ニ入問答心付ベシ

紅葉の 佐〜　又其後 正　かさねて 佐〜

限る〜 ツメ足正　にーき 右〜ウケ　冬川 正〜出ヒラキ

渡らん 佐〜　さなき 左〜廻リ正〜ヒラキ　是ハ覗 佐〜

荒嬉し 正　ゆさうするにで 右〜ウケ二三足出造物ヲ見テ是社ト云詞作佐〜向眞中ニ下居正　立田の 造物左ノ方留座ノ方〜見上ル心持

さん候 佐〜　有がたや 正　始んと 立正靜ニ角取左〜廻リ

川音 面クモラシ聞心正〜直シ　いざ 佐〜　名のりも 正〜スラ〳〵ト出扇ヒラキ

ふしざやな シテ柱先ニ留心持有　我ハ 右〜ウケ左ノ袖佐〜アシライヒラキテ

光を ユウケンツメ足右〜廻リ掛ニ　戸ひらを 扇ニテ明ル扇メヽミ作造物〜中入仕舞シテ

後出羽一段打チロシテ詞出スあしたよ引廻シチロス

夜半に 佐〜　千秋の 佐〜打切ニ造物ヨリ出

海邊も サシ廻シヒラキ　なこそ 左右打込ヒラキ打切モ

今朝より 正〜ヒラキ右〜廻リヒラキ　よみしも 左右打込

龍田川 サシ廻シヒラキ　古へハ 右〜廻リ正〜ミ込テ

紅葉 サシ角取カサシ左〜廻リ左右　去ほど 正〜〳〵ニ出

コイ合ノ壁ニ三足ツメ謹上ト幣フリ分イタヽキ神樂笛ワカ

ふみの 左右打込ヒラキ　神の 直シ〳〵ニ正〜出

龍田の サシ廻シヒラキ　さつ〳〵の 角〜扇左ニ取左〜廻リ

散飛 面遣ウ扇右ニ取角取

山河草木 佐座ハサシ小廻リ正〜ヒラキ左ノ袖返シスエ足留三番目ニ折返シテモ

又さつ〳〵ト右〜廻リ右〜フミ込　神風 サシスグニ二ッヤチキ正〜出ヒラキ　紅葉 角取扇左ニ取左廻リ

龍田川 拍子出ヒラキ　則 サシ込ヒラキ

然れば 角取左〜廻リ　吹乱 二ッハ子作正先〜出

上羽 左右打込ヒラキ

荒うつくし ムヲ子サシヒラキ　ひるがへる 左ノ袖カヅキ左〜廻リ

月も サシ込ヒラキ甘扇サシ幣持正〜出

醍上　扇二ツハ手ヲ出　山川　扇右ニ取サシ右ヘ廻リ小廻リモ有　ちり飛面遣御祓も扇右ニ取　右ヘ廻リ左ノ袖カヅキ

又時雨　サシ廻シ右ヘ廻リ橋ヘ行扇左ニ取吹乱シハ手ヒラキ　ル扇

サシテ内ヘ入角取左ヘ廻リ

西行櫻

造物ニ入大小ノ前ニ出下臥シテト引廻シチロス何事ナク謡出ス

是　ハ　佐ヘ　いや上人　佐ヘ　むれつゝ　正

扨櫻の　佐ヘ　恐れ乍　佐ヘ　誠　は　佐ヘ

動かす　佐ヘ　ひらく　佐ヘ

又あたら櫻ト立出ヲ開クトワキヘ凡ト直シテ柱ヘ行ワキヘ向成佛ト下居合掌

花檻前正夫朝大小ノ前ヘ行

有がたや　佐ヘ　花檻前　正　近衛殿　ユウケン佐ヘ打切ニ立出

たり　拍子出　所の　サシ込ヒラキ　千本の　左ヘノリ込ヒラキ打切モ

毘沙門　角取左ヘ廻リ　うへなる　正上ヘサシツメテ　下河原　右ノ方ヘ面遣イ打込

上羽　左右打込ヒラキ　清水寺　右ヘ廻リ正ヘツメテ　爰は又　ムチサシヒラキ

となせ　扇右ヘウケ正ヘ出チロシ　瀧津　角取カサシ左ヘ廻リ左右　後夜の　シテ柱先ヘ正

春　の　甘

太鼓序舞留ワカ上ケ扇

鐘をも　左右打込ヒラキ　まてーばし　佐ヘ扇ニテ二ツマチキ　ちらむは　方角ヘ

余所は　右ヘ廻リ　花の枕　左ノ袖巻下居面クモラレ　夢　ハ　面直シテ立右ヘノリ込ニ

嵐　も　サシ廻シヒラキ　花　を　扇ツリテ正ヘノリ込　れなじく　右ヘ廻リ

春の夜　方角雲扇　翁さひて　サシ右ヘ廻リヒラキ左ノ袖返シ留スユ足

小　鹽

一セイ片コレ内ニテ留

人やみん（付足櫻枝チロシ）　四方の（右ウケ二三足出〳〵ニ正）　思るよらす（佐〜）
姿こそ（佐へッメ足）　おかしと（正）　くちは（ヒラキ）
色も（佐〜）　しらずあ（ッメ足）　何と語（佐〜）
實々（正）　小松か原（右足引心正上ヲ見ヤリ）　里は（直シ）
霞か（佐〜）　八重（ッメ足）　都邊は（正）
櫻を（右ウケ正〜直出）　相にあふ（ヒラキ）　けにや（左廻リ）
神代も（シテ柱先正〜ヒラキ）　事新敷（佐〜）　申に付て（正）
神の（佐へ）　妹背の（ッメ足直ニ大小ノ前ニ座ス花下畳）　歎ても（レホリ）
なれて（佐〜）　老かゝる（花ヲ見持肩上立）　かさーの（正へ出掛）
このも（左〜ウケ）　かのも（右〜ウケヒラキ）　花の（角取左廻リ品ニ花右ヲチロシテ）
めぐる（正先ニヲヒラキ）　天も（上ヲ見テ）　かけろふ（右へ廻リ中入ヒラキ）

後一セイ越内ニテ留ヒラカズ車出スモ

實や（佐〜）　契りし（佐へ）　けふこずハ（正）
今ハ（造物〜向）　花見車（車ガチリル心持）　月の（大小ノ前へ行）
露品々（佐〜）　陸奥の（正〜出ヒラキ）　讀しも（左右打込ヒラキ打切モ）
又は唐衣（角取左〜廻リ）　都なれや（正へヒラキ上ヲ見）　是も（左右打込）
上羽（左右打込ヒラキ）　小塩に（サシ角取カザシ左へ廻リ左右）　むかーを（甘）

太鼓序舞留ワカ上ケ扇

有し（左右打込ヒラキ）　心や（正へサシ込ヒラキ）　山風吹（サシ廻シ右へフミ込左へ引）
ちらせや（扇ニテマネキ正〜出ヒラキ）　木り木の（左袖巻下居）　櫻よ（サレ角取左へ廻リ）
ねてか（佐座ロリサシシテ柱先カサシ廻リヒラキ留袖返シスエ足）

雲林院

嵐ノ内ニテウケ一句謡出一ノ松ニ留

誠の 正　夫か 内ニ入　散しつる 足留テ

や 佐〜見テ　夫花は 正　どても 佐〜

何とて 正　左様に 佐〜　春風は 正

たからと 佐〜　候まじ ッメ足　實 々 正

我は申さず 佐〜　云〜〜 ッメ足　實枝を 正二三足出テ

みぬ人 佐〜打切正　おしむも 角取左〜廻リ　にしき 正〜ヒラキ

如何に 佐〜　扨ハ御身 佐〜　其花衣 佐〜

其様年 佐〜　いや 正　木かくれ 佐〜

誠に昔 正〜出ヒラキ 正〜出斗ヒラカスモ　我有様 佐〜　其 時 佐〜ヒラキ ッメルモ

夕 の 右〜廻リ中入ヒラキ

後一セイ越内ニ入留

本の身 正ッメ　今は何 佐〜　來りたり ッメ足

花 の 佐〜　語けり ッメ足クリ謡ナカラ大小ノ前ヘ行　共 に 佐〜

戀路哉 拍子　うも〜〜 右ウケ　我大内 正直シ出ヒラキ

花の散 サシ廻シヒラキ　打渡り 拍子一ッ　思 日 角取左〜廻リ

紫 の 正〜ヒラキ正〜留斗　藤 袴 左ノスソチ見テ　しぼる〜 左ノ手チソエッメ

上羽 左右打込ヒラキ　冠 の 左ノ袖カッキ　忍 び 身チカヘ右ヘ廻リ袖チロシ

たろかれ 正〜ヒラキ　いと〜 サシ角取カザシ　ふるハ 上チ見テ

おつるは 下チ見左〜廻リ　しほ〜〜 後〜二ッ廻リ左右又正〜ッメメラ〜〜ト下リラモ　かへす 甘

太鼓序舞留左右

夜遊の 左右打込ヒラキ　名殘の 正〜出掛　月 も 西ノ方〜雲扇

返すや 左ノ袖カヘシ　夢のサシ分右ヘ廻リ佐ヘヒラキ　盡し 下居

散失す 立ヘ〳〵ノリ込ニ右　末の世 左ヘ廻リ　かく 佐ヘムチサシヒラキ

伊勢 サシ右ヘ廻リ小廻ヒラキ袖返シ留スエ足

葛城

呼掛一ノ松ニ留ましてやト童力佐へうをーくも内ニ入留

此うは傳 ウケ　御身 佐へ　さらても 佐へ

楚地の ツメ足　肩上の 正　ふ香の 柴ヲ見テ

かへる 右ウケ三足斗歩　柴の庵 大小ノ前ヘ着〳〵甘笠ヌキ眞中ニ座ス　余りに 佐へ

是なる 柴ヲ見テ下置　うたて 佐へ　申にや 佐へ

此かつらき 正　是大和舞 佐へ　折から 右ウケ見上テ直

袖の雪 佐へ　余所に 柴ヲ左ニ持立扇ヌキ佐ノ方ヘ行下居　松かは 柴下直扇ヒロケ二ツアチキ〳〵ニ扇タヽミ立眞中ヘ行

木の間 ウケ　みれ 拍子　實や 出角取左ヘ又ヒラキ直ニ廻リ左右 左右モ

上羽 左右打込ヒラキ　篠掛 佐へ　標を サシ角取カザシ左ヘ廻リ

片敷 佐ヘムチサシ　身を休め 二足ツメ下居扇タヽミ　御勤とへ 佐へ

さなき 佐へ　此山の 正　今に苦み 佐へ

恥し 佐へ　露に 佐へ　神に 見込

いのり 立ツメ足　岩橋の 正右ヘ廻リヒラキ中入

後出羽越内ニ入留

法味に 佐へ　能々 ツメ足　是見玉へ 佐へ

年ふる ツメ足　かつらき 正　みぐるしき 佐へ

もづかしや 正面クモフレ　よしや 角取左ヘ廻リ　神樂歌 大小前ヒラキ

かふてん 拍子　白和幣 甘

太鼓序舞留左右

高間の 左右打込ヒラキ

月白く 右ヘウケ

恥かしや 扇左ヘヨセクモラシ

〳〵 ニ正ヘ歩

いづれも サシ分ヒラキ右ヘ廻リ

淺まれも 角取左ヘ廻リ

海人

むかひに 正ミヤリ

神の 佐ヘ三足ヨツメテ

明ぬ 佐座ヨリサシ付カサシ廻リヒラキ左ノ袖返シ留スエ足ダヤブ

子方佐次第常通着セリフ濟佐座ニ床木掛太夫一聲半越内ニ入留

袂かな 付足

又須摩の 正

痛はしや 佐ヘ

此みるめ 海松ヲ出シ眺フソエテ二足ツメテ

むかしも 正

海人にても ツメ足

何をッメ足

我住 正

いや〳〵 正

かづき 佐ヘツメ足

實や 右ウケ

擡 海右ウケ二三足出〳〵正問答心付ベシ

みるめ召れ 佐ヘ

扨ハ 佐ヘ

あま 正

海松を 正ヘトラキ

地次第ニ甘海松ステ正ヘツカ〳〵ト歩

暫 足留テ

さんひ 佐ヘ

又あれ成 ツキ正

又是なる 正

新敷 佐ヘ正

面を向に 佐ヘ正

今の大臣 佐ヘ

されハ 正

明珠ハ 佐ヘ

大臣 正

いまの 佐ヘツメ足

や あ 子方ヘ心持

扨 は 子方ヘ向真中ヘ行座スカマ捨テ扇正心持有

偖は 子方ヘ打切ニ正

思へハ 子方ヘ

御涙を 子方シホリ太夫面クモラシ

實心なら 面直シ

かさねて ミ込テシホリ

たとへば 正

我等も 佐ヘ

事も 子方ヘ

藤 咲 正

御主の 面クモラシ

さらば 佐ヘ

其時 扇ヌキ正

子細 佐ヘ

扨ハ我子 正

其時人々（コシ引立左ノ袖佐ヘアシライ）ひとつの（正ヘ扇出シ見テ）彼海庭（立正ヘッカ〳〵ト歩左ヘノリ込ヒラキ）

空へ（上ヲ見テ左ヘ廻リ）かいまん〳〵（サシ分正ヘッカ〳〵ト出足トメテ）

直下と（下ヲ見テ）ほとりも（面直右ヘ廻リ正ヘヒラキ）不定也（拍子）

かくて（左ヘクリ大小ノ前ヘ行正ヘ見ヤリ）三十丈の（出掛）彼玉（正高クム子サシ角取）

八龍（正ヘ見廻シ左ヘ廻リ）古郷の（橋ノ方ッメ心持有）あの波（角ヘ）

父大臣（サシ込ヒラキ又二三足ツメテ）去にても（正）悲しさよ（シホリ右ヘ少廻リ足留テ）

又思日（ヒラキ合掌）ふむや（拍子右ヘノリ込）大悲の（サシ廻ス心ニテ右ヘウケヒタイニアテ正ヘッカ〳〵ト歩）

飛入ば（右ヘノリ込）左右へ（左右ヘ見廻シ扇ヒラキ）其隙に（正先ヘ歩下居扇左ノ手カケ立橋ノ方ヘ行）

おつかく（佐座ヘ見歸）かねて（右ヘ廻リ大小ノ前ヘ行掛ニ扇打カヘシ）ちの下（扇ニテカキ切ニ仕舞正ヘ二足ツメ）

玉を（左ノ手ヲ出シ腹ヘ當テ）剱を（ソリ廻リ扇捨平座面クモラシ）あたり（面直シ見廻ス）

約束（扇ヲ取二ツヤ子キ）引上（立二三足下リ扇メヽミテ）大臣（子方ヘ）

扨こそ（子方ヘ）海土人（ッメ足）此筆（扇立ニ持子方ノ側ヘ行下居扇子方右ニ取）

ふしん（子方ヲト〳〵ト見テ）今へ（シホリ立シテ柱先ヘ行）明て（手ヲロシテ子方ヘ見カヘリ）

親子の（子方ヘッメ）波の底（正ヘヒラキ中入）

子方扇ヒラキ両手ニ持角掛テ扨ハ亡母の御諸後出羽越一ノ松ニ留サシ分テシヤグマク内ニ入ヒラキ

此御經（經ヲ見テ）猶々（子方ヘ）深達（左ヘクリ大小ノ前正先ヘ出テ經ヒラキ見居ル）

あら有がた（裁後ヘ下リ）

イロエ（經卷テ左ニ持行子方ノ左ノ手ニ渡ス大小ノ前ヘカヘリ子方ヘ二足ツメテ直リ）

盤渉早舞掛リ達拜留左右

今此（子方ヘムヲ子サシ左右打込ヒラキ）〳〵龍女（角取扇左ニ取左ヘ廻リ品ニ）偖こう（子方ヘアシライ）

毎年（正ヘハヲテ出右ヘ取）佛法繁昌（正方サシ右ヘ廻リ小廻リヒラキ袖返レスエ足）

融

一聲越内ニ入氣色式付足右ノ手ニタグリ有緒左ノニ持ソエタル緒放ス

浦半の　正ヘ二三足出右ノ方ヘヨリ田子チロレ緒両手ニテタグリ竹上ニノセ直下居テ〳〵ニ立甘ヤウニシテ正問答心付

名に流　正

塩汲と　佐ヘ

さんゆ　見付柱ヘ

や月社　東ヘ

實　々　正

何　と　佐ヘ

古人の　佐ヘ

秋　暮　ツメ足

實や古　正

浦はの　正ヘ出足留テ

松風も　正ヘミヤリ

きりの　右ノ方ヘ見廻ス

い　ざ　佐ヘ

無かしの　左ヘ廻リ

千賀の　正

御物語候へ　大小ノ前ヘ行下居

あの難波　右ヘウケ

爰よて　正

一　生　佐ヘ

然れ共　正

貫之も　佐ヘ

實　や　正

浦淋敷　正右ノ方ヘミヤリ

老の波　正ヘ見モドシテ

あら昔　平座左ノ手ヒザヘ

懸しや　面直シ

音をのみ　両手ニテシホリ佐詞ノ内ヒザ立

さんゆ　謡作立シテ柱先ヘ

先あれに　東ヨリ南ヘ暇ニ見廻ス方角

此邊より　佐ヘ

扨　々　方角ヘ

あれこそ　正

うつら　佐ヘ

深草山　ツカ〳〵ト歩佐ノ右ノ袖取方角

木幡山　右ノ手方角ヘサシ敷テ

見ねたり　佐ヘ

詠めやる　右方ヘカヘリ正

猶　々　佐ヘ

西にみゆる　西ヘ方角

嵐山も　ツメ足

あらしふけ　正

さす塩　右ウケ

興に乗して　正ヘ二三足歩

わすれ　両手打合

長物語　佐ヘ

よしふや　面クモラシ

先いざや　右ヘカヘリ下居田子前立大小前ヘ行

ゑほ衣　左右ノスソヲ見テ正ヘ出

汲　は　掛汲仕舞

月をも　左右ノ桶ヲ見テ

汀に歸る　佐座ノ方ヘ行シテ柱先ヘ

かき紛　田子チロシ足留テ直ニ中入

佐問答ロンキノ内方角ニヨリ色々有ベシ能〳〵工夫肝要也

後出羽越内ニ入留ヒラキ又一ノ松吉

融の佐〜　我塩がま正　あの右ウケ

月宮殿左〜ノリ込ヒラキ　千枝出掛　電を廻らす サシ廻シヒラキ

さすや内ヘ入右〜ウケ正〜ヒラキ　爰よも正〜出掛　白河のサシ廻シヒラキ佐ノ方ヘ行

あら シテ柱先〜行扇ヒラキ右ノヒザツキスクウ左ノ手掛立　請たり左右〜ノリ込正〜出後ヘ下リ肩タタミ

盤渉早舞掛リ達拝留左右廿正

其影よ正〜ヒラキ　たとへば左〜ノリ込ヒラキ　月の上ヲ見面遣ウ

青陽左〜クリ角取　遠山正ミヤリ左ヘ廻リ　かげを正〜サシ付ヒラキ

又水中左ヘノリ込ヒラキ　釣針と扇ニテ頭サス　雲上の正〜出左〜扇取カイコミ

弓の陰下ヲ見ル　驚く拍子　一輪も左〜廻リ小廻リヒラキ品ニ

鳥へ正〜ムチサシ直ニツカ〜ト歩左ヘノリ込ヒラキ　魚は下居扇上テ下ヲ見　聞共扇右ニ取立角取左ヘ廻リ

月も西雲扇　かげ東方〜半重ノ扇　明方の右〜ノリ込

此光陰よ角取左〜廻リ掛ニ左ノ袖巻シテ柱先小廻リヒラキ袖返シ留スエ足

山姥

ツレツキ次第内ヘ入如常御尋あふするよていツレ下居さらい御立立太夫呼掛何ト無出内ヘ入真中ニ座スツレ此時下居正向トクト下ニ居今宵の御宿ト謡

山姥の歌のツレ〜　其爲よ正　如何樣ツレヘ

いや何おかツキヘ　よし足引の正　荒面白少面フセル心持

扨誠のツキ〜　年比正　恨やよツレ〜

道を極正　聲をあげツレヘ　ふしぎの正

我國々のツレヘ　此うへへ正　しはさせツレヘ

すはや西ノ方ミ上ルノヒ上リテ吉　さなき面直シ正打切ニ立　此山姥かツレ〜

其時我（正ヘ一二足出ル）　うつり舞（左ノ袖アレライツキノ方ヘ出ヒラキ）　いふかと（右ヘ廻リ中入ヒラキ）

後一聲頭越一ノ松ニテ留ヒラカズ謠

いや善悪　右ウケ　悦んや（正ヘ直ス）　ひやう〳〵と（左ヘ引杖両手ニムナツキ上見込）

いづれの（右ヘミ廻ス）　創りなさる（左ヘミ廻ス）　誰か家（内ヘ入サラ〳〵ト吉）

迚はや　ッレヘ　此う〳〵ハ（正）　扨面の　ッレヘ

のきの瓦（右ウケ上チミ廻ス）　何ゑたと〳〵ん（ッレヘツメ足）　鬼一口の（正ヘヒラキスエ足）

かみふり（正ヘ出テ）　其世を思ひ白玉か（足拍子杖トッキマセ左ヘノリ込）

人までも（ヒラキ打切ニ左廻リ）　浮世語（ッレヘ〳〵正ヘハヅレ）　はや〳〵（ッレヘ）

實此上ハ（正）　羽をたゝく（二ッ打合）　袖ハ白砂（左ノ袖アレライミル）

難波の（ッレヘツメ足）　山廻りするそ（正ヘ出足留地次第ニ甘扇ヌキ持大小ノ前床木）

鳥驚（ッレヘ打切正）　山更る（右ウケ見上ケル）　上求（正直ス）

衆生を（左ヘ二ッノリ込右ノ足引テ）　金輪際（下ヲ見シッカリト見心時打切直ス）　生所も（立二三足歩片左右）

上羽　左右打込ヒラキ　邪正を（身カヘヒラキ角取左ヘ廻リ大小前）　佛あれと（正ヘ出ヒラキ）

衆生あり（サシツケ右ヘミ廻ス）　山姥も（ユウケン二ッ）　柳ハ緑（扇左ヘヨセ正ヘミ上ケ）

花ハ紅ゐ（サシ込ヒラキ拍子）　扨人間（右ヘノリ込）　有時ハ（左右シテ正ヘ出打込）

休む重荷（ヒラキ品ニ扇カタヘ上ケ右ノヒザツキ下居面フセ）　月諸共（上ヲ見左ヘカフミ出三足正ヘ出ル）

里まで（右ヘ廻リ）　いをえた（右ウケ正ヘノリ込拍子二ッヒラキ）　枝の鶯（高クサシヒラキ左ヘ廻リ）

ゑづの（左右ノトキ）　鬼どや人の（右ノ方サシ正ヘ打コミ）　から衣（ヒラキ拍子左右正ヘ出）

うちすさむ（打込ヒラキ左ヘノリ込ヒラキ拍子長ク）　ゑて打は（両手打合）

只山姥（ッレヘ左ヘ廻リ）　世語りゐ（ッレヘムチサシヒラキ）　思ふハ（サシ角取カサシ左ヘ廻リッレヘ）

山めくり（甘扇サシ杖ツキ正働留小廻リ正ヘ直ス謠）　浮世を（ッレヘ）　讃佛乗（ッレノ方ヘ行）

荒御名殘（杖ニ左ノ手カケ下居）　かハる山の（立甘杖捨扇ヒラキ持正角取左ヘ廻リ）　月みる方（正ヘヒラキ上ヲ見ル）

冬は（サシ角ヘ行少廻リカサ面ツカイ左ヘ廻リ）めぐり〳〵て（小廻リ正ヒラキカヘシテ）塵つもつて（正ノ下チサシツケヒラキ）

山姥と（二重ヒラキ）鬼女か（左右ニテ正ヘ出打込スニ）みねよ（正ヘノリ込乗廻リクモノ扇）

谷ゝひゞき（下居テ下ヲ見ル）今迄（立サシ角取左廻リ品ニサシ留スエ足シテ柱先ヘ行小廻リヒラキ又杖ニテ舞谷ニ杖チステ橋ニテ留モ）

春日龍神

一聲半越内〳〵入

三かさの（右ウケ二三足ツメ〳〵ニ正）や是は（ツキヘ）さんゆ（正）

是は仰（ツキヘ）されハ（正）日本を（ツキヘ）

實々（正）是また（ツキヘ）今は（正）

其上上人（ツキヘ）心ふき（ツメ足）三笠の（正）

風も（右ウケ正）野べに（出ヒラキ）滕を折（ツキヘ歩ヒラキ）

皆と〳〵（ウケ二三足出）

加程の（左廻リ角取正ハ出）えてしふ（ツキヘ）只返す（右廻リツキヘヒラキ〳〵ニ眞中下居正）

春日の（ツキヘ）鹿の（ツキヘ）春こそ（ツキヘ）

入唐渡天（ツキヘ）雙林の（ツキヘ正）ふぞらく（立右ヘ甘）

我ゝ時風（ツキヘヒラキ正ヘヒラキ中入）

後早笛橋ニテ留又出羽ニモ

八大龍王（ヒラキ）ふやから（ヒラキハツレフム拍子左ヘノリ込スグニ右ヘ廻リ）

百千（右ヘ見廻レ）引つれ〳〵（サシ内ヘ入正ヘ出ヒラキ下居）聽聞する（面クモラシ）

其外（面直シ立）樂音（ヒラキ）ぼち（左ヘノリ込ヒラキ品ニタラ〳〵ト下リ）

後早笛橋ニテ留又出羽ニモ

引つれ（右ノ後チミ込正ヘ二ツ打ヤウニシテツカ〳〵ト出）座別（ヒラキ品ニ平座打返シ内ニ扇ステ打杖ツキ持）

立ハ絲（イ立打杖ツキ左ノ手ニテ頭取）空色（見上ル下ヘミ廻ス）沖行（サシ右ヘ廻リ小廻ヒラキ拍子舞働）

冠を（打杖ヲ上テ面下ケ）所ハ（身チカヘ角ヘ）雲ゟ（少ク廻リ右ヘノリ込左ノ袖カヘシ）

飛火の（左ヘ廻リ正）まやの（サシ分右ヘ廻リツキヘミ入）是まて（ムチサシ出飛廻リ下居）

渡天ハ（クワツシニツ）　扨佛跡（立右ヘ廻リヒラキ）　尋ても（八ツ拍子）

雲ゑ乘（サシ出飛廻）　南方ゑ（右ノ方ヘサシツカ〳〵ト歩）　龍神ハ（身カヘ角ヘ行）

けたて（飛上リテ拍子キサミ）　其尺（左ヘ廻リワキ座ニテ）　天（ゆ上チサシ）

地ゆ（下チサシ橋ヘ行ノリ込飛カヘリ下居袖カツキ留）

又其尺重引天ゑムチサシ右ヘフミ込ハたのまりツリ廻リ後ヘ下リ飛カヘリ下居モ仕舞同様

引つれ〳〵正ヘチヒ出飛廻リ平座留袖カヘス

鵜飼

一聲越松明フリ乍出内入留謡

鵜を休ふするにても（松明フリ右ヘウケ二足斗歩ワキノ方ヘ松明フリ上テワキヲ見ヤ是ハト謡）

實々里（ワキヘ）　是ハ鵜（ワキヘ）　仲尤にて候（ワキヘ）

扨ハ其時（ワキツレヘ）　なふ其（ワキツレヘ）　恥し乍（ワキヘ）

跡を（謡乍大小ノ前ニ下居松明右ニチク）　今仰ゆ（ワキヘ）　にくき者（正）

其時左右の（合掌）　扶る人も（手ヲロス）　其鵜遣（ワキヘ）

言語道斷（正）　荒有難（ワキヘ）　しめる松明（タイ松モチ立二ツフリテ）

藤の衣（左ノ腰ノ扇ヌキ少シヒラキカケ左ノ手ニモツ）　島津（笛座方ヘ行カヽル）　此川波（正ハ右ミ廻ル）

へつゝ（扇正ハチ出ル松明フリ上テ）　面白の（正ヘフカ〳〵ト出）　底にも（フリ分テ下チ見左ヘ廻リタイ松フリ乍）

追廻し（左右ヘチイ乍正ヘ出チヨト足留テ）　すくい（扇ウケテ見）　隙なく（右ヘウケ跡ヘ下リ）

わすれ果（扇ニテヒザチ一ツ打）　面白や（ワキヘサス）　漲る水の（松明フリ乍正ヘ出）

玉島川（フリ分テ下チ見面遣ウ）　ふしぎやな（松明上ケ見ル）　かけの（松明上ケ下チ見テ）

思日出たり（直ス）　月に成（東ノ方ヘ見上ル扇松明捨ル）　悲しさよ（両手ニテレホリ打切）

鵜舟の（右ヘ甘）　此身の（ワキヘツメ中入面ノコシ）

後早笛一ノ松ニ留

抑彼者 正ヘ

一僧一宿 袖カヘシ ワキヘ

まよひ 角取袖カヘシ 左ヘ廻リ

眞如の サシ右ヘ廻リ正ヘ小廻リ ヒラキ拍子二ツ強ク甘

實有難 角取左ヘ廻リ

二ツも ハヅシ二ツキサミ三ツ もおろまてフミツメ

沈み果て 平座

是を見 扇ヒラキユ ウケン二ツ

實往來の サシ右ヘ廻リ小廻リヒラキ 左袖カヘシ留スエ足

龍虎

一セイ橋ニテ向合二句正坡不開ニ謠内ヘ入如常

金紙を 左ノ足引身チカヘ扇逆樣ニシテなく拍子一ツ

惡鬼心 正ヘ袖チロス

あらく吹て 正ヘ小廻リ ヒラキ品ニ

魔道よ 左ヘノリ込ヒラキ拍子一ツ 又ワキヘサレヒラキモ

う れ ハヅシフミ跡 右ヘノリ込

只一乘の 正ヘッカ〳〵ト歩

此經の 扇ニテ一ツ打ワキヘサ スモ又左袖カヘシテモ

僧依を ワキヘムチ サシヒラキ

無間の右ヘノリ込

法花の 内ヘ入右ウケ 正ヘ出ヒラキ

千里の 右ニテ頭 取面遣ウ

歸る山路 入替 如常

星の國 正ヘ打切ニツレ ハ笛座ニ下居

何よかハ 左ヘ廻リ正 〳〵ニ甘柴取

向よみへ 正ノ上 チ見ル

蝸牛の 正

戰ふ事 出下居杖 トル正

竹の林の 此時分ニ柴右ノ方ヘ 置尤緒トクト卷付置

暇ゆさん 立乍柴ヲ右ニテ 取肩ケ直ニ中入

後一疊臺作物山引廻シ掛大小ノ前ヘ出ス太夫中ニ入出ル ツレ早笛ニテ出一ノ松ニ留又謠ノ内顔れ出る〳〵出テモ

かくて 七ツ拍子〳〵ニ 内入正ヘ出カケ

竹林岩淵 引廻シチロ シ正ヘイ立

問答無別義

果しハ 右ウケ

實御不審 ワキヘ

龍虎の ワキヘ

かハらぬ ワキヘ打 切ニ正

龍駕と ワキヘ

ゆふつくよ ッメ足

心せよ 正ヘ出ヒラ キワキヘ

あの竹林 ワキ正遣 クミヤリ

諍日の ワキヘ ッメ足

習あれハや ワキヘ

まのあたり ワキヘ

身をかくし ワキヘ

惡風を 左ノ袖 カヘシ

おほひかゝる 袖カヘシ遣物ヘヨルヤウニサ シ分ワキ座ヘ行遣物ヘ向下居

一方に雲 遣物ヘ飛出テ正 ヘッカ〳〵ト歩

敵を追手（ワキ正ヘサシシテ柱先ニテ小廻リツレヒラキ飛廻リ下居）

悪虎を（シテ立ツレ出カケ打杖ヲリ上メカヒニ打違廻リ）

舞働（舎利ニ同シ少遣モ有事モ）

右も（右ヘサシ少ク廻リ竹杖ヲ見テ）　勢たけく（シテ拍子一ツ）

金龍に（ツレヲ見出カケル心）

まかんと（シテハ右ヘ飛開ツレハ左ヘ飛開）　獲ひ（シテハ左ヘ飛開ツレハ右ヘ飛開テシテハ飛カヘリ下居）

そむけて（シテ左ヘクワツレ立少ク廻リツレハスグニ入）

遙ゆ見（マクギワヘミヤリ）　無念の（立臺ヨリ飛下リ身カヘ角ヘ）

又竹林に（シテ柱ノキワヘノリ込飛カヘリ下居留）

始ニ道物出シ中入前ツレヨリニモ

夜討曾我

次第ニテ出内入立向如常名乗ノ内下居道行常ノ通道行スミ正ヘ向ト皆下居

金龍雲（ツレ立左ニツフミ込飛開シテキメル）

飛龍の（ヒラキ八ツ拍子）

左も（左ヘサシ分テ見ル）

悪虎を（ツレシテノ方ヘ出カケシテモ少出カケ）

岩ほに（臺ヘ上リ下居）

又竹林と（少廻リ右ヘフミ込左ヘ廻リ品々）

いかゝ時宗（十郎シテヘ向シテ下居手ヲツキテ）　畏てゆ（十郎ワキ座ニ床木ニカヽルシテ後見座ヘ甘二人ノツレハ橋ヘ行甘シテ正ヘ出二人モ正ヘ向下居）

如何に時宗（手ヲツキ下居間苦心持）　扨彼有増（十郎ヘミ込心持）

有増とハ（十郎心持ハツキリト）

畏てゆ（シテ立二人ヲ呼出スツレワキ正ヘ出ルシテ大小ノ前ニ下居）

團三郎兄弟（手ヲツキ二人ツレ十郎問答）

ふつゝと（二人ニ直ス心持）　おふ五郎殿（シテ）

畏てゆ（シテ少シ立居ナヲリツレノ方向問答）

しかと（シテ少刀ニ手ヲカケテツレヘキメル）　あふ夫よて（シテ身ヲ直立十郎ヘ向手ヲツキテ罷歸ふすと）

いかに鬼王（二人向合）　尤ゆてゆ（二人ニ右ノカメヌギ少刀ニ手ヲカケ左ノ手ヲコシヘカケイ立サシヲガヘル心）

あゝ暫（シテツカ〳〵ト歩二人ヲ両手ニテワケル二人ニ平座）　やあ兄弟（二人ニヒザ立手ヲツキテシテ立笛ノ上ニ座ス）

さらへ筐（二人ニ手ヲツクリノ内ニ肩キル）　ふかくの（シテモ皆シホリテモ）　文こま〳〵（十郎文持左ヘ）

飛花（團三郎扇ヒラキ左ニ持立十郎ノ前ヘ行下居文ヲトリモトヘカヘル）　其時時宗（シテ守ヲ出両手ニ持見ル）

此世の（守ヲイタヽキ鬼王扇ヒラキ左ニ持立ウケ取モトヘカヘル）　さらばよ（二人ノツレヘ向ツレハ時宜スル）

涙ぞ文（二人ニシホリ乍立シヅカニ入シテ十郎モシホリテ）　詠せし（十郎ハ立レテモ立二人ノツレ入ヲ中入早鼓見ヲクリシテ柱先ニテ足留シホリ）

後古ヤ五郎五郎丸ナワ取一聲越一ノ松ニ留　又五郎丸跡ノ謠ノ内ニ出
時を作つてト内へ入ワキ座へ行
後早笛松明ツリ乍出二ノ松ノ邊ニテミカヘリ一ノ松ニテフリ分ミ廻ス謠出ス

十郎殿〳〵（右ノ方へウケ）　口惜や（正）　散々に（心モチ）
と ゝ（左へ面遣ウ）　かしこ（右ノ方面遣ウ）　無念やな（松明捨面クモラシ下居テモ）
味方の（ツレシテノ方へ向）　鍔もと（太刀ノツカニ手チカケシテヘキメルシテ必持）先に手並（シテ内へ入シテ柱先ニテ太刀カザシツレチミ込）
かゝりける（ツレ直古ヤ）　御内方（ヒラキ）　焚會か（拍子）
五郎か面ふ（太刀ヌキ切クヽ）　御前ふ（五郎丸正面先ニテ下居ワキシテ甘）
立廻り（角取左へ廻リカヽリニ笛座へツカ〳〵ト行五郎丸チミ込飛ヒラキキメテシテ柱先へ行小廻リ正へヒラキ留跡謠ノ内切組右體）

猩々

渡リ拍子内へ入左右打込ヒラキ留

盃も（正へ出ヒラキ左右打込扇ヒラキ）　みきと（上ケ扇左右打込）　ふけ共〳〵（二ツヤチキ出）
更ふ身ふハ（角取左へ廻リ）　酒ゑ（正へヒラキ）　稀人も（ワキへツメ）
月星ハ（頭取見上ル）　所ハ（正へ直）　猩々（出ヒラキ）
芦の葉（右へ廻リ正へヒラキ）　とうとうち（打合拍子）　聲すミ（右へウケ正へヒラキ甘ハカヽリ三段舞）
有がたや（ワキへ）　此つぼに（正）　只今返し（ワキへ行下居）
世も盡し〳〵（正ニ立）　萬代迄の（左右打込ヒラキ）　のめ共（扇左ニ取ハチ出シ）
かけも（左へ少廻リ正へ出カケ）　足本ハ（跡へ下リ下居平座扇カホへアチ）　さむると（扇右へ取立サシ右へ廻リヒラキ留スエ足）

小鍛冶

呼掛橋ガヽリニテ留内へ入

實々不審ハ（ワキへ）　地にひひく（ツメ足）　かべに耳（正）
かくれハ（右ウケ）　光ハ何か（出ヒラキ）　只賴め（角取左へ廻リワキへヒラキ〳〵ニ二三足出下居）

奇特と（ワキ）　始玉へり（ワキ）　遠山に（正ノ上チミル又右ヘツケナモ）

詠させ（ワキ〜又アシワイナシニモ）　尊へ劔（イ立扇チミル〳〵ニ立）　炎も（ツカ〳〵ト出ヒラキ）

四方の（左右ヘ扇ニテ切心ヒラキ）　劔の（右ヘ廻リ出掛ケ）　ほのをも（サシ〳〵ト歩少ク廻リ）

天よりくやき（正ヘフミ込上チ見）　地は満々（左ノヒザツキ下居）　みやう火へ（立左ヘ廻リ小廻リ正）

たちまち（正ヘヒラキ拍子一ツ）　其後（角取左ヘ廻リ定座ヨリ）　唯今汝の（ワキヘヒラキ右ヘ廻リ）

傳ふる（ワキヘムキサシヒラキ二三足出下居）　よし誰（ワキヘ）　其時我（イ立）

給へく（立）　通刀の（拍子フミカヘシワキ正ノ方ヘ二三足出カケ）　御ちから（ワキヘヒラキ）

夕雲の（サシ右ヘ廻リ中入小廻リヒラキ）

後早留内ヘ入留八ツ拍子〳〵ニ正ヘ出カケワキヘムネサシヒラキ身チカヘ右ヘ廻リ小廻リヒラキ舞働

童男（出臺ヘ上リ下居）　宗近は（ワキヘ）　扨御劔（左ノ手ヲ出ス）

ちやうと打（フリ上両手ニテ一ツ打）　ちやう〳〵（ワキ三ツシテ三ツ打マセテ）　つちの音（臺ヨリ後ヘ飛下リダラ〳〵ト下リ飛廻リ下居）

天地に（頭取上下ヲ見廻ス）　神躰時（立臺ヘ上リ）　あさやうに（一ツ打劔ヲモチ飛下リ）

刄へ（後ヘ下リサシ右ヘ廻リ正ヘ出カケ）　天のむ（左ヘ引劔ヲ見テ）　是なれや（ヒラキ）

天下第一（二重引〳〵ニ拍子フミカヘシ）　四海を（サシ右ヘ廻リ定座）　則汝の（ワキヘムキサシヒラキ）

いなりの（劔ヲ持両手ニナワキツレノ前ヘ行下居劔下置）　是まで（立後ヘ下リ時宜シテ飛廻リ下居）

又村雲（左ヘ又飛カヘリ立橋掛ヘ行フミ込正ヘ飛廻リヒラキ）

大江山

遣物一疊臺小宮大小ノ前ニ出ス太夫俳呼出ス出ニノ松ニ留童子と諧俳ヘ問答スキ内ヘ入ワキ座ニ床木ニ掛いかゐ客僧ト諧問答心付ベシ

かまひて（左ノ手ワキヘサス）　幾野々（橋ノ方チミル）　いさ〳〵酒（立ワキシナニシヤクスル扇ヒラキウケ）

扨御肴（立大小ノ前ヘ行正）　我もかう（拍子フミ出ヒラキ左右打込）　上羽（左右打込ヒラキ）

頼母し（ユウケンニツ）　面も色づくか（ワキヘ）　赤きへ（扇左ヘヨセテ）

鬼とな　直レ右ヘ廻リ出カケ　我も　ワキヘムチサシヒラキ　うち身にハ　拍子右ヘノリ込

ふれて　両手ニテ二ツマチキワキノ方ヘ行下居　猶々廻る　扇左ノ手ヲ正立ニテ　天も花　頭取上チ見廻ス

足本ハ　左右ヘタラ〳〵ト下リ平座　雲折敷て　扇ウケ正ノ先ヘ出扇チロシ右ヘ廻リ　荒海の　笛座ヘミ入

おしあげて　扇ニテ押アケル心ニ中入ヲ直ニツクリ物ヘ

後稲妻震動引廻シチロス獅子目カヅキ平座

情なしとよ　ワキヲ見ノシメ上ケヲ　横道無物　ウツムキ

山河草木　立作ノシメ後ヘヌキ飛チリ右ヘ甘ヤウニテ小廻リワキヘヒラキ拍子舞働ワキト言合次弟トメ蟹ヘ上リツクリ物ニ手カケ

走りかゝつて　柏子フミ飛チリ打杖フリ上　へつたと　一ツ打連飛廻リ

ひすと　ワキヘ取付一ツ廻リ　頼光下に　ワキノセナカヨリ左ノ手カケ蟹ヘ引上ケヲ

鬼一口　打杖フリ上ワキヲキメル　にいやと　中カヘリニテモアチノケニテモ跡立入

鉄輪

次弟内ヘ入如常大小ノ前ヘ向詰出ス

消ん程　右ウケ　月遅き　二三足歩　貨布根　大小ノ前ヘ着笠ヌキ左ニモチ正

暫休ふ　大小ノ前ヘ行床木ニカカリ俳ヘ問答　美女の　右ノ方ヘ面道ウ立　黒雲の　正ヘツカ〳〵ト行上チ面道ウキット心持

おもふ中　正ヘ直ス右ヘ廻リヒラキ扇々笠ヲナゲ中入

又床木ニテ仕舞モ有色々有ベシヨク〳〵工夫有ヘキナリ

ワキツレ内ヘ入ワキ甘テ造物棚正面ノ先ニ出ス一畳蟹棚ノ前ニ置

後出羽不越一ノ松ニ留

たちまちッメ　懸の身の　右ウケ　我ハ貨布根　正ヘヒラキ

かうべふ　頭サス　ほのほの　内ヘ入　鬼と成てッメ

ふしたる　造物ノエホシヲミテ蟹ニ上リ左ノヒザ立下居打杖ツキエホシヲキット込ミ込

なとしも　エホシ能々見ル　荒恨しや　左ニテシホリ　捨られて　手ヲロシ平座

思ふ 立臺ヨリ下リシテ柱方ヘ行

妻を 角取左ヘ廻リ正

起ても 三ツクツシ廻リ平座

思ひの イ立心ニテ造物ニミ込立右ヘ甘ヤウ

思ハぬ 正ヘヒラキスエ足

人の歎ハ 出ヒラキ

鬼と成も ハツキリト面直ス

いて〳〵 造物ヘミ込ニ出臺ヘ上リ

髪を 高ニ左ノ手ヲマキキツトミル

うつや 二ツ打

今さら 高ミル

扨こりや 一ツ打

あだし男 ミカヘリ造物ノキツヘツカ〳〵ト歩

恐しや 後ヘ下リ

出よ〳〵 右ノ方ヲ正ヘ二ツ打ヤウシテ正ヘ歩

給ふぞや ヒラキ品ニ打杖ニ左ノ手カケ拍子

通力 ムチサシ角ヘフミ込テ打杖肩ヘ上テ

ちからも ツリ廻リ後ヘ下リシテ柱先ニ

時節を 正ヘシツカリト見込

先此度 打杖拾扇ヌキヒラキ立

云聲斗 角取左ヘ廻リ品ニツキ座ヘサシ一ノ松ヘノリ込扇左ヘ取飛廻リ下居扇カヅキ留

張良

またハ ヒラキ

いのちハ 造物ヘサレヒラキ

おもひ 左ヘノリ込拍子ヒラキ

ふり上 打杖フリ上テ

夢現 面直ス拍子フミ作右ヘウケ心

殊更 手ハナシ臺ヨリ下リテレテ柱ノ方ヘ行

三十番神 サシ分右ヘ廻リ右ヘウケ

神々の 右ヘ廻リ

廻り逢べき 平座

呼掛同様ナリ橋ニテ留

我ハ先刻より 正

おくれ玉ふあ ツキヘヒラキ右ヘ廻リ正ヘヒラキ中入

後大ヘシ橋ニテ留

老人なり ヒラキ

敵を 左右ヘサシ分右ヘ廻リヒラキ

いかよ ツキヘ

おとゝ玉へゞ 沓ナゲ出ス

早留ニテツレ出内ニテ留

ふしぎや 拍子

流るゝ 沓左ノ手ニ持右ヘ廻リヒラキ舞働紅葉狩ニ同事

ゑや其 ツキヘ打切ニ内ヘ入

かならず ツキヘ

高祖よ 少出カケ

駒を シツカニ内ニ入シテ柱先ニ立臺ノ右ノ方ヘ上リ床木ニカヽル

汝よ ツキヘサス

遙の川に 見付柱ノ方見テ

馬上より 面直ス

紅井の 左ノ袖二ツアレライツキノ方ヘ行

浪間に 出ヒラキ

剣の光よ 後ヘタラ〳〵ト下リ

持たる 沓出スワキ取飛カヘリ下居　百公馬 シッカニ盞ヵ下リワキヘ

彼一卷 經出シ左ニ持ワキヘ渡ス扱盞ノ前ニ立　秘曲 ワキヘ

汝か心を ワキヘヒラキ　大蛇ハ 身カヘヘシリ入

藍染川

子方先ニ立次弟ニ出内ヘ入子方真中ニ立太夫ハレテ柱ノ先ニテ向合次弟如常又橋ニテモ

此子が爲 向合　長門の 正ヘ　宰府ふ 向合正

來りゆへ 右ヘ取橋ノ中程ヘ行左ヘ取内ニ入子モ入シテ柱ノ側ニ立ワキツレヘ向案内カフ　此方へ御入ゆへ 太夫地頭ノ前子ワキ座下居

更へ此文 懐中ヵ文出左持渡ス　いかゝ旅人 ワキツレヘ向合文左ニテウケトリ　みうするにて と 文ヒラキヨム

荒つれふや 文ヲ面遣イミル　あら淺ましやと 右ニテシホリヲイカニト手チロシ文マキ右ニ取下ニ置

孤となす シホル　聞つるふ 打切ニワキ正　思ふ付て 子方ヲ見上ル心

悲しさよ シホル　御出ゆへ 云テ立真中ヘ行子モ立少出子方ヘ向テいかゝト

善哉〳〵 國ニテ二ツマチキ　又 彼 ツレ立

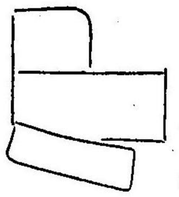
石公 正ヘ出両袖巻シテ柱ノ先ニテ小廻リヒラキ留又遙の臺ヘ上リ両袖カヅキテモ

思日へつら 打切ニ下居正子方ハ本ノ座ヘカヘリ下居　浮身哉 シホリ

とゝ角に 子方ヘ　夕がほの 立先ヘ出　身を投る 下ニチヨト居〳〵ニ立時正ムカズニ立中入

シテマクニ入ト後見出小袖箔正ノシテノ下ニ居メル所ヘ置

正



如此癸上トハ替ルナリ

急て御覽ゆへ 云テ子方立正ヘ出小袖ノ所ヘ行下居なふ母上ト謡　淺ましや シホリ

藍染川ゑ 立二三足歩トワキツレトメルワキ座ヘ行　御形見ふ 文渡ス取テ懐中ス　此方へ御出ゆへ 立シテ柱ノキワヘ行ワキコ向此間ワキト書合次弟何様ニモ

然るへうゆ 此間道物小宮大小ノ前ヘ出太夫入出ル幣盞出ル事モ　顯はれ 引廻シチロス

西都よ 道物ヨリ出右ヘ廻リ　有難の 正ヘワキヒ　抑當社と〳〵 拍子

ぶむたん ヒラキ　みやう〳〵 サシ正ヘ出右ヘ臥シ左ヘ廻リ立左ヘ廻リ　請難き 正ヒラキ右ヘノリ込

智識 ワキヘヒラキ　誓の春ゑ 角取左ヘ廻リ品ワキ座ヵサシ小廻リヒラキ袖返スエ足留

脇能ニ加茂有時ハ柳當社の〳〵に甘幣後見ニ渡ス扇ニテ舞ヒヲカズ

松山鏡

ツレ就アシライニテ出内ヘ入留子ハ親ホト謡クリニ大小ノ前ニ床木掛リ
子方大小座座付出ワキ座ニツク
太夫早笛橋ニテ留

熟鉄の 扇フリ上テ　うつ蟬の ハッ拍子内ヘ入角取左ヘ廻リツレチミテツカ〳〵ト行引立
ひつさけ 鏡ノ前ニテ下ヘチシスエル後ヘ廻リ　あれみよ 正ヘヒラキハッ拍子舞働　ふしぎやな 出拍子一ッ〳〵ヨリ正ヘ
鏡のかけ 二足ツメ　かうべに 頭サレ　いたゐい 二重ヒラキ右ヘ廻リ正ヘ出カケ
さながら ムキサレヒラキ　みそらか 上ヲサシ右ヘ廻リヒラキ　きかす 七ッ拍子右ヘノリ込
すはや ツレヘグワツレ二ッ飛廻リ下居　かへるうとて 角ヘ行少ク廻リノリ込右ヘ廻リ品ニ
大地を ワキ座ヨリシテ柱ノ側ヘノリ込拍子飛廻リ下居留

土蜘

舞ニ臺ワキ坐ヘ出ス頼光太刀持出頼光臺ヘ上リ平坐葛桶ニヨリ掛ル太刀持笛ノ上ニ坐ス
次第ツレ女出内ヘ入次第如常太刀持ノ方向

いかに誰か ト云太刀持立ニ三出テ答ル　こゝに 上うするにては ハ坐ヘ行下居
ト頼光謡ハ立臺ノ前ヘ行下居イカニト云畏ッテ立女ツレヘコナタヘト云座ヘ行女ツレハ其中ニ下居頼光ヘ問答イロヲツクシテト立シツカニ入
太夫謡ノ内ニ出一ノ松ニ留又ハ一セイモ

如何に頼光 ツレヘキツトミル　ふゝぎやな シテ〜
五躰を ツレ平座　身を苦る ツレヘキメル
枕ふ有し ツレ太刀ヲ取立ヌキフリ上飛ヲリ　蜘の振舞 内ヘ入ツレイ立テミル
つゞけ様よ 拍子四ッ　化生と シテ正ツレ打切ニ右ノ肩ヌキハサムモ
シテヘ切付ルト左ヘハヅシテ臺ヘ飛上リ
ちやうと シテヘ切付ルト左ヘ
あーも シテノスソヲ拂ト飛ヲリヒサツキフリカヘリ立ハシリコミ
ふきふせつゝ ツレハスソ拂乍シテノセナカヘ切付レテ入ヲ追カケ橋ヘ行ミ込内ヘ入臺ニコシカケル
いしくもへやく ワキヘ正ヘ直語いそひて參り候ヘ太刀サヤヘヲサメ中入太刀ヲ取後ヘツクワキモ入

後一疊臺大小ノ前ニ畳太夫造物山ニ入出一疊臺ヘ上ル

あやしき　引廻レ チロス　千筋の　造物ノ前左右ノ巣ヲハライ　ふげかけ　左ノ巣ナケ出此トキ後見方巣ナケル

たをれ　造物ヨリ飛ヲリ舞働ワキト云合次第

舞働の内橋ニテワキ〳〵左ノ手巣ヲカケル朝臺ヘ上リテ

大勢乱　臺ヨリヲリ打杖ヲリ上ワキノ方ヘ行　すとし　後ヘ下リ作ワキツレノ方ヘ行カヽリテ　切ふせ〳〵　左ヘ廻リ平座立入

谷　行

子方先ニ立出ワキ座ニ下居子方笛ノ上ニ下居ワキ出名乗ヲ案内カフ

誰よて　子方立二三足歩ワキヘ　御ゆゆへ　子方座ヘカヘリ下居シテヘ　此方へ御入　ワキヘ

歸らふすゐれてゆ　ワキ立テ行ト子方立三足斗歩　のかに師匠に　ト詞

母御よゆへー　ワキ立歸ル子方本ノ座ヘ下居　仰承りゆ　ワキヘ

御身の　子方ヘ　涙なるらん　シホリ　此うへなれば　子方ヘ

別へ　ワキ子方立二三足程行　晴ぬへ　立二三足出子方入中入ヲ見遣リシホリ

後早笛ニテ出一ノ松ニ留

きゆく　スエ足〳〵ニ内ヘ入　行者の　ワキノ前ヘ行ヒワキ下居　かうべを　時宜シテ臺ヘ上リ

土木　前ノ木ヲキリ　ほんーやく　ウシロノ木ヲキリ　上ふる　衣ヲトル

彼小童　子方ヲ引立　行者の　ワキヘ子ヲ渡シテ後ヘ飛廻リ下居　さかくも　立後ヘ廻リ

みさきを　正ヘ出ナカラ　分つくくり　袖カヅキ　のぼるや　右ヘノリ込

雲霧　角取左ヘ廻リ　大峯かけて　橋ヘ行　はる〳〵と　拍子二ツフミ廻リヒラキ留

中入後子方ワキツレワキ何トナク出立並常の通先ウ渡リ候ヘ子方座ニツク能々休み候ヘト云ウシロヲ向頭巾篠掛取ワキノヒサヘヨリカヽル此内ニ臺ヲ出ス正先ヲアケル也モチノ木ニ切目入テ置ワキツレ子方引立行臺ヘ上リツキヲトスワキ座ノ方ヲ上ミニシテ子ヲ居ノシメキセル

巻　絹

佑次第内ニ入如常道行中ノ打切ニウケ二三足歩着足衣チロシテ正

まづ〳〵（ワキ正ウケ二三足歩）　や冬梅（心持有正ミ廻シテ）　實是成（正ヘ見ヤリ）

何とゐく（正ヘ出下居絹下置）　南無天満（合掌）　いそぎ（絹ヲ持立シテ柱先ヘ行）

俳ヨビ出俳佐ヘ答テ都ヨリ異中ヘ行佐ヘ向絹下ニ置下居

太夫呼掛二ノ松ノ邊ニ留

人輪（正ウケ）　其縄（佐ヘ幣ニテサス左ノ手ニテモ）　とけや（正〳〵静ニ入）

引立（佑ノ側ヘ行）　此手を（佑ヲ見テ）　心つよく（正面クモラシ心持有）

何とか（佑ヲ見テ）　情なや（シホリ正）　此者へ（佐ヘ）

猶も（佐ヘ）　讀しへ（佐ヘッメ足）　本より（正）

納受（正ヘ出足留テ）　疑へせ（佐ヘ）　歌人（佑ヲ見）

免させ（佐ヘ二足ツメ）　またへ（甘幣拾正）　げに疑（佑ノ側ヘ行下居）

打解（縄トキ佐ノ方ヘナゲ出）　佑立扇ヌキ持笛上ニ座ス太夫クリニ扇ヌキ持立大小ノ前ヘ行

ねふり（扇ヒラキユウケン）　やうやく（右ウケ）　一首（角取）

天の（見上テ左ヘ廻リ）　遊ふいう（左右打込）　上羽（左右打込ヒラキ）

かひら（身カヘ出ヒラキ）　文珠の（右ヘ廻リ右ヘ出掛）　佛〳〵（サシ分角取カザシ左ヘ廻リ）

云ず共（佐ヘムチサシヒラキ）　かみの（右ヘノリ込佐ヘ）　佐鋼終テ甘扇サシ幣持正面先ヘ出下居

謹上（幣フリ分拝右ノヒザニツキ）　されば（立静ニ右ヘ廻リウケ正ヘヒラキ）

神楽　掛連拝　留左右

ふしぎや（左右打込ヒラキ）　さもあらた（サシ込ヒラキ）

神がたり（甘扇サシ幣持正ハノ舞留小廻リヒラキ）　十惡（サシ込ヒラキ）

中の（正ヘ出掛）　藥師（ムチサシ直ニ角取左ヘ廻リ）　十まん（大小ノ前小廻リヒラキ）

數々の（サシ廻シ）　彼かむ（二重ヒラキ幣肩ヘ上テ）　御幣も（二ッ三ッフリ分正ヘ出テ）

空に飛 上ヲサシ　かけり 右ヘノリ込左ヘノリ拍子一ツヌキテヒラキ品ニ右ノヒザツキ

地に又 クワヘル廻リ立ワキ正ヘ出掛　袖をふ 左ノ袖佐ヘアシライテ　かうろく サシ右ヘ廻リ

足まで 佐ヘツメ　神は 幣ニテ頭サシ後ロヘヲトス　云捨る 平座

聲の 立右ヘ廻リヒラキスエ足留

鐘馗

呼掛ニテ出橋ニテ不留スクニ内ニ入

折からに ワキヘツメ　草虫 正ヘ

とへ共松は ヒラキ　實や何事も 左ヘ廻リ　尋ぬるに 右ヘウケ正ヘ出

樂みワキヘ　いつかハワキヘ　いつを ワキヘヒラキ真中ニ下居クセニ正

氣色替 イ立スグニ立正ヘヒラキ　傳へ聞 拍子六ツ　淨藏 角左ヘ廻リ正ヘヒラキ頭トリ　迚見みにしワキヘ

其高さ 上ヲ見　こゝう 正ヘ拍子ニ飛廻リ下居　火焔を扇ヒラキ立ニウケレ二ツ

水を踏 拍子六ツ右ヘノリ込　さら〳〵と 角取左ヘ廻リ品ニワキ座ヨリサシテ柱小廻リヒラキ中入

後早笛内ヘ入留

國土を ヒラキ　寶劔 角取左ヘ廻リ正ヘヒラキサシ右ヘ廻リ小廻リ正ヘヒラキ打切ニ甘正

我と亡せし ヒラキ　ひるがへと 左ヘノリ込ヒラキ　實誠ある 左ヘクリ角取

禁裏 少上ヲミル心左廻リワキ座ニテ橋ヘヒラキ身ヲカヘ橋ヘツカ〳〵ト行　劔をひろ 右ヘ廻リ品ニ袖カイコンテ左ノ袖ヲカヅキ内ヘ入

顯れ出る 袖ヲロシワキノ方ヘツカ〳〵トツメテ　づた〳〵に 二ツ打拍子六ツフミ

まのあたり サシ右ヘフミ込テ　此劔の 左ヘ引劔ヲ上テ見ル　天に 上ヲサシミ入テ

地に普く 左ヲ引下居クワッシ廻リ立サシテ柱先ニテ小廻リヒラキ袖カヘシスエ足留

野守

一聲内ヘ入留如常始ニツクリ物出ス

天の原 右ヘウケ　三かさの 上ヲ見　うれハ シヅカニ正ヘ向

春日長閑 二足程正へ出ル　是こう 正　是成塚 造物へ

されハ 正　影 を ウケ正へ出　むかしの ヒラキ

實 や 左へ廻リワキヘヒラキ〳〵ニ正　さらハ語て 眞中ニ下居正　有べきぞと 立杖サケテ正へツカ〳〵ト歩

寄見れバ 下ヲ見杖逆手ニシテ　あるよと 杖取直シ乍後ヘ少下リ杖ツキテ　能 々 正へ少出

水にうつれる 下ヲ見下リ　鷹は木居 ムナツキ右ノ上ヲ見上ル杖ニ左ノ手カケ　扨こう 右へ甘

思ひ思はす 正へ出ヒラキ眞中へ下居　誠にかしとき 立角取左へ廻リ

世語を ワキヘヒラキ　すゝむ涙 シホリ乍下居正杖後見取扇ヌキ持　いかにして ワキヘ

扨 や 正　疑はせ ワキヘイ立　誠 の 正へ立右ヘ甘ヤウニテ右廻ヒラキ中入

水かゞみ ワキヘヒラキ二重ヒラキ中入造物へ入

後出羽一段取チロシ過テ飄出ス

鬼神に 造物ヨリ出右ノ方正へ出ヒラキ引廻ネ取　恐れ玉はゞ ワキヘ　塚 に 造物ノ方ニ足程出ル

夜ハまだ 正へ　れーもむて ッメ足　台嶺の 正へヒラキ右ヘノリ込拍子角取左へ廻リ正へサシ出テ

一こんから サシ分右へ廻リ小舞働廻リ正へヒラキ　南 西 方角チサシ右へ廻リ　東 方 方角へサシヒラキ

此鏡に 鏡チ下ヲ見ル　八 面 面遣ウ

明かに 鏡チ見ル　天 を 両手ニモチ正へ出高ク上下居鏡ヲ見ル　扨又大地 左へ鏡持ウツムケテ下ヲウツス

見れバ 拍子　先は地とく 拍子長クフミ返シ　鏡とあつて サシ込ヒラキ鏡ヲ見

罪の輕重 後ヘ下リ飛ヒラキ下居　打や鉄杖 扇ニテ右ノ方三ツ四ツ打　見えたり ワキヘ鏡チミセテ

扨こう 両手ニ持立ワキノ前ニ行後ヘ飛歸下居　すはや ワキノ方ヘグワッシ　かへるぞ 立角ヘ少廻リフミ込左ヘ廻リ品ニ

大地を ワキ座ヨリシテ柱先ヘフミ込飛歸下居留

頂　羽

一聲越内ヘ入尤左ニ竿持出ル舟ナシ

秋毎に 右ウケ　露の玉 二足ツメ　叶ひゝまゝ 正

なふ〳〵 ワキへ

月をや舟に 上ヲ見ル又下ヘミチロス

召れらへ 竿捨ツカ〳〵ト出ワキノ花ヲ左ノ手カケ右ニヲ花一本ヌク

是ハ美人 花ヲ見

又望雲 正

劔を拔て 扇ヲ出シ見ル

望雲 正

項羽が ワキ〳〵ヒラキ二重引 中入

後出羽越ッレ内〳〵入レナ一ノ松ニ留鉾チッキ謠

舊銘を 少シヒラクヤウニ

各々 八ッ拍子

さーよする 竿ニ右ノ手カケワキ下居ト手ヲロス

見ふれ掉 竿ニ右ノ手カケワキ立手ヲロス

葉毎に ワキノ下ニ置タル草ヲ見ル

さらは此花 花ヲ見

名を上 ワキへ

我と我首 頭ヲサス

昔に歸る ワキへ

呂馬童 正

此原の ワキへ

吾ころハ 正立右へ甘

大小ノ前ニ下居花右ニヌク扇ヌキ

伏玉ふ ワキへ

紫の雲 頭トリ上ヲ見面遣ウ

彈琴 ヒラキ

天津乙女 カイコミヒラキ鉾チッキ

四面に サシ分右へ廻リウケテ

又執心の 後ヲ見カヘリ正ッカ〳〵トツメテ

落るハ 左ニテシホリ

鉾働臺へ上リ右〳〵身ヲ入左〳〵引下ヲ見左へ廻リ飛下リシテ座へ行小廻リヒラキ身ヲカヘ出臺へ飛上リヒラキ項羽ハト謠出ス

項羽ハ 八ッ拍子

思ひ出れば 左廻リ直ニ鉾ヲ兩手ニヲヨコニ持

鉾も 上ヘアケテ見

夢物語 ワキへ

高祖に 七ッ拍子

取ては 兩手ヲ右ノカタへ上テ

ねち首 クワッシ廻リサシワキノ方へ行ウケ橋〳〵ノリ込拍子二ッフミ飛歸リ袖カツキ下居留

あら苦 鉾肩ヘモタセ兩手掛面クモラシ

身を投 ッレ臺ノ向ヘ飛チリ下居ワキノ上ニ座ス

戒行草葉 カイ込角取ヤワニシテ左ヘ引

身を 兩手クミ足モヂリ左ヘ廻リクワッシ下居左ノ袖返シ

劔も 下ヲ見

くーハ ッレ正ヘ出臺ヘ上リ

シテッカ〳〵ト出シテ柱ノキワコウランニ手ヲ掛臺ノ方ヘミ込身カヘ内ヘ入鉾働

露諸共 下ヲ見

投捨て 右ヘナゲ

哀 苦 正ヘ直シ〳〵扇スキヒラキ

立上りつゝ 立シテ柱ヘヒラキ

あらき ユウケン

いて物 ムチサシヒラキ品ニ飛ヲリシテ柱ノ方ヘッカ〳〵ト歩

投捨 正ヘナゲ出引品ニ右ノヒザッキ

舍利

初同ニ見合内ヘ入留盞ニ舍利ノセ初ニ出ス

是は ツキヘ　よし誰 正　來るも ツキヘ

峯なれや ツメ足　月雪 正　よハの 右ウケ

更行 正ヘ出ヒラキ　實閑や 左ヘ廻リ　嵐や 正ヘヒラキ〳〵ニ大小ノ前ニ下居

此御舍利 ツキヘ　御寺そ ツキヘ　皆佛身 ツキヘ

貴かり ツキヘ　今ハ ツキヘ　猶此舍利 正ヘ向舍利ヲミル

ゆるし給へ ツキヘ　こハうも 正　舍利殿 イ立舍利ヲミ込テ

實座を 立正ヘヒラキ　せんたん 右ヘノリ込六ツ拍子〳〵うへに立上る 頭取面遣ウ

光に飛 身チカヘ内ヘ入　足疾鬼 正ヘヒラキ　足早き キサム拍子右ヘノリ込

舍利殿 ツカ〳〵ト出盞ヘ飛上リ　くる〳〵と 數左ヘ廻リ　見る人 左ノ手ツキヘアシライ

目をくらめて 右ヘサシ分　其まぎれ 下居右ノヒザツキ舍利ヲ取　天上を 上ヲ見テ盞ヲフミクヅシ

こくうに 後ロヘ飛下リ舍利ヲ高ク上ハシリ込中入

後出羽一段過テ出内ヘ入眞中ニ足留右ヘミ廻ム心シテ柱先ニテ幕ノ方ヘ身込ト早笛ニ成ツキ座ヘツカ〳〵ト行飛上リ下居右ノ袖カツキ

ツレ早笛ニテ出内ヘ入留又始ヨリハヤ笛ニモ

其け舍利 ツレシテヘヒラキ　いや叶ふ シテ立ツレノ方ヘ向　有物を ツレヘヒラキツレモ同事

欲界 シテツレニハツ拍子舞働　欲界 カシノハツ拍子フミ盞ノ横ヨリ飛上リ又ツキ正ヘチリ右廻リ

帝釋 正ヘツカ〳〵ト出盞ヘ飛上リツレハ柱先ニテシテヘヒラキ　梵王天 ツレツカ〳〵ト出盞ヘ上リシテ立シツカニ右ヘ見廻笛座ヘ甘ヤウ左ヘ廻リ又正ヘ出ミ廻ス心シテ柱ノ方ヘサシ込ヒラキ　出合て シテツレ見合テ

もとの ツレ打杖フリ上シテチ一ツ打トシテ横ニ飛チリ袖カツキ下居　彩 ツレツキ正ノ方ヘチリシテ柱先ヘ行正ヘミ廻スヤウニレテヘサシ込ヒラキ

追下す ツレ拍子一ツフミ　左へ行も 左ヘ方ヘ行カヘリ　右りへ行も 右ヘ行カヘリツレ方ヘツカ〳〵ト歩

天地も ツレシテ方ヘ一ツ打トシテ後ヘ飛ヒラキ　疾鬼は 盞ヘ飛上リ　くる〳〵くると 左ヘ小ク幾ヘンモ廻リ

韋駄天 ツレ盛ヘ上リシテチ両手ニテツカヤヘル

首を ツレシテノ赤頭ニ左ノ手カケ拍子一ツ

指上れば 両手ニテ舎利頭ノ上ヘサシ上ル

さはかり 平座ナカラ盛ヘ飛上リ又後ヘ飛チリ立後ヘチリ

力もらき 左ヘノリ込飛帰袖カッキ下居ズット立上リ入留

舞働ハツ拍子フミツレノ方ヘ出カケルトツレヨリスソ拂飛上リ橋ヘ行ツレハ下居テスソ拂ワキ座ヘ行シテノ方ヘミカ〳〵リツカ〳〵ト一ノ松ヘ行打杖フリ上トレテツレノ方出カケ打進下居立直ニ廻リ内ヘハシリ込シテハワキ座ヘ行ツレ〳〵ツレハシテ柱先ニテ留向合ヒラキ留ハツ拍子

第六天

一覺橋掛ニテ向合二句過内ヘ入如常

春一入の 入替員中ヘ行ツレハ直ニ笛ノ上座ス 參らせふ 出下居

御裳濯川 ワキ〳〵

疾鬼を シテ盛ノ向ヘ飛ヲリ平座ツレハ此トキ向ヘツキチトス

出せや〳〵と 打杖フリ上二ツ三ツ打

韋駄天 両手ニ取盛ヨリ飛チリハシリ込

いつしか 角ヘフミ込ソリ廻リ下リ橋ヘ行

イロエナシニモ

高天 ワキ〳〵

後出羽越一ノ松ニテ留

我事也 ヒラキ

四魔 右ニサシ乍右ヘ廻リ直ニ内ヘ入

觀念 ワキ〳〵ツメ

ツレ早笛ニテ出内ヘ入留

則そさのを 八ツ拍子〳〵ニサシ廻乍右ヘ廻リ

さしもよ ノシメヌギ

そさのを シテチキメ拍子一ツ

飛違 左ヘ取正ヘツカ〳〵ト歩ツレハツカ〳〵ト行左ノ手ニテシテノエリヲ取後ヘ下リ

今より シテヒサチ立ツレニ時宜スル

賴めや〳〵 ワキ〳〵

夢に來り 立右ヘ廻リ正ヘヒラキ中入

雲魔 左ニテサシレ分見テ

其時解脫 返ユワキチ見

うさのを 幕例チ見テワキノ下ニ行ノシメカブリ居

六天 シテ〳〵ヒラキ

見にたり 拍子フミ舞働

打んと 云時分ツレノ方ヘ出カケ

大地よ シテハ平座ツレ右ヘ取打杖ニテ二ツ打フリ上

尊は雲井 ツレ上チサシ内ヘハシリ込

魔王は（立見チクリ小角取ヤウニテ左ヘ廻リ橋ヘノリ込飛廻リ左袖カヅキ留）

熊坂

呼掛如常

たとひ（一ノ松ニ留）　あれよ（右ヘウケ）　おうぶく（ワキヘ内ヘ入）

離れよとの（ツメ足）　御吊ひを（正）　其名は（出ヒワキ）

夫こう（ワキヘ）　廻向は（角取左ヘ廻リシテ柱先ニテワキヘ）　參らふするよそ候（ワキ詰テ真中ニ下居）

さんゆ（ワキヘ）　御覽ゆ如（正）　なんぼう（ワキヘ）

師匠なき（正）　惡魔を（ワキヘ）　心を師と（ワキヘ）

御休み（ワキヘミ込）　さらば（面クモラシ）　めんそうよ（立スラ〳〵ト歩中入）

後出羽不越一ノ松ニ留

梢木の間（右ウケ）　有明比か（正ヘ直シヒラキ）　月は出でも（長刀横ニシテ右ノ上見上テ）

切　入（長刀カイ込サレ分左ヘ廻リマクキワヘミ込）　人の寶（スカ〳〵ト内ヘ入出ヒラキ）　滿ましや（長刀カタヘモタシ面クモラシ）

偖　も（長刀カイ込真中ヘ行半切ノ後取床木カヽル）　問答　文句ニ心付ベシ　入　と（ワキヘ）

いふこう（正スエ足〳〵ニ數拍子右ヘノリ込）　投込〳〵（左ノ手正ヘ二ツ三ツナゲルヤウニシテ）　勢ひは（拍子）

面をむく（左ヘミカヘ正ヘミ込）　然れ共（正）　そこふじん（數拍子右ヘノリ込）

面よ進む（左ヘサシ分右ヘサシ分下ヲミ廻ス心）　其　外（正）　はう〳〵（橋ノ方ミ込イ立テ）

熊　坂（正）　人間にては（數拍子）　ぬすみも（立長刀ツキ正ヘツカ〳〵ト出）

うーろ（橋ノ方ミ込シテ柱先ヘ行）

後長刀仕舞ニ同愛ニ略ス

橋辨慶

何トナク出内ヘ入名乘ニ後見座ノ先ニ座ス

參らべやと（達拜）　いかよ（少左ヘクリ角ノ方ヘ向ナガラニヨヒ出ス太刀持正ヘ出シテヘ向下居）

魔王は　立見チクリ小角取ヤウニテ左ヘ廻リ橋ヘノリ込飛廻リ左袖カヅキ留

熊　坂

呼掛如常

たとひ　一ノ松ニ留

あれよ　右ヘウケ

おうぶく　ツキヘ内ヘ入

離れよとの　ツメ足

御吊ひを　正

其名は　出ヒツキ

夫こう　ツキヘ

廻向は　角取左ヘ廻リシテ柱先ニテツキヘ

參らふするよて候　ツキ詰テ真中ニ下居

さんゆ　ツキヘ

御覽ゆ如　正

なんぼう　ツキヘ

師匠なき　正

惡魔を　ツキヘ

心を師と　ツキヘ

御休み　ツキヘミ込

さらば　面クモフシ

めんそうよ　立スラ〳〵ト歩中入

後出羽不越一ノ松ニ留

梢木の間　右ウケ

有明比か　正ヘ直シヒラキ

月は出でも　長刀横ニシテ右ノ上見上テ

切　入　長刀カイ込サレ分左ヘ廻リマクキツヘミ込　人の寶スカ〳〵ト内ヘ入出ヒラキ　滅ましや　長刀カタヘモタシ面クモラシ

偖　も　長刀カイ込真中ヘ行半切ノ後取床木カヽル　問答　文句ニ心付ベシ　入　と　ツキヘ

いふこう　正スエ足〳〵ニ數拍子右ヘノリ込　投込〳〵　左ノ手正ヘ二ツ三ツナゲルヤウニシテ　勢ひは　拍子

面をむく　左ヘミカヘ正ヘミ込　然れ共　正　えゝふじん　數拍子右ヘノリ込

面よ進む　左ヘサシ分右ヘサシ分下ヲミ廻ス心　其　外　正　はう〳〵　橋ノ方ミ込イ立テ

熊　坂　正　人間にては　數拍子　ぬすみも　立長刀ツキ正ヘツカ〳〵ト出

うーろ　橋ノ方ミ込シテ柱先ヘ行

後長刀仕舞ニ同愛ニ略ス

橋辨慶

何トナク出内ヘ入名乘ヒ後見座ノ先ニ座ス

參らべやと　達拜　いかよ　少左ヘクリ角ノ方ヘ向ナガラヒヨヒ出ス太刀持正ヘ出シテヘ向下居

見はす　ツメ足　神變　正　かしこう　ツレ〜

都廣しと　正　是程の　ツメ足　正〜　實奇特　両手打合　〜向

さあらべ　ツレ〜　いや辨慶　正　化生の　ツレ〜　ツメ足

夕〜程なく　正打切ニツレ始ノ座〜カヘル　雲の氣色　右〜ウケテ　高ク見上テ　おうーと　正〜ヒラキ　中入早鼓

一聲越子方出内ニ入留

夕波の　右ウケ　ゆふ〜程なき　正〜ヒラキ　おもしろの　正〜ヒラキ　キスエ足

うぶろ　右〜ウケ　なみも　正〜直シ　出ヒラキ　橋板を　下チ　見テ

とふろ〜と　數拍子　風冷ーく　ツキ座　〜行

後太夫頭越ノ一聲一ノ松ニ留

本より好　左ヘミチ取　長刀ツキ　眞中取て　左ノ手ソエ　カタヘ上ケ　ゆらり〜　二三　足歩

面をむくべき　右〜ウケ　手にたつ　正〜直ス長刀　チロシツキテ　渡る橋板　左〜身取下　チミ廻シ

あらかな　拍子二ツ　辨慶彼れ　子方チキット　ミ込テ内ヘ入

彩内〜入子方ヘミ込長刀取直シ左右〜スクウヤウニシテカヅキ後ヘ下リ子方ノ前〜ツカ〜ト歩乍

長刀チツキ出シスクニ引長刀取直シ子方ヘフミ込テキメル左〜廻リ已前ノ所ニ立謠

思ひわづらひ　左〜出カケ正面　〜ツカ〜ト出　す　は　子方〜長刀ツキ出フリ歸テ

後長刀仕舞口傳

烏帽子折

子方呼掛内〜入

唯伴ひて　ワキ〜　ツメ足　牛若此笠　両手ニ取　笠着テ正　悲しき　子方ハ　ホル

駒も　ワキ左〜廻ルワキツレノ後ニツキ　廻リシテ柱先正〜出ワキト向合　着よけり　〜ニ甘笠ヌキ　正〜出俳出モ

下らハやと　橋〜行太夫呼出ス　誰よて　出子方〜　問答　無別義

參らせうするにてひ　内〜入子方笛ノ上ニ座ス　太夫其中ニ下居　扨烏帽子　子方〜問　答無別義

語　正　我等も又　子方へ　程ふく　立甘風折左ニ持正へ出

け高く　エホシヲ出シ見　召れて　子方ノ前へ行下居エホシキセ　立のきて　立二三足下リ

天晴　打合カ心持有ベシ　足う　下居　さらは此刀　子方少刀ヲヌキシテ出ス

さらば給はらふ　立子方ノ前行下居少刀両手ニ取　さころう　立左ニ持橋へ行ツレ呼出ス

さあらべ追付　太夫ツレ地内へ入　末是に　子方へ真中ニ下居ツレハワキ正へ下居　早篠目　打切ニワキ正へ出ル子方立シテツレモ立

立出る　子方ニ足ヲ歩テ　目も　シテツレモシホル　恨と更に　シテ

此御腰物　少刀ヲ子方へ渡シ後へ下リ　力ふしとて　子方刀ヲ取左ニ持居ル　さらば　正へワキノ後ニツキ始ノ如ク左へ廻リ甘テ少刀サス

やつれ　ワキ子方ノ後ヲ見サクリスクニ中入

めん〳〵は　正へ出ワキへ向具中へ行下居　我は追手　イ立　夕へも　正へヒラキスエ足

〳〵に　右へノリ込拍子長クフミ　兵法の　扇ヒラキサシ廻正へ出右へ廻リカケニシテ柱先ニテ

打入を　マクキワヲミ込ワキ座へ甘長絹エホシ乱髪大刀持ヌキ身ナリ

間俳三人出さらい火をとはさふト云時分立正へ出太刀サゲ居ル物ノ松明切ヲトス二ノ松明フミケス

三ノ松明中ニテ取ナケ返スト俳取來ルヲツカ〳〵ト歩切付又甘

後一聲越出一ノ松ニ留

いかゝ若者　ツレへツレ皆下居　問答無別義面ヲニアレヲイ向ハ不吉　拠よな　右ニテヒサヲ一ツ打ツレへ

唯せめ入　ツレへ右ノ手アシライツレ皆々立入替マクキワニ床木ニ　荒物々しや　子方ツレへ

夫よも　ツレツカ〳〵ト歩正へ下居　八幡も　両手ヲツキ時宜シテ　獨も　イ立ツレへミ込立太刀ヌキヒラキ

翔　子方ツレ切組

六十三　シテスエ足打切ニ立歩一ノ松ニ迄　かゝあ〳〵だ　両足高ク上飛ヒラキノヤウ　五尺三寸　太刀ヲ出シ見

するりと　太刀ヌキ右ノカタへ上ケ左ノ手ツエテ　おとり　拍子二ツ　ゆらり〳〵と　身カへ静ニ内へ入

いかなる　太刀カヅキ子方へ込ヲロシテキメル　盗人よ　子方スエ足　目だれ　歌拍子太刀フリ上

透間　シテノ方ツカ〳〵ト歩ナカラ二ツミ切付テシテ一ツウケテ　さそく　三ツ拍子　十方切　是ハ切組無別義

打物ハざ（子方一ノ松ヘ行）　組んで（立太刀出シ見テ前ヘステル）　大手を（両手上ケ飛開ツカ〳〵ト子方ノ方ヘ行）

背きて（子方内ヘ入カケニスッ拂レテ飛上佛タチレ）起上らん（立ツカ〳〵トマクキワヘ行子方ヘシリカカリテ切付）割付られて（平座スクニマク上入）

ひゝりと（身カヘ内入シテ柱先ニテ正ヘヒラキ品ニ太刀カタヘ上テスエ足留）

忠　信

子方ワキ座ニ床木ニカヽル太刀持後ニ座スワキ太夫ヲ呼出ス何トナク出如常

君よりの御使（下居両手チツキ）　畏てゆ（立内ヘ入子方ヘ向手チツキ）　余人よ（面上テ）

其時御意（時宜スル）　然れ共一人（面直レ）　忝なふ社（時宜スル）

我君を（面直シ）　皆人々に（ツキ〳〵）　ふかくの（シホリ作立甘下居）

斯ては（打切ニ三人ヒ立橋ヘ行）　ひそかに（シテ立正ヘ出橋ヘ向）　忠信しむし（シテ柱先ニテ下居子方一松ニテ立カヘリシテヘ向）

御暇や（時宜スル）　かまひて（面直ス）　御供に（子方シテヘツメ足）

不忠成べし（扇ニテレテヘサスシテ時宜スル）　なみだ（子方シホリナカラ入）　只獨り（子方チミクリシホリ作中入早蛾）

後蛾曾釋ニテ出笛座ニ床木ニ掛一疊臺ワキ座ヘ出スツレ一疊越一ノ松ニ留問答心付ベシ

よ一先（立）　此矢一筋（矢ヲ見テツレヘキメル）　高やぐらに（臺ヘ飛上リ地謠ノ方向弓矢ツガヒ）

よつ引て（ツレノ方ヘ）　眞先掛たる（法師武者内ヘ入平座又ハ中カヘリニテモ）　一矢に（矢ヲ放ツトツレ座スル弓捨ル）

刀を拔（少刀ヌキ逆手ニモチハラキルヤウニレテ少ク廻リナガク）　後の谷（笛座ノ方ヘ飛チリ下居此内物着）

敵の兵（ツレ内ツカ〳〵ト入）　よれや（ツレ向合太刀ヌキツカ〳〵ト歩臺ヘ飛上リ）　ひそかに（シテ大少ノ前ヘ行正ヘ出品々）

わけつ（クワッシ立右ヘ少廻リレッカニ正ヘ出ルト）　あやしむる（ツレレテノ方ヘ見廻レテ）　あれはいかに（拍子フムトシテ平座）

くらきを（シテ柱ノ方ヘ行カヽリ）　のかすまー（ツレ一人飛ヲリシテフリカヘリ切クミツレ切戸ヘ入）

つゞく兵（ツレ飛チリ切クミ中ガヘリ切戸ヘ入）

大佛供養

今はかうよと（角取左廻リ品ニ臺ヘ飛上リ）

蝶鳥の（橋ヘ行ノリ込正ヘヒラキ品ニ太刀肩ヘ上ケスエ足留）

ツレ出ワキ座ニ下居次第如常内ヘ入地次第ニ笠ヌギ左ヘ持正

又承候へば（右ヘウケ）　某も（正）　南都へと（連拜）

哀や實（笠着正）　神も教の（右ヘウケ二三足歩大小ノ前ヘ着笠ヌキ正）　此邊にて（甘下居）

南無や（ツレ正合掌シテ正ヘ出）　いかに（ツレヘ）　我子の（ツレ立シテヘ向シテ正ヘ）

暫（ツレヘ面斗）　渡り候へ（シキ眞中ニ座ス笠右ニ直ツレ下居）　扨は（正）

是は（ツレヘ）　思召せ（打切ニ正）　早夜の（イ立東ノ方見上ケテ）

御暇や（ツレヘ）　我袖を（レホリ打切ニ笠取左ニ持立シヅカニ入又コヽニテ笠キルモ）

悲しむ（ツレ立見チクリテ）　跡を見送り（ツレノ方ヘミカヘリシホリツレモシホル笠着ナガラ中入）

子方ワキツレ一聲内ニ入立向如常

供養（子方ワキ座ニ床木ニカヽル皆々座ス）

後頭越ノ一聲一ノ松ニ留

惡七兵衛（少シ身ヲ取心持有ベシ）　姿に（直シ）　うき身の（クモフシ）

宮人の（内ヘ入）　人な（ヒラキ）　塵に（ヘウキ右ヘ左ヘハキ取直シ左ヘ又ハクトキ子方チミ込乍正ニツハキ乍ツカ〳〵ト出子方ノキワヘツカ〳〵ト歩子方甘）

是ゝ春日（ワキヘ）　春日祭（正）　なふ（ワキヘツメ）

つゝむと（正）　名のれ〳〵（ワキツメカケルトキットシテ少後ヘ下ル心）

さらぬ（正右ヘ廻リツカ〳〵ト歩甘物着エホシ浄衣ヌキ太刀持）　畏そは（ツレワキノ方ヘツキシテ甘エボレヌキ乱髪）

皆一同（立正ヘ出ル子方ワキ入シテ橋正ヘ出）　抑是は（ツレヘ）　景清と（ツメ足）

名乘も（正ヘヒラキスエ足）　するりと（太刀ヌキフリ上ツレモ太刀ヌシ）

大勢（ツレト打遣テワキノ方ヘ行ツレ一人ハ橋ヘ行余ハ切戸ヲ入又切クミモ）　四方へ（見廻ス心）

中よ若武者（ツレ身カヘ内ヘ入ツカ〳〵ト歩乍切クミ太コ座ヘ中ガヘリシテ切付テミ込）　今は景清（正）

彼あさ丸（正ヘ出太刀チカヅキ）　霧たち（正ヘクワツシ廻リ橋ヘ行）　飛入（左ヘノリ込ニテモ又飛込下居モ）

又こそ時節（立右ヘ廻リ太刀肩ヘ上ケスエ足留）

合甫

一聲越内〜入留

いかに此屋の　ワキ〜　日も早　正　よ〜誰　ワキ〜

たゝく　正　床さへ　ワキ〜ツメ　ひぢ笠　正

頼む木陰　ウケ　此世あらぬ　出ヒラキ　一河の　左廻リ

其情をば　ワキヘヒラキ　眞中ニ下居　今は何をか　ワキヘ　我なく　シホリ

合甫よも　イ立ワキヘ　前なる　正〜直立　入よと　右〜甘ヤウニテ正〜ヒラキ

ひれ臥て　チヨト下居中入〜ニ立

後出羽不越一ノ松ニ留

變成就　ヒラキ　な落や　ハツ拍子　波立さはぎ　内〜入正ヘヒラキ　舞働

玉の緒の　拍子一　〜　角取左〜廻リ正ヒラキ　是迄成や　ワキヘムテサシヒラキ

浦は合甫　サシ廻シヒラキ　玉は二度　サシ角取左〜廻リワキ座ヨリサシシテ柱先ニテ小廻リヒラキ留スエ足

吉野天人

呼掛如常橋ニテ留内〜入

所も山路の　ツメ足　見もせぬ　正　相宿して　右ウケ正〜出

立寄いざや　ワキ〜　實や花　角取左〜廻リ　なれ〜　正

いさ〜　ワキ〜　暫爰よ　ツメ足　月の夜　ワキ〜向

かならず　ワキヘヒラキ　かれうぐんが　右〜廻リヒラキ中入

後出羽越橋ニテ留ツレ三人モ五人モ有無ニ

聲澄渡る　正〜ヒラキ　天津乙女　露取内〜入右〜ウケ正〜ヒラキ

五段相舞

乙女は　左右打込ヒラキ　なで〜　正〜ヒラキ　春の花　サシ角〜行小ク廻リ

飛あがり　拍子一ツノリ込　飛下る　左〜クワツシ　實もうへ　立廻リ正

治る國の ヒラキ　雲の通路 サシ廻シヒラキ　乙女の姿 直二足

餞も 袖返シサシ分角取左ヘ廻リ　又咲花の ツレハ入替内ヘ入レテ後ニテ留ヒラキスエ足

大瓶猩々

一聲越内ヘ入留

嬉しや ワキヘ向下居打切ニ正　たゞ酒呑 ワキヘ　疑ひ玉ふな ワキヘ打切ニ正

暇乞て ワキヘ　更はとて 立　行かと 正ヘ出

替りて ヒラキ　市人に 右ヘ廻リ中入ヒラキ

間遇テ一疊遣物ッボ出ス後渡リ拍子ツレ二人出内入留左右

あたゝめ酒と 出ヒラキ　うすき 右ノ上ミ廻ス　菊の盃 正ヘ

秋の夜 ヒラキ　ふしきや 向合　〳〵 正

來らぬは 正ヘ出　沖に向 橋ノ方ヘ向扇ヒラキ　急給へ 二ッマヂキ笛ノ上ヘ行

又渡リ拍子ツレ太夫ツレ出橋ニテ留謠ノ内ニ出モサカリハナキ方吉

皮孝風に ワキヘ　波間を 右ウケ正ヘヒラキ舞臺ノツレモ同様　比は秋の夜 頭取面見上〳〵正

汀の 右ウケミ廻ス　數多の ツレ左右ヘワカリ臺ヘ上リシテ真中ヘ上ル　泉の口 左ノ方ノツレッボノフタヲアケ下ニ置

汲共〳〵 ヒシヤクニテ二ックム心シヤクッボノ上ニ置　何れも 臺ヨリ下リツレ橋ヘ行

三段舞 舞臺ツレ二人太夫 橋ニテツレ二人留ワカ上ケヒラキ

盡せぬ 左右ヒラキ　返しさつけ ワキヘ　是まで 正ヘ出カケ扇左ヘ取

醉臥 下居扇カホヘアテル　又おき上り 立正ヘ出臺ヘ上ル始ノ如ク　命なのかへ シヤクニテ二ックミ扇ニウケ左ヘモチ

道浴 面遣ウ　本の泉 シヤグ直扇右ヘ取　何れも〳〵 臺ヨリ後ヘ下リ

よろ〳〵 左右ヘ下リツレヘ下リ乍橋ヘ行　くりこと サシ角取カサシ左ヘ廻リ留ヒラキスエ足

班女

俳呼出ス何事無出シテ柱先座ス俳答テ扇ヲ取投捨ル直ニ入也扇ヲ取見テ左ニテシホリ實やト謠出ス

流の身（クモラシ）　ぬれ衣（打切ニ面直ス）　立出て（打切ニ立）

近江路（正ヘ三四足出）　袖の露（足留テ）　其儘（シホリ中入）

後一聲越一ノ松ニ留

世を秋（直ス）　人もなし（正ツメ）　夕くもの（右ヘウケ見上テ）

うへの（面直ス）　思ふ事（サレ込ヒラキ又ツメテ）　うれ（内ヘ入）

此神々に（シテ柱先ニ正合掌下居）　戀ず立　人知す（ヒラキ右ヘノリ込）

翔（留小廻開品ニ左ニテシホリ）　思ひの（二足引テ）　身の行衛（ツメ足）

誠の道に（二重引スエ足一ツ）　祈らず（右ウケ）　算如の（正ヘヒラキ）

しらで（角取左ヘ廻）　猶同ト（シテ柱先二三足出正見ヤリ）　あれ（右ヘウケ見上テ）

一葉も（下チ見テ）　たまゝ〳〵（面直正）　荒悲しや（屬ヘツメ足）

よし〳〵（正）　床冷しや（下チ左ヘ見廻大小ノ前行）　ねやの（下居）

又獨寢（クモラシ心持）　漏すらむ（打切立テ橋ヘ行）　欄干よ（ニ松邊後ノ柱ニモタレル心）

其方の（左ノ方上テ見ル心持）　夕暮の（内ヘ入）　あの松（見付柱方扇サシ二三足歩カ）

我まつ（正ヘ二三足歩テ）　れとつれ（シホリ心持）　形見の（扇ヒラキ見テ）

左右（打込ヒラキ）　名を（身カヘ出ヒラキ右ヘ廻リ）　よしや（右ヘウケ正ヘヒラキ）

其報い（右ヘノリ込）　世をも（サシ角取カサシ左ヘ廻リ）　えん女が（正ヘ心持）

繪よ（甘）

序舞留ワカ上ケ扇

持たる（扇出見テ）　とる袖（角取心扇左ヘ取左ヘ廻リ）　秋風は（扇ハチチ正ヘ出直ニ右ヘ取）

荻の葉（下チ見扇折カヘシ心持）　きかで（少廻角取）　鹿の音（開心出面遣ウ）

むしの（上ニテ開心左ヘ廻リ正）　あらよーあや（心持打合ハ不吉）　形みの（扇出シ見テ〳〵ニ右ヘノリ込）

猶うら（扇上テウラチ出テ見テ）　れもて（下チチモテ見）　人心（ワキ正サシ廻面遣ウ）

扇とは タラ〳〵ト下リ下居シホリ　是は人 屬ヘ

添ふ心 正向テモ屬ヘモ　人にみする 正扇懷中シテ心持

かへら 佐ヘ正　かたみ 正

身よりへ 屬扇持來立右ニテ取扇ヒラキ正先ニテ兩手ニ持　たそがれ 上ヲ見扇ニ面遣イ直ニ左ヘ取カコイ佐ノ方ヘ行テ　かく斗 佐ヘ正

此うへは 懷中ノ扇佐ヘ渡ス佐扇ヒラキ左ニ持太夫下居　有つる 佐ノ扇ヲ見テ　形みの 佐ヘ

御覽せよ 自分ノ扇見テ　たかひよ 面直佐見合ス立右ヘカヘリ　夫すと 佐ヘ扇ハ子テ

扇の 扇右ニ取サシ右ヘ廻ヒラキスエ足留

雲雀山

子方作物ニ入佐座ニ出引廻ヲロス　又子方後ヒ出

太夫何事無出笛ノ上座屬名乗作物ノ戸ヲヒラキ入モ

屬呼出スト如常出テ

何事にて ト屬ヘ　御出らへ ト云正ヘ出作物ノ前行戸ヒラキ少下リ下居　如何に 子方ヘ

實や 正

露いつ迄 シホリ　余所人は 子方ヘ打切ニ正　た ゞ 子方ヘ

後一セイ越一ノ松ニ留

色ある 草ヲロシテ見テ　露の御身 内ヘ入ヒラキ　色々の 右ヘノリ込　翔如常

咲卯花 サシ廻シ　紫染る 左ヘノリ込ヒラキ　余所の 立造物ノ戸ヲ直ニ中入　色香よ 二足ツメ

花召れ 右ヘウケ草ニ左手ソエテ面遣ウ　月はみん 二重ヒキスエ足一　浮世を 右ヘウケ

花ながら 正ヒラキ　日 比 角取左廻リ正ヘヒラキ　さんゆ 屬ヘ

何れよても 草ヲ見ツメ足　花檻前 正　御心よせ 屬ヘ

實面白 正　荒むつ 屬ヘ　お尋あるや ツメ足

御心ぞ 心持　いろ〳〵の 正ヘヒラキ右ヘノリ込　枝よ霜 出サシ込ヒラキ

目さまー 正ヘ足遣イ　其方の 屬ヘ向直ニ左ヘ廻リ　忍ぶ草 草ニ左手ソエ屬ヘツメ〳〵ニ正

紀の關 正ヘ出草ヲ左ニ取　たつか弓 立ニ持弓ノ心

なとや 左ニテ屬ヘサシ左ヘ出掛　いるさか サシ分右ヘ甘

かい取 屬出ト両手ニテ草渡シテ懐中ノ扇ヲ持正　春霞

あら 左ニテムテサシ〳〵ニ正心持大ニ有

春の心 ユウケン　有ける 拍子　花ゐき 太小ノ前行正

いつ 正ヘ二三足出掛　鳴うつる サシ廻ヒラキ　隔る 正ヘ出サシ込ヒラキ

斯てゞ 角取左ヘ廻正ヘ出　野を分 足留テ　身のうへ 正ヘ直シクモラス心持

しら玉の 正左右　上羽　左右打込ヒラキ　山に フミヒラキ右ヘ廻リ

こゝに 右ヘ廻リ　雲雀山 正ヘサシ込ヒラ　高間の サシ廻シヒラキ

かゝり 扇右折返レヒラク心ニテ　谷かげ 身ヲ直下ヲ見　かすみの 扇右ヘウケ正ヘ出テチロシ

露に 左ノ足引下ヲ見　雨より 左ヘ廻リ左右　鵙の 右ヘノリ込　遠近の 甘

序舞中ノ舞ニモ留ワカ上ケ扇

たつきも 左右打込ヒラキ　雲雀山 正ヘ二三足ツメテ　いさゆ 右ヘ甘佐ヘ向下居正　人のかこと 正

是は 佐ヘ　今は 正　さらば 立　如何よ 佐ヘ

山ゐと 造物ノ側ヘツカ〳〵ト行戸ヲヒラキ後ヘ歸リ子方出佐ノ上ニ居三人カナワニ座子方作物ノ前佐真中太夫ワキ正　草木 少出

たがひ 佐子方ヲ見テシホリ

早とく〳〵 佐ヘ向クモラシ直ニ立扇ヒラキ子方引立ンテ柱先ヘ行手ヲ放ス佐子方入　實や 正

ならの都 カザシ左ヘ少廻リヒラキユウケンスエ足コンニハ佐留ル也

浮船

一聲半越竿左ニ持出内ニ入留

かたもなし 付足　ゐがくや 右ウケ二三足歩〳〵ニ正間苔　何と間 佐ヘツメ足

さなきだよ 正　戀しかるべき 右ウケ　小島が 正ヘ出

立河風（上ヲ見テ又ツメ足）　跡より（右ウケテ橋へ見チクリ）　山は鏡（正）

猶身を（ヒラキ）　御物語候へ（佐へ向竿捨大小ノ前行座扇ヌキ正）　居玉ひし（佐へ打切正）

月すみ（佐へ）　終に（佐へ問答）　ひゐ坂（佐へ）

猶物の（正）　有身なり（佐へ）　あれにて（扇頭サシ）

浮たつ（立右へ廻リヒラキ中入）

後一聲越内へ入留

法の力（佐へ）　淺ましや（正）　此世よ（佐へ）

明暮（正）　妻戸を（正へ二足）　風はげしう（右ウケ見上テ）

川なみ（開心）　ゑらぬ（正）　誘ひ（正へ少出）

心も（右へノリ込翔）　あふさ（正）　我かの（正へ出ヒラキ）

小島の（扇ヒラキサシ廻右へ廻リ）　よるべ（左右）　大悲の（二重ヒラキスエ足）

世に廣（正へ出）　明ては（雲扇）　たへぬ（サシ角取）

闇に（扇面ニチヽヒ左へ廻リ）　後の世（正へヒラキ）　頼みしよ（佐へ）

くよ（右へノリ込）　初瀬の（正へ出）　小野よ（右へ廻リ）

夢の世よ（正へヒラキ）　横河の（上チサシ）　ふかき（佐へ）

夢よ顯（正へ少出）　見へ玉ひ（佐へサシ行フミヒラキ）　吊請んと（合掌下居）

思ひの儘（立ユウケン）　都卒よ（サシ廻角取左へ廻リ）　云かと（佐座ヲサシ小廻正ヒラキ留スエ足又折カヘシ留テモ）

玉葛

一聲半越内ニ入浮船ニ同事無別義問答心付

いや何事（佐へ）　折からよ（ツメ足）　ほのみへて（正）

風も（右ウケ少出テ）　浦はの（見廻ス心正へ見ヤリ）　河音（右ウケテ開心）

おく物（二三足出ミヤウ〳〵ニ正打切ニ竿捨テ）　かくて（正先へ行下居合掌）　まのあたり（立）

四方の　右ウケ二三足出
扨は　正
あらき　佐〜正
はやくも　佐〜
吊ひ玉へ　佐へヒラキ
後一聲越内ニ入留
尋ても　佐へ
つくもがみ　右へノリ込翔
長き　サシ込ヒラキ品々左ニテカツラヲ取
むすぼをれ　角取カザシ左へ廻リ左右打込ヒラキ
人を　扇ウケ正へ出チロシ
二本の　大小ノ前へ着足
是は光　佐へ
初瀬の　佐へ
緣よ　正
ゐみたの　右へ廻リヒラキ中入
乱るゝ　ツメ足
たつや　正へ出扇ヒラキ
黒かみの　カヅラヲ見テ
實妄執　二重ヒラサスエ足
はげしく　サシ角取
是こそ　佐〜
ともよ　シホリ眞中へ行扇ヌキ座
迷ひを　佐へ
たゞ賴　佐へ立
恥かしや　正
はらへど　ユウケン
あかぬや　扇ニノセ扇コナスクウ心右へ廻リ
迷ひも　サシ込ヒラキ
露も　下チ面遣ウ左へ廻リ

朽はてね　ヒラキ打合
むくひの　佐へ
思日よ　扇面ヲヽヒ左へ廻リ掛扇左へ取
此妄執　扇右ニ取角取左へ廻リシテ柱先左へノリ込ヒラキ留スエ足

三井寺

何事無出正眞中ニ座ス合掌
ましてや　手チロス
語らばやと　謠乍立右甘心俳苔テ左へクリ正床木掛俳床木アヲル
三井寺と　謠乍立中入
遣物見付柱方へ出ス子方佐次第如常
後一聲越一ノ松ニ留

恨しや　シホリ
浮名よ　ヒラキ
ほたる　ハヲテ佐ノ方へ行
うらみは〳〵　ニ右へノリ込
式は涌　サシ角取少廻リ
恥しや　扇面ヲヽヒクモラシ

志賀の 笹チロシ身直ス
加様よ 直ス
畜類たるも 下チ見テ
乱れ心 右ヘノリ込翔
よし花も 正先ヘ出足留テ
ゐが 正ミヤリ
松風も 左ヘノリ込ヒラキ
所からさへ 正ヘツメ
海こしの 正
夜るは 右少廻リ掛ケニ
笹左ニ逆ニ持橋ヘ行一ノ松邊ニテ笹右ニ持直俳鐘チックチ聞心立カヘリ正

よほてる 見ヤリ
いや我 右ヘウケ
ましてや 面直シ
住や習へる 二三足出テ
いさ古さと シテ柱先ヘ
類あらむ 橋ヘ見カヘリ
里をも 右ウケ二三足出
風そ時雨 二重ヒラキスエ足
かゞみ山 正見ヤリ
月の 左ヘノリ込ヒラキ品ニ笹ニ左ノ手チカケテ
舟も 正ミヤリ面遣

あら有がた 合掌
あの鳥るい 上ヲ見
子の行衛 内ヘ入
さこそ人 右ウケテ
かへれば カヘリ正
松風よ 笹ニテサス
三井寺よ 大小ノ前ヘ着正
あみも 右ウケ
山田 下チサシ廻
舟も 正ミヤリ面遣

童も 内ヘ入
月よや シテ柱先足留造物ヲミヤリ
地次第ニ廿笹捨扇持正ヘ二三足歩佐暫ト足留テ
夜ゆ公 佐ヘ
夫は 正
今宵 佐ヘ
團々 正
人々 佐ヘ
かほと 正
ましてや ツメ足
ゆるし玉へ 合掌拍子
煩悩の 角取
諸行 正ウケテ
後夜の 左廻リ
晨朝の 大小ノ前ニテ小廻ヒラキ
じやく滅 右ヘノリ込左ノ足引テ
菩提の 造物ヲ見ヤリ
月も 作物ノ側ヘ行左ニテ紐ヲ取二三足下リ
數うへて 右ニ持ソエテカヲ三ツツク左ノ手腰ニ付
驚く 右ヘノリ込左ノ足引
はやつき 造物ヲ見テ
我も 紐扇ニ掛テ右ヘ廻リ品ニ後ヘ紐チトシ大小ノ前ニ下居正クセ前アシライナシ
今思ねの クモラシ
涙心の 乍立シホリ
此鐘の 造物ヲミヤリ
月落 身直扇ヒラキ右打込ヒラキ左
客の船 サシ廻ヒラキ
蓬窓雨 右ヘ廻リサシ角取カザシ左ヘ廻リ

三井寺の　作物ヲ見扇タヽミ正　是は　佐へ　あらふしぎや　佐座ノ方へ

正しく　佐へ　暫　正　なふ是へ　佐へ

是へ正敷　子方へツカ〳〵ト行佐留平座スル正　あの兒に　子方へ　恥も人め　シホリ正

もりて　子方へ　げに　正　日こう　子方へ

此三井寺　立子方ヲ引立少出テ　此鐘の　作物ヲ見テ　物狂の　子方へ

常　左廻リシテ柱先子方へ向扇ヒラキ　親子の　両手マチキ子方ノ側へ行両手掛　鐘ゆへ　造物ヲ見

嬉しき　右ニテシホリ　かくて　子ヲ静ニツレ行シテ柱先ニテ放シ押ヤリカザシ左へ廻リヒラキ留スエ足

百萬

子方佐次第太夫俳ノヲドル内ニ何事無出笹ニテ俳ノ頭ヲサシ荒わるのト謠出ス

雲晴ね共　西ヲ見テ　あみだ佛　面直ス　なまふだと　出掛テ

誰かは　左右正　津無共　笹右ウケテ正へ出ヲロシ又ムヲサシモ　重く共　左ノ手掛袖返シヲ

ひけや　左右へフミヒラキ後へ下リ　一度に　サシ分右へ廻大小ノ前ニヲ　南無阿彌　正合掌

實や　二重ヒラキスへ足　朧月の　右ウケ　わづかよ　正へ二三足出

猶三がい　足留テ笹上テ　首かせ　左手掛ニリニ掛テ　牛の車　左へノリ込

何くを　左右へ面遣ウ　ゐりさら　左へノリ込笹ヲロス　らいさ　右跡へノリ込ヒラク

引やゝ　左へ引下ヲ見　物見　角取左廻リ　ふりたる　大小ノ前正笹ニテ頭サス

又眉根　サシ込ヒラキ　うつし　正スラ〳〵ト出足留　村鳥　右ウケ面遣ウ

うかれと　右へ廻リ　肩を　笹ウケテ正へ出打込心下テ　かたに掛　笹頭サス心ニテ肩へ上

むしろ　笹ヲロシ二重ヒラキ　乱れ心　右ノリ込　信心を　正先へ下居笹下置

南無や　令堂子方佐問答ノ内ニシテ柱先へ行　是は　佐へ　夫へ　正

妻よへ　佐へ　遠近人　右へサシ廻面遣ウ　もしも　佐へ

我子よ　佐へ　嬉しき人　佐へ　はやして　雜方へ見テ

辱くも 正
親子あふむ サシ込ヒラキ甘扇持正
我子の ヒラキ彩留左右實ヤト謠
哀はかふき シホリ
涙とす 拍子
流るゝ 正ヘヒラキ
にしの 左ヘウケ正ヘ出掛
おき別 サシ廻シヒラキ
いづち共 正心持
ひとかた 甘心立カヘリ佐座ヘ行
歸三かさ 橋ヘ見カヘリヒラキ見上テ
佐保の 下ナサシ廻面遣ウ
打渡て 左手裾ヘソエ二三足歩足留直シテ
山城に シテ柱方ヘ行
玉水へ 正ヘ出
影寫 下ナ見テ
澄ま敷 シホリ右ヘ廻リ
羊の歩 角取
あしに フミヒラキ左ヘ廻リ
さがのゝ 左右
四方の サシ廻
上羽 左右打込開
松尾 サシ廻ヒラキ
夕 霞 右ヘ廻リサシ角取カザシ左廻リ
きせん 正ヘサシ出右ヘウケ
此寺の ムヲサシヒラキ
彼よりも 角取左廻リ
道あきらめん 小廻正ヘヒラキ
毘首 右ヘノリ込
やがて 直正ヘサシ込ヒラキ
天笠 右ヘ廻リ出掛
有難も 左右 打込ヒラキ拍子左右打込

いわんや 右ヘ廻リ出掛
子を恨 サシテ角取カザシ左ヘ廻リ
百萬が 佐ヘ
荒我子 シホリ立廻リ
シホリワキ正出足留角取左ヘ廻掛ニ心持有シテ柱先ニ留ワキ正ウケ是ほどト謠
荒我子 シホリ
南無釋迦 正合掌
狂人乍 サシ角取左ヘ廻リ
なむあみ 正ヘ出サシ込フミヒラキ右ヘ廻リ
心ならず 正ヘツカ〳〵ト出テ
誓に タラ〳〵ト下リ平座シテ合掌
心強や 子方ヘ
思へ共 立扇ヒラキ
たま〳〵 両手ニテマヂキ子方ヘ
花待 左手カケカヽヘテ
ゆめか 右ニテシホリ
能〻 ユウケン
彼御本尊 子方ヘ
衆生の サシ廻
母諸共に 子方ナツレシテ柱先ヘ行カサシ廻ヒラキスエ足留

櫻川

屬名ノリ廻テ太夫呼出ス少シ出誰にてト

居ゆにてゆ 文渡ス左ニ取正
みうせるにてゆ 文ヒラキヨム
なふ其子 内ヘミヤリ

荒悲しや 心持
別る覽 文見テ居打切ニ文タヽミ懷中スル
我子の シテ柱先ニ留テ
子方佐次第如常後一聲越一ノ松留内ヲ見テ謠
悲しやな 正
翔 留小廻綱チロシテ
散るハ 下ヲ見左ヘ廻リ
爰に又 右ウケ
花鳥の 二重ヒラキスエ足一
我子の 正ヘ〳〵ニシホリ
さんゆ 佐ヘ
神の 正
是を 正文ヨム
さりとてハ 内ヘ入
なく〳〵 シホリ 中入
花ちれる 綱チロシ内ヘ入
水なき サシ廻ヒラキ
川やらん 小廻リヒラキ
別れし 正
行衛も 正ヘ出ヲヒラキ
足ハ 佐ヘ
神の 正
唯返〳〵 返シ書ヲヨム心
櫻子 一ノ松邊ニ留正合掌打切ニ内ヘ入
櫻ばな 右ヘノリ込
思ひも 角ヘノリ込
いかにせん 付足
みづから 二三足出テ
うたて 左廻リ
荒痛し 正
又此川も 右ウケ

あだにも 佐ヘツメ足
實々 正
波の花 右ウケヘヒラキ
實面白 正ヘ面遣イ〳〵ニ綱左ニ逆ニ持橋ヘ甘見合ニ正ヘ直綱右ヘ取
波か 佐ヘツメ足
花の袖 サシ込ヒラキ 彩 留左右
誠ちり 正ヘ出ヒラキ
おちても 下ヲ見
霞を サシ廻ヒラキ
雪を サシ廻ヒラキ
なれバ 三足出掛
謂を 正
ありと 佐ヘツメ
櫻川せゝの サシ廻ヒラキ
散ぼぞ 正
是 又 佐ヘ
我も 左右打込ヒラキ
いざたら波 左ヘ廻リ
露を 下ヲ見テ打込
花の 右ヘ廻リ
風も サシ角取カザシ
先此河 佐ヘ
常よりも 二重ヒラキスエ足
あだの 右ヘノリ込綱ニ左手掛ヲ
流れぬ 内ヘ入
流るゝ サシ込ヒラキ甘扇正
云 覽 拍子
されバ 二重ヒラキ上ヲ見テ正ヘ二三足出
悔のや 正先ニテフミ込右ヘ廻リ
上羽 左右打込開
此花 正ヘムヲサシヒラキ
水も 下ヲ見左ヘ廻リ

しほらかして（正ヘ身取）　花に（右ヘノリ込）　水せき（扇ニテ正ヘチシテ出）

櫻川に（ヒヲキ直）　あたら〳〵（ニ甘扇サシ綱持正）　さそへべそ（ヒラキ）

かけて（角取左廻リ正ニ廻リ）　みよしのゝ（サシ廻ヒラキ）　三吉野の（右ノリ込）

花を（正ヘ出スクウ心下ヲ面遣ウ）　又ゝ（面直右ヘ廻リソキ正ヘ出掛）　何れも（サシ分ヒラキ）

花も（佐座ノ上ヲ見乍行）　なみも（下ヲ見テシテ柱先ヘ行）　すくひ（スクヒ乍正先ヘ出綱ヲ下テ）

持たれ共（左ノ手ヲ上ヲ見ル）　是ゝ（綱ヲ捨）　櫻子ぞ（タラ〳〵ト下リ平座両手シホリ）

築紫人（佐ヘ）　何をか（正）　櫻子と（佐ヘ）

いづれぞ（子方ヘ）　花の（立扇ヒラキ両手マヂキ子方ノ側行）　子ゝ（左ノ手掛扇ヲ子方ノムヂニアテ、）

嬉敷（右ニテシホリ）　かくて（子方ッレ右ヘ廻リ正）　親子（ユウケン〳〵ニ子方放ス入スエ足留）

花筐

屬謠ノ終比ニ何事無出いろのヨト足留向合是々花籠文持來ル左ニ取右ノ手添テ

扨ゝ我君（屬ヘ）　此年月（正）　荒御名殘（右ニテシホリ）

され共（面直）　御玉章（籠ヲ見）　いうさ（内ヘ入）

シテ柱先ニ下居籠下置文ヲヒラキ續

君と住（文ヲタ、ミ右ニ持中ノ打切ニ籠ヲ持立）

玉章を（左ヘ少足ヒラキ乍文ヲ持添右ニテ籠ヲイダク心右ヘ廻リ中入）

子方佐次第如常上歌ノ留座ス後一聲越佐一ノ松ニ留太夫二ノ松邊

みなみへ（少上ヲ）　玉章（向合）　我をも（内ヘ入佐大小ノ前行太夫行掛右ヘノリ込翔）

やど雁（角ヘノリ込左ヘ引）　飛立（見上ヲ左廻小廻リヒラキ直サシ謠）　大和ゝ（向合）

急なり（佐ヘツメ足打切ニ正佐二三足下リ）　浮舟の（正ヘツメ）　こがれ（二重ヒラキスエ足）

涙も（右ウケ）　別路の（正ヘ出サレ込ヒラキ）　鹿の（下ヲサレ）

猶通（二三足出）　野くれ（左ヘ甘）　玉ほの（大小ノ前足留）

着にけり　佑〜向右〜甘扇持橋〜行足留　佑モ橋〜行正　御幸の　佑内〜入仕手柱先ヒテ一ノ松太夫二足歩留

のきらへ　佐籠ヲ打チトス荒悲しや下居　籠ヲ両手ニ持立太夫〜向　我等ハ　正佑ハ佐〜

何と　佑〜向内〜入　事新敷　佐〜　御花筐　佐〜

おほあとへ　佐〜　今ハ　正　恐しや　右ヘノリ込フミカエシ佑笛ノ上座ス　世ハ　角取左廻リ

物狂よ　ツメ足左手サスモ扇ニテモ　罰　佐〜左〜廻リ

あらかねの　正下〜出ニムチサシヒラキ　天の見上テ　加様に　正

我如く　右〜廻リ佐〜ヒラキ　人に　右〜サシ廻佐〜　花を　扇ヒラキ左手添テ二三足出上テ祝拝ー二三足下リ下居二三足歩後〜下リ

かこと　佐〜ともの正いれツキ〜　此君　正左リ小ク廻乍

南無や　扇タヽミ合掌　御手　手ヲ下テ　身にうひ

おなつかしや　シホリ　花かつみ　扇ヒラキ　左右打込ヒラキ

爰に　右〜廻リ右〜行掛ニ　袖にも　左ノ袖アレヲイ右〜サス心ニテ　手にも　正〜出巻込ヤウニシテ下ヲ見ル

たゞ　サレ少廻リ角〜カザシテ　水の月　下ヲ見左廻リ　ふして　二三足下リ平座シホリ

嬉しや　ヒザ立子方〜　いさや　佑〜　御幸に　立正

御さき　ヒラキ　給ひつゝ　拍子　其御形　右ウケ

彩又舞ニモ留左右直サシ去玉ふ　佐〜

我も　正　されば共　角取左廻リ左右打込　上羽　左右打込ヒラキ

泰山　右〜廻リ二足正ツメ　暫　爰　ムチサシヒラキ　九花　左右又右〜乗込切モ左右スルモ

夜ふけ　正ツメ　風冷敷　右〜サワリトウケ　月　上ヲ見

夫かと　正〜　面影の　ツカ〳〵ト二三足出　あるか　左〜

なきか　右〜面遣ウ　猶彌増　角〜扇左ニ取左〜廻リ　手にも　正〜ハチヲ出テ

たゞ　右〜面遣ウ　漂渺　扇右ニ取右〜廻リ　尋べき　左右打込ヒラキ拍子　左右打込

無なしき　下チサシ角取左〜廻リ左右佐〜又二ツマネキサスモ　あまりの　佑立籠ヲ太夫ニ渡ス二三足出南手ニ取佐〜渡ス立カヘリ下居

實有がたや　子方へ　彼これ　正　花の筐　子方へ
有かたや　正　御かこと　子方へ　君の　面クモラス合掌モ
御遊の　正　今へ　子方へクモラシ各々立入　供奉の　立
御車　扇ヒラキ子方ノ跡サシ行　御先を　左ヒ引橋チミヤリ　拂や　正へサシ出角へ
誘へれ　カサシ左廻リワキ座ヨリサレ小廻ヒラキスエ足留

柏崎

何事無出小鼓ノ先邊ニ床木掛ワキ正向佐次第道行濟シテ柱先ニ立

何小太郎とへ　佐へ始終向居　など追手　心持　此ほどへ　正
形みを　佐へ　中々　正　早成て　右ニテシホリシホリ乍さてやト
せめては　佐へ　唯古郷　正　實や　佐へ
御理りと　佐守持來リ渡左ニ取正　筐を　守ヲ見テ右ニテシホリ　是を　佐文ヲ渡守左ノ袂ニ入テ文ヲ取ヒラキワキ正ウケ

書たる　文見廻シ心持　有べきか　打切ニ文ヲヽミ右ニ持　などや　佐へ
心のなかる　右ニテヒザチ打ワキヘサス　恨しの　シホリ立　浮時へ　文懷中ニアシテ柱先へ行
神佛と　正合掌ニ手チロシ中入

後一聲一ノ松留笹チロシ右へウケ面遣ィテ是なるわらべ共ト謡

子の行衛　内へ入ヒラキ　翔　留小廻　恨しや　心持ニ足引カ
柏崎をべ　三足斗ツメテ　越後の　二重ヒラキスエ足へ　人めも　ウケ
いつ迄　正へ出　あさ衣　ヒラキ　浦遙〳〵　見ヤリテ
松　風　サシ流テ見テ　我にたくへて　左へノリ込ヒラキ　此さと　心持
子ゆへ　右廻リ　里とかや　右へウケ　ふれ共　笹上テウケ正へ出チロシ
つもらぬ　面遣ウ　淺のと　正へ　桐の花　角取左へ廻リ掛
にしよ　シテ柱へ向其中ニテ　みだ　正ヒラキ　我狂乱　右へノリ込二三足出下居笹下直

妻を合掌　極重立甘シテ柱先正　おしへハ屬〜
唯心の正　女人の屬〜　よし人々サシ廻面遣ウ
聲こそ正合掌　頼もしや拍子角取左〜廻リ　内陣ヒラキ
光明サシ右〜廻リ　此寺正〜ヒラキ
常の燈ツカ〳〵ト出下居ヒザクヅシテ笹ノ中程ヲ持杖ニッキ二ッ打ヨヲブツイザヤ　笹下置長絹鳥帽子持來ル両手ニ取
此鳥帽子右ハ左〜見テ　筐こそ正　是を如來左ハ右〜見テ
思ひは物着　扇おつ取扇見乍立右〜甘正　九品ヒラキ扇ヒラキ
異香サシ右〜廻リ大小ノ前正〜二ッ直廻返左右留サシ謠　是もうき世シホリ
胸にみつ拍子　つら〳〵角取　晴がたき見上テ左廻リ
至らんと正〜ヒラキ　結ほゝれレホリ二重ヒラキ　山高く見上テ正〜出
海ふかし下見テ　此身を右〜廻リ出掛左右　上羽左右打込ヒラキ

是三身カヘ出ヒラキ右〜廻リ　成べくハ正出掛
御池左ノ足フミ出サシ左ハ右〜ミ廻ス左〜身取右ニテ留　道樣よ正小廻リヒラキ　寶の池ハヅス拍子右〜ノリ込
玉の床正　臺も右〜廻リ掛　若我左右　十方のサシ流モ
たなびく打込直ニ少後〜廻リ　西の方角〜雲扇
ひとつ右〜廻リ掛ニ　望を右〜ノリ込
善光正〜出後〜下リ平座合掌　いつれそワキ座〜
みーにも子方〜　たゞひに扇ヒラキ立兩手マ子キ子方〜行左ノ手カケテ
其原やサシ子方ヲ見扇チムヲ〜アテツレ行シテ柱先ニテ手放扇後ロ〜アテルモ正カサシ廻ヒラキユウケン留スエ足又始終子方ツレテ留ルモ
蟬丸　此寺の正ムネサシヒラキ　たゞ願くハ角取左〜廻リ
濁の正サシ出フミヒラク心面遣イ　樂みを右〜ノリ込
本願ヒラキ拍子左右　彼國に身ヲ取
稱名もサシ分角取カザシ左〜廻リ　ともに正

造物佐座ヘ出ス佑佐次第如常ニテ向道行留ニ笛上ニ座

されば 正　荒歎く 佐ヘ

御事にて渡らせ玉ひ候 後ヘ甘物着過テ正向テ質やト

是ハ雨 佐ヘ　同しく 佐ヘ笠持來別ニ置少右ノ方吉　御手ゑ 杖持來リ右ノ手ノ側ヘ置

皇子ハ 立二三足出テ　臥まろび タラ〳〵ト下リ平座笠杖ステ杖肩ヘモタセルモ兩手シホリ俳佑ヲツレテ作物ノ内入ル也

太夫一聲越一ノ松留

翠の髪ハ ツメ足　なづれ共 左ノ手頭取ナヅチロス心ニテ見ル　如何に 右ウケ

拠ハ我 正　汝等か 右ウケ　面白し 正

天にかふつて 見上テ　底に 下ヲ見　是等をゞ 面直ス

我ハ皇子 内ヘ入　戴く 笹頭ヘサス足留テ　是 皆 サシ込ヒラキ右ヘノリ込

翔 留小廻　風にも 正ヘ出掛　手にも 左ニテカツラ取

かぶぐり 持タル髪ヲサストキステル心サレ廻右ヘ廻角取左廻

花の都 二重ヒラキスエ足　末白川 サシ廻シヒラキ拍子

闕の 左ヘウケ　こなたと 左手サス

跡に ミカヘリ橋ヘヒラキ　音羽山 見上テ

松 虫 右ヘ小ク廻リ角ヘ行開心里人もサシ廻シ　なくや 左廻リ

今や引 左右正ヘ出又手綱取心モ又何事無出モ　狂女なれと 右ヘノリ込上羽直

髪ハ 頭サシ下ヲ見テ　黛も 右ヘ廻リ少ク　我ながら 直二三足下リ

夕波の 四五足下リ心持立　げに 笹カタゲ左ソヘ出下見正先ニテ頭取下ヲ見テ水を左ヘ小ク廻リ下ル左ニ頭ヒク、トリテモ

ふしぎやな 佑扇タ、ミサス　世 中 開心ニテツクリ物ヘ向

思ふに 正　佑扇ヒラキ左ニ取謡太夫甘正　わらやの 其中ヘ行正向開心笹ニ左手掛テ

近 付 造物ヘ笹スナル　何逆かみ 佑杖持立左ニテ戸ヲシアケ出　さ も 太夫佑ノ側ヘヨリ兩手出シ瓦手ヲ取

ともに 二人下居　たがひに シホリ　べとうの 左右シホリ

栗田口 クツロギ右ウケ二三足出今ハウケ出ル

思日しに 佐座ヘ行

名殘の 三四足ツメ

我ながら 直二三足下リ

クリニ太夫大小前ニ行下居シセノ前上羽前佑ヘ向是まで二人ニ立

盡す 佑へ　一樹の シテ柱先ヘ行正　實痛 佑へ

立休らひ シホリ　我黑かみ 橋へ行　たかひに 立カヘリ向合

かすかに 見返リシホリトメ太夫入佑二三足出　聞送り 聞心持　なく〳〵 シホリ留

花　月

俳呼出ス何事無出内へ入異中ニ留俳右ノ方ニ

花月と ヒラキ　俳へアシライ有

御遊候へ 俳左ノ肩へ右ノ手ヲ掛

くせ物 正へ出左へ廻リ正足留ねられぬト俳ヲ右ノ方へツク心

驚の 正　我ハ又 右ウケ　其揚由 正

あら面 ツメ足　夫ハ柳 角取左へ廻リレヲ柱先　名こそ ヒラキ

弓に 弓ニテ左へアシライ二三足出掛　よも 右へ二足出掛　いて物 右手ムチサシヒラキ拍子一〳〵ニ正へ出

はいたる 弓右ニ取ツキテフミヒラキ心　大口 甘心弓左ニ持矢ヲヌキツガイワキ正向　よつひき 弓イル心矢ヲ放ス心

佛の 弓矢一所ニ左ニ持　殺生 弓矢兩手ニ持打捨テ下ル　安間の 俳へ答扇ヌキ大小前へ行立

春の比 拍子　今も 出ヒラキ　ちたち 右ウケ

にごる 左右　有時 角取左へ廻リ　岩の洞 正へヒラキ

水の サシ付ヒラキ　名へ 右へ廻リ左右　上羽 左右打込

皆人 右へウケ合掌　猶も 右へノリ込　たべと 右廻リ角取カサレ左廻リ左右　佐問答無別義

御通候へ 甘カツコ付テ扇サシ正行出ヒラキ甘カツコ破掛留左右　悲しけれ 拍子

先築紫 角取左廻リ　扨伯者 正ヒラキ　丹後 右へ出掛

鬼が城 ムチサシヒラキ二重ヒラキスエ足　扨京近 右ウケ二三足出　愛宕 左ノ手佐座ヘサシ行

平野の サシ廻右へ廻リヒラキ　少心の 正へ出掛　月の サシ廻ヒラキ

日比ハ（左ヘノリ込ヒラキ）　みてや（角取左ヘ廻リ）　山上大峯（ヒラキ見上テ）

ふじの（正ヘノリ込）　あかりつゝ（ヒラキ左ヘクワツシ廻リ）　ふす時（佐ヘ）

加様よ（立右ヘ廻正）　此ささら（バチ打合テ）　さら〳〵（右ノリ込）

舞てハ（サシ分杉ユヒ打ナ）　山々（サシ分右廻リ出掛）　あの僧（佐ヘムチサシヒラキ）

今より（正出掛）　此さゝら（バチ上テ見テ）　さつと（バチ捨テ扇ヒラキ）

あれ成（佐ヘサシ廻リ）　佛道の（シテ柱先カサシ左廻ヒラキスエ足）

東岸居士

一聲岸越内ニ入留

嵐かな（ヒラキ）　事新敷（佐ヘ）　柳ハ緑（正）

氣色（ツメ足）　是ハ先師（佐ヘ）　扨々（正）

むつかしさ（佐ヘ）　善を（正）　こゝに（佐ヘツメ足）

髪ハ（正ヒラキ頭サマヒラク斗モ）　南枝（角取左ヘ廻角小取モ）　進に（正ヒラキ）

彼岸（佐ヘ正）　實々（佐ヘ）　是とても（ツメ足正）

皆彼（サシ込ヒラキ地次第ニ甘正）　胡蝶の（ヒラキ）　遊びた（甘）

三段舞（破掛留左右クリ大小ノ前行）

眞如の（ユウケン）　隨つて（拍子闘さより出）　迷ハぬ（ヒラキ）

生死の（角取左ヘ廻リ）　雲と（正ヘサシ出ヒラキ見上テ）　なゝと（右ヘ廻リウケ出）

魂を（ヒラキ拍子）　かの（左ノリ込ヒラキ）　かばね（角取左廻）

眼をハ（ヒラキ）　慈悲の（左廻リヒラキ左右）　上羽（左右打込ヒラキ）

貪欲（右廻角ヘサシカヂシ左廻リ）　彼岸に（左右佐ヘ）

佐嗣過甘クワラ取カツコ付扇サシ正

波の（佐ヘ）　袖を（正）　ささら（ヒラキ右ヘノリ込カツコ破掛留上扇）

あらたまれ（左右打込）　行は（直）　橋を（ヒラキ見ヤリ）

此方へ（橋ヘサシ見ヤリ右廻ヒラキ）　打波へ（カツコ見テ）

つゞ見（カツコ打）　さゝら（バチ打合）　旅人よ（佐ヘムヲサヒラキ）

荒面白（二重ヒラキ）　何れも（サシ分右廻リ出掛）　げに（右ヘノリ込左ヘ）

紘官（サシ右廻ヒラキ）　あふ南無（バチ打合）　雪や（ムヲサシ高ク）

氷と（下ヲサシ右ヘ廻ヒラキ）　何と（正〳〵ヘ出掛）

隔つらん拍子万法（サシ左廻）　實相皆（バチ打合心持留スエ足）

自然居士

俳呼出ス何事無出一ノ松留正ニテ札召れ候ヘト云テ内ヘ入大小ノ前床木掛俳取扱て

つゝしみ（合掌）　心（経手ヲロシ）

子方出俳手ヲ取ワキ正ヘツレ行下居

や是へ（俳子方ヲ見テ）　御覽候へ（俳文ヲ渡ス太夫左ニ取ヒラキ）　彼西天（手ヲロシ）

今の（文ヲ見テ）　同臺に（左ノ足少引心ニテ文ヲイタヾキ）　自然居士（文ヲ二ツニ折捨テ）

墨染の（右ニテシホリ）　聽衆（手ヲロシ）　何事にて（俳へ）

荒曲も（俳へ）　其うへ（正）　ちと（俳へ）

此小袖（見テ）　さあらべ（面直ス）　御身の（俳へ）

暫（俳へ心持）　居士此（小袖ヲ見テ）　彼女に（俳へ）

二道（右ノヒザ打俳ヘサス）　今日の（正）　願い此（合掌）（俳小袖ヲタヾミテ太夫エリヘ掛左ノ方袖ヲ遣太夫左手ニテヲサエテ又小袖折タヾミ左ニ持モ）

佛道（立橋ヘ行二ノ松越テモ）　舟なく（右ノヒザ打込）　道ゑ心（左ノ方ヘ面遣少左廻内ニ扇ヒラキ二ツヤキなふ〳〵と内入シテ柱先佐ヘ）

其舟漕（カイ掉ヲ見ル心）　水の煙（佐ヘ）　是へ（佐ヘ）

說法の（正）　恨やに（佐ヘ）　御僻事（佐ヘ小袖左ヶ右ノ手掛ヲロシ小袖投遣心）

舟に放れて（ツカ〳〵ト行）　もすゝ（左ノ手ニテカヽエテ）　ふなられた（左ヘフミ込右手出舟引ヨセル心左ニテモ）

引留む（中腰ニテ佐キツト見）　何しに（子方ノ例ヘ行）　引立（子方ヲ引立イ立見ル）

なけ共 扇ヒラキユウケンノ心　心安く 子方下ニ置太夫立真中ヘ行　此者を 佐ヘ

さんゆ我等 正　委細 佐ヘ　がうぞと 佐ヘ

ふつゝと 打合大口ノ後取平座正　唯御上り候へ 立佐ノ臭見テ　あゝと 謡入替佐表ヲ行シテ柱先

惣して 佐ヘ　夫は 正　あふ 佐ヘ

御舞候へ 笛座甘鳥帽子着立正能くト　此者を 子方ヘ　餘りに 佐ヘ

つれなき ヒラキ甘 三段舞 破掛留 左右

クリニ大小ノ前ヘ行クセ前アシライ

士卒あり 拍子　池の面 右ウケ　寒き 正ヘ出ヒラキ

浮みしに 拍子　又蜘と 二重ヒラキ右ヘ廻テモ　是も 正見上テツカ〳〵ト歩

うへに 左ノリ込ヒラキ　次第〳〵 サシ角取左廻リ　立くる ヒラキ左右打込ヒラキ

皇帝 右ヘ廻リ正ヘ出掛　蛍巾を 右ノリ込　御代を サレ廻開左右

上羽　左右打込ヒラキ　舟を サシヒラキ右ヘ廻リ　又君 サレ角取カサシ左廻左右佐ヘ

さらば 佐ヘ　彼佛 正　彼者 子方ヘ

扇の 扇ヒラキ上ヨリチロシ見テ　持たる 數珠ヲ見ル　さらり〳〵 扇上ヲ二ツ拂

ささらと 佐ヘ扇タヽミ　居士も 正　百八の 數珠二ツタワメテ

竹にハ 扇逆手持　取合 打合一ツスリ直ニ　所ハ サシ廻ヒラキ

さゝ波や 右ヘノリ込　松の上葉 スリ乍右ヘ廻リ正ウケテ　數珠 右ヘノリ込

手をも 佐ヘ合掌下居　御みせゆ 立甘扇サスカツコ付水衣肩上テ正　本 來 ヒラキカツコ留左右

本 來 拍子左右ニテ正ヘ出掛　よせて ムチサシヒラキ拍子　天雲 サシ廻橋ノ方ヘヒラキ

どゝろ カツコ打乍橋ヘ行右少廻リ一ノ松ニ留　降くる 上チ面遣イ　はら〳〵 右ノヒザツキカウランヲ打立右少廻

おさゝの 片バチニテ内ヘ入正ウケ留　又 打カツコ打　さゝら バチ打合佐ノ方ヘ行バチ捨鳥帽子ヌギカツコ捨扇ヒラキ

舟の内 子方ヲ引立ツレ入心手放シテ柱先ヘノリ込ヒラキ留スエ足

錦木

作物大小前出次第佑先ニ立内ヘ入正眞中ニ立

太夫仕柱ノ先ニ立向如常くやしき入替大小ノ前

いや〳〵 佐ヘ

讀歌の 佐ヘツメ

歌物語 佐ヘ

夕日の 西方ヘ見上

是を錦木 佐ヘ

夫婦の 立佑モ佑二三足出

眞如の ヒラキ左右 上羽

狐 住 造物ヘヒラキ見上テ

是ハ錦木 見テ

見奉ハ 佑向合

錦木ハ 正〳〵ニ佑笛座ニ座ス

恥かしや 正

宿 よ 佑ヘ〳〵ニ甘扇持正

去程よ 正

彼旅人 佐ヘ

御物語ひへ 大小前下居正

千東共 佐ヘ

彼岡よ 角取左廻

山の戸陰 サシ廻ヒラキ右廻リ

左右打込ヒラキ

佐ヘヒラキ右廻作物ヘ中入佑甘

是よ召れ 佐ヘツメ足

ふしんふ 佐ヘ

さしも ヒラキ

實 や 右廻リ

後出羽一段打チロシ佑仕柱先ニ立佐ヘ向尾花か太夫後ロヘ出正ヘ歩佑笛ノ上ニ座ス

調れ出る佐ヘヒラキ引廻チロス

いふからく 拍子正

殺 利 サシヒラキ右廻小廻佐ヘヒラキ

女ハ塚の 佑作物ノ後ロ方入下居太夫甘錦木持正出

さしたる 扇ニテ綿木二ツ打 地

キリハタリチヤウ〳〵キリハタリ——ハタヨリマツムシキリ〳〵ス

松 虫 拍子右ヘノリ込

夢中に 佐ヘ

奈 落 角ヘノリ込正ヘウケ

荒恥しや 正

きりはたり ミツ打 佑正ヘ出佐座ノ上行座

つゞり サシ分右廻正ヘヒラキ

底 よ 下チ見左廻リ

旅人こそ 佐ヘ

おつどは 左ノ手見テ

千種の 佑ヘ向大小前座正綿木下置

打切左ニ綿木取立佑ノ前行座綿木下直

たがひゐ 正

夜ハ既よ 東ヘ見上

すゞ〳〵と 立右ヘカヘリ正

去ほどよ 角取左廻リ

人しれぬ サシヒラキ右ヘ廻リ

左右上羽左右打込

年くれ（身カヘヒラキ右ヘ廻リ）　我も（佑ノ前ヘ行）　錦木と（大口後取平座）

袖の（立左ヘ廻リ）　などや（佑ヘムチサシヒラキ）　扨いつか（右ノリ込左右甘）

千束に（正）　ねやの（サシ込ヒラキ）　嬉しやな（ユウケン）

雪を（ヒラキ甘）

五段ハヤ舞破掛留左右

舞を舞（拍子）　〜（左右正ヘ出）　妹脊の（打込扇左ニ取カイ込ヒラキ品ニ右ノヒサツキ）　たつるハト

おるハ（立右ヘ廻仕杜）　とり〜（扇ハチテ正ヘ出）　盃に（扇ウケテ高ク上テミル）

うつりて（下テ見ル）　有明の（佑ノ方ヘ行）　恥かしや（扇左ヘチハヒ正ハヅシ）

浅まゝや（扇右ニ取右廻）　覺ぬ（正ヘノリ込飛廻リ下居）　錦木も（正ヘグワツシ）

細布（クワツシ廻リ立）　松風（サシウケ仕柱先ヘノリ込扇左ニ取飛廻下居扇面チハヒ留）

小督

佐呼出謡ヨて出是ハ帝よりト下居謡

扨さが（面直）　申とそ（敬）　今夜ハ（面直ス）

委ゆ（敬）　顧出るや〜（立内入）　急ぐ（サレ込ヒラキ中入）

造物出ス佑二人俳出戸ヲヒラキ内ヘ入佐座ニ座俳佑ヘ苦ヲ語出ス

後太夫一聲越一ノ松ニ留

駒の足並（左ノ足見テ）　男鹿（面直）　此山里（ツメ足）

さがの〜（右ウケ見上テ）　さこそ（正ヘ心持）　片折戸（ツメ足）

鞭を上（ムチ上テ下ヲ見）　賤か（直）　若やと（手綱取内ヘ入）

駒を（仕柱先足留心）　かけよせ（左ノ方ヘ行）　〜て（右ノ方ヘ行足留）

扣〜（足留テヒカヘル心）　聞とも（閉心）　月よや（直ス）

出玉ふと（手綱取右ヘ甘心）　参れば（正足留テ二重ヒラキ）　峯の（見上テ）

松かぜか（サシ流 橋へ）　尋る人（右廻リ 内へ入）　何ぞと（作物ノ方へ行開）

相夫戀（心持）　疑も無（正へ）　やがて（甘扇 持正）

いかゞ（造物ニ向）　たぞや（小ニ）　中々（ニ立戸ヒラキ下居）

門さゝれては（ツカト歩）〜　扉を（左ニテ戸チオサエテ）　是は（小へ）

いや如何ゞ（小へ）　笛仕れ（小へ）　夜の聲（ツメ足）

勅定（心持）　隔玉ふや（二三足下リ右ヘ甘心ニテ仕柱先）　今宵へ（平座左ノヒザ手チカクテ見上 又ツグリ物ノ例ニテモ）

所を（平座 主ハツレ面斗）　仲國（ニ小へ）　さらば（小ニヘニ立太夫へ）

此方へ御入ゆへ（太夫敬）　畏てゆ（立後見座甘肩チロシ道物入ル 扇正へ出佑へ向下居敬謠）

辱も（扇ヒラキ下置上ニ文チ出扇ニノセ立佑へ持行下ニ直出ス佑右ニ取 左へ持見ル太夫二三足下リ敬テ恐ナガラト謠佑正へウケ本來ル）

問こう（右ニナシホリ太夫心持文下ニ置）　中々（太夫へ）　身よしめる（太夫へ）

宿へと（太夫へ）　是迄（敬）　直の（文チ扇ニノセ出両手ニ取ヒザ立カヘ 座へ下リ敬）

月ゝ間（太夫正文クワイ中扇タヽミ）　涙かな（佑シホリ）　ほどあらじ（佑へ）

舟車（イ立頭サス）　やがて（直見込ニ扇ヒラキ立酌 太夫ウケテニ座へカヘル）　酒あん（正ウケ〜）

聲住み（扇タヽミ立ヒラキ甘）

五段舞破掛リカ上扇

引とゞむ（拍子左右打込）　言の葉も（角取左へ廻リ）　立舞（又角取廻リ品扇タヽミ懐中ヒラキ）

今へ歸り（佑へムネサシ行左ノ袖アシライ）　袖打合（左右ノ袖カヘシ下居敬）　急ぐ（立正へ出足留）

馬乘心飛ヒラクヤウニ右へ手綱取橋へ行佑立正へ出見チクリテ

小督は（佑へ見カヘリ右へ廻ヒラキ留スエ足ナシ）

春榮

子方佐座へ出太夫佑次第橋ニテ立向如常名乘ニニ下居地次第ニ笠ヌギ

ありかへと（達拜笠着向合中ノ打切正へ二三足出〜ニ向合笠ヌギ正）

此所よて に〜　畏てゆ 入替に一ノ松留俳呼出

俳問苔過テに太夫ノ前座苔笠捨下居少刀ヌキに俳へ渡スに立太夫入替内へ入に太コ座前ニ座

さんゆ 佐へ問苔心付　そと御覽ゆ へ 佐子方チツレ立二三足出

橋ヲ見セテ又座〜カ〜リ下居

是ゝ候 佐〜　暫 先ツメ足正

此方へ渡り候へ 佐子方チツレ正へ三四足出太夫ノ方へツキ放スツカ〳〵ト歩太夫覗見テ座へ歸太夫ツカ〳〵ト行右ノ袖ヲ左ニテ引留

いかに 子方〜　扨も 右へカへリ正　猶も 子方〜

深山木 正　何と 子方　山皆 正

今の 子方　種直 正先へ出下居　や刀は 左ノ腰ヲ見テ

御芳志 立右甘心　なふ〳〵 子方ツカ〳〵ト歩太夫左ノ袖右ニテ引留　忠が不忠 子方二三足下リ下居合掌太夫心持

打切ニ子方座〜カ〜ル太夫眞中ニ座正

實持べき 子方〜　共に 太夫子方佐シホリ　暫と 佐〜イ立ヲ

如何に春榮 子方〜　いかに小太郎 正へ直スに正へ出太夫へ向下居敬

是成守 守出左持見テ正　種直が 扇ヒラキ二三足出守渡ス右ニ取扇ニノセ二三足下リ敬

是成文 子方文出テ左ニ持見テ　又形みにゝ 面直シ　千筋と 二三足出文右ニ持扇ノセ下リ敬

歎き 子方〜　痛はしや 太夫子方シホリ元敬

クリニ直に立甘守文懐中少刀サシ扇持入

繋れ 子方へ　渡りも 子方へ　唯心の 子方〜

所を 正　爰は東路 佐子方チツレテ立正へ下居佐太夫へ左ノ手サストト立面クモクシツキ正へ出子方ヲ見テ心持正下居

我等を 合掌ニ人に　七人の内 手チロシ　先讀ん 少右へウケ聞心

太刀の 佐子方チツレ座へカ〜リ太夫甘心　兄弟は 子方〜　今の 角取左へ廻リ子方へヒラキ大小ノ前下居

俳少刀持來ル少甘心少刀サス正佐問苔

實此上は 佐〜　重て千秋 佐前ニ立ウケテ

猶々 子方酌ニ立佐太夫へト行ウケテ正さらば佐〜祝心ハ露取イ立テ

男舞留ワカ上ケ扇

千世の 拍子左右　老木も 角取左〜廻リ　又ハ兄弟 サシ分右廻ヒラキ佐子方ナツレテ正〜出座

榮ふる 扇右〜ウケ正〜出チロシ下居扇下置　三嶋の 合掌三人ニ　親子 佐子方ツレテ入太夫扇取サシ廻リ

打つれて ウケテノリ込ヒラキ袖返スエ足留

蘆刈

佑佐次第立向如常

太夫一聲起一ノ松ニ留造物見付柱ノ側〜出ス時始一聲ノ前ニ出ス又一ノ松ニテハサシノ謠ノ内ニ出ス無方吉

詠ゝつゝく 右ウケ　出浮ひ 正ヨ廻ス心　心も住る 二足ツメ

難波なる 内〜入左〜ノリ込　翔 留小廻リ　立舞 右〜ノリ込

隱所は 作物ヲ見テクモラシ左〜廻リ小廻ヒラキ　成たる ツメ足

塩たるゝ 二重ヒラキスエ足　と 浦 ウケ　浦に出 右ウケツメ足

芦たづ 角取左〜廻リ　猶 有 ヒラキ甘笠ヌギ正　賤けれ 正ヒラキ

さん候 佐〜　我も 正　此方の 佐〜

さん候 佐〜　中ぐの事 芦ヲ見テ　色ふく 佐〜ツメ足

芦と云 ツメ足　むつかしーや 正〜ヒラキスエ足　伊せ人 佐〜

唯世を 正〜出ヒラキ　賤しき ウケ

芦を取 左廻リ

おあし添て 左ノ手添佐〜二三足ツメ甘芦左ニ持扇スキ正〜ツカ〳〵ト出右ノヒザ折テ芦ヲ刈仕舞　芦を刈 扇ニテ二ツ

夜 ハ 見上テ立甘心　ひるの 芦ヲ扇ニ添テ佐〜二三足ツメ〳〵甘芦拾　御津の 右ウケ

荒何共 佐〜　御津と 佐〜　有がた 佐〜

やあれ ウケ心持　よせ來る サシ込ヒラキ　名にしおふ 角取左廻リヒラキ

古歌をも　佐ノ袖ヲ取　正ヘ出掛　目の前　サシ廻ヒラキ　あれ　佐ヘ

面白や　正ヘ右廻リ　難波　右ヘウケ見ヤリ　おぼろ　正ヘサシ出ヒラキ左廻

海士の　左右　雨に〳〵　ニ甘扇サシ笠持正　かさは　見テ

ぬふ鳥　正ヘ出　鵲も　雲扇ノ様　月の　角取左廻リ小廻リヒラキ

是ハ又　笠左ノ手掛カヅク心　なにハ　拍子　かづく　サシ正先ヘ出右ヘフミ込

ひぢ笠　左ノヒザ折テ右ノヒザヘ笠ヲツケテ　雨の　立左廻リ　乱るゝ　笠左手カケ佐ノ方ヘ

あかたへ　拍子　此方へ　右ヘノリ込右ヘ廻リ　風の　角ヘ笠ヲナゲ見テ右ヘ少廻何トナク下居左ノ手ヒザニ掛

畏て候　佐ヘ立甘芦一葉持佐ヘ向さらバト　畏て候　佑ノ方ヘ行下居面見合声ヲ捨立ツカ〳〵ト作物ノ方ヘ行左ニテ戸ヒラキ入戸ヲタメテ座平座又ツクリ物ナシニモ

是ハ夢かや　佑シホリ立作物ノ方ヘ行問答　さのみは　立右ニテ戸ヲヒラキ出真中ヘ行

おもなの　左右ノ袖見テ　三年の　右ヘ甘扇ヲキ佑ヘ向二三足出座　物看　甘正向トクリ謡大小ノ前座

言葉の　佑ヘ　我等　佑ヘ打切ニ左ヘ立甘正　やわらげ　拍子

武士の　出ヒラキ左右　上羽　左右打込ヒラキ　濱の　サシ廻ヒラキ右ヘ廻リ

唯もて　サレ角取カザシ左廻佑ヘ下居扇タヽミ　さらべ　佐ヘ　今ハ　正露取達拜

男舞　留左右　浮れ　拍子左右打込ヒラキ　〳〵　サシウケテ正ヘノリ込廻ヒラキ品ニ

月も　雲扇　花も　二重ヒラキ右ヘ出掛　今は　サシ分佑立入アトヘサシ行

御津の　ウケノリ込ヒラキ袖返スエ足留

笠之段過直ニクリニ成事モ謡少々替有ベシ又道物無テ橋ニテスルモ

盛久

何事無謡乍出

いかに　佐ヘ　立らをゆへ　立正先ヘ出下居前無やト

いつか又　立コシカサスロンキノ内見合

三保の　左廻リ内ヘ入笛座ニ床木ニ掛　せたの長橋　橋ヘ行

當流是迄ナレ夢中ニヨリ始モ有

コシサシ掛出佐座床木掛佐名舞過甘

夢中れ 謠　土屋殿と 床木ヨリ下リ下居　唯とも 佐〜

かくて 正　扨ハ早 佐〜　扨は暫 佐〜

我此年月 正　彼御經 佐〜

ゆさふするにてと 正經ヒラキ有ウさやト謠節ヨリ左〜持モ又懷中シテモ　實能 佐〜

此文と 正經ヲ上テ見　實賴母しや 佐〜　種々 正經ヲ見佐近ク〜來ル心持有

有難しと 戴　命ハ 佐〜經下テ打切ニ經卷左持　昔在 正

暗からト 心持クモラシ　荒有難 心持　左りふハ 見テ

右れハ 見テ　足弱々と 心持立

コレサレ次第ニ正方仕柱ノ方〜廻地次第ニ太コ座ノ前方正眞中〜行コシ直ニ入太夫眞中ニ立

盛久 大口後取正平座經ヒラキ見ナガラ　盛久も 經下ケ問答正ニテ　經文 經上見テ

劔段々と 立大刀見テ　末世 正　荒有難 經載打切ニ卷

御使 正〜敬　召に隨 立甘物着

物着過立正〜出ト如何に盛久ト敬下居

何をか 少而上テ クリ謠作立大小ノ前行下居

ゲセノ前中ノ打切上羽前留佐〜向

感涙を シホリ立　御前を 橋〜行　召されハ 正座敬

いかゝ 立大小前行下居敬　命ハ 面直　御盃 佐酌ニ立ウケテ

花をうけ 扇タヽミ　有がたゝ 敬　治りなびく 面直ス

唐土の原 露取

男舞留左右

酒　妾（拍子左右打込ヒラキ）　君を（正ヒラキ）　松の葉（サシ廻ヒラキ下居）

長居ハ（敬）　罷申（立仕柱先ヘ行ヒラキユウケン二袖返スユ足）

安　宅

次第子方太夫佑俳強力内ヘ入立向

扨御供（佑ヲ見廻）　辨慶ハ（正）　主　從（向合）

氣比の（正）　松の（右ウケ）　末ハ三國（段々右ヘ見廻心持有）

なびく（二三足ツメ）　着にけり（足留ヘ着足）　御急ぐ程に（正）

暫此所（子方ヘ）

太夫甘子方佐座床木掛佑座太夫立正ヘ出子方ヘ向大小前行掛トイカニト謠座敬問答心付ベシ

是ハ一大事（正）　皆々（佑ヘ見廻テ正）　暫（イ立心二人メノ佑ヘ心持有）

唯何共（子方ヘ敬）　某きつと（正）　みな〳〵（佑ヘ）

何とやらても（子方ヘ）　恐多き（敬）　如何に強力（正心持ニテ直俳見付柱方座笛ヲ持テト面斗ニテ）

俳立笛持來前ニ置腰引立兩手ヲ掛重キ心持ニ立正ヨリ子方ノ前行下置笛ヲリ直ス子方床木ヶ下リ甘物看太夫座ヘカヘリ俳ヲ見テ汝ヶ笛ト謠乍座ス問答

子方篠掛水衣取笠笛ヲヒ杖右ニ置正太夫俳問答過子方ヘさらバ御立ト云ト子方佑各立並實や紅井ハ

あゝ痛け成（子方ヘ）　弱々と（子方二三足歩太夫クモウレ二三足下ル心）　是ハ南都（正）

さらバ皆々（佑ヘ向承ルト聞橋ヘ行正ヘ廻内ヘ入子方甘一ノ松ノ邊ヨリ佐謠掛テ）

先勸に（佐ヘ）　扨其謂（佐ヘ正）　委細（佐ヘ）

よも誠の（正心持）　扨其切たる（俳ヘ二三足ツメ）　一人も（佐ヘ）

かゝる（正）　尋常に（佐ヘ）　皆々近ふ（佑ヘ扇サレ珠數右ニ取）

イノリ打掛ル正先ヘ出大口後取平座佑段々ニチンアヒラ腰引立珠數スリテ直ス

何と勸進帳（佐ヘ面斗）　心得ゆて（立甘）

巻物左ニ持正ヘ出本來ト謡乍正先ヘ行ト佑各立太夫ヲカコフ心ニ立並勸進張心持有

關の人々 巻物マク　承りは 云テ橋ヘ行掛ニ巻物後見ヘ幕側ヘ行佑追々行幕ノ方向居

子方立正ヘツカ〳〵ト歩佐とまれと社ト云下居杖肩ヘモタセテ

すは我君 佑ミカヘリ　一期の 珠數二ツ折ニシテ懐中　皆一同 少刀手掛ヲリカヘリ

あゝ暫 ツカ〳〵ト歩佑ヲ左ノ手ニテ留テ　や あ 子方ヘ　夫は 内ヘ入

扨誰よ 佐ヘ正　や 佐ヘ　强力めは 子方

腹立や 正　笛 を 子方ヘ心持　よく〳〵と 珠數二ツ折懐中シテ心持

いて物 右ノ方ヘ廻子方チキット見込　金剛杖 杖両手ニテ取ニツ左ノ肩ヘ打　通れと 子方ヲ杖ニテノケル心子方甘

や笛よ 佐ヘ　盜人 左ノ手サス佑各内ヘ入佐ヘツメカケ少刀右ノ手掛押合太夫左右ヘ留ル後ニ不記

御通候へ 太夫甘佑各座ヘ行立並子方正ニ出佐座ヘ行太夫正ヘ出留此所子方ヘ皆々佑ヘ子方床木掛佑座ヲ太夫大小前ニ敬

如何よ辨慶 子方ハ　關の者 直　是辨慶 太夫ヘ クリニ直

たゝひよ 子方佑各見廻シホリ　成はつる 太夫　唯世ふは 太夫ヘ

恨めしの シホリ太夫心持　頃て御目に 俳ヘ苔子方ヘ敬ト子方立佑ノ前ヲ通甘太コノ後甘居 俳問苔過見付柱ノ方下居 又甘モ

太夫立佐座ノ方ヘ行仕柱ノ方ヘ向佐ト向合仕柱先ヘ行正賞々是モト謡

あやしめ 佑ヘ見廻　此山陰 右ウケ　所 も 正ヘヒラキ又ワキ向眞中ニ下居モ

面白や 直ニ〳〵ニ立モ角取左廻リ　手まつ 小廻正ヘヒラキ　本來 左ヘノリ込

舞延年 右ヘ少廻リ　是 成 扇ウケテ正ヘ出又見付柱ノ方見上立　落 そ ムネサシ拍子

なるは 甘心扇ヒラキスクヒ佐ヘ行下居　承り 扇タヽミ正　男舞 連拜留ツカ

あるそ 上ケ扇　日 は 拍子左右出掛テ　とく〳〵 佑ヘ皆ニ入ル

心ゆる今多 左ヘ廻リ　關守の 佐ヘムキサレヒラキ下居　暇やそ 敬

笈 を 扇右ヘチロシ正ヘ出テ　肩 よ 頭サス心立　虎の尾 拍子ミ仕柱先ヘノリ込ヒラキスエ足子方先ニ立入

小袖曽我

女佑何事無出佐座ニ座太夫佑ニ次第内〜入立向如常道行留如常橋ノ留ニ太夫正〜クリ太コ座〜甘佑モ甘弓矢捨扇正太夫一ノ松立佑二ノ松ニ太コ座正下居又切戸〜入ル

太夫内〜入仕柱先ニ立俳問苔過直中〜行母ニ向問苔下居

不孝の　佑舞臺〜見テ二足ツメ　同〜子　正　さ　も　太夫母〜佑内〜見込

たとへべ　正　隔　有　佑シホリ　悲しけれ　太夫立橋〜行一ノ松ニテ佑〜日本一

急いで　入替内〜入仕柱先ニ立俳〜少シハヅシテ太夫二ノ松ニ正　いつ〜らの　佑正

見ゆはぬ　佑母〜　あらふ〜　正　御ちのこと　母〜ツメ

みすき帳　心持二三足ツメテ　情なの　シホリ　祐成そ　太夫内〜扇ヒラキ

早此方　二ツマテキ少歩テ　はねかれそ　佑橋〜シホリ乍行　打れそも　下居心持

扨御機嫌　扇タヽミ佑〜

唯御参り候へ　内〜入異中ニ座佑内〜入少シ下リテ右手ニ座二人ニ母〜

中々　母〜打切ニ正　不慮の　母〜　惣しそ　正

恨み顔　見込イ立テ　なく〜　シホリ乍立佑ノ橋〜行　赤澤山　母〜

あれ　左手サス　なく〜　シホリ　兄　母　も　立二三足出

祐成　二人ニ直母〜敬　如何よ時宗　太夫佑〜佑敬　第二人ニ立カヘリツカ〜ト内〜入シホリ乍ニ平座母下居

母の　二人ニ向　余りの　太夫扇ヒラキ立母ノ方〜行シヤクウケテ　時宗と　佑〜シヤクウケ　此ほど　正

うたふ聲　扇タヽミ立甘心　高き　正　ふじの　正〜ヒラキ

ゆき　右〜廻り

男舞破掛相舞留左右

舞の　拍子左右打込ヒラキ　其隙よ　正〜出　兄　第　向合

是や　角取左廻リ　おーかの　母〜ムヲサシ出下居敬　かへる　正〜ヒラキ

ふーのゝ 拍子　年來ユウケン　たゞひよ 向合
胸の 扇ウケ正ヘ出ヲロシ　えらーて 少廻カヘリクモノ扇　清見か サシ廻右ヘ廻リノリ込
兄弟 拍子三正ヘヒラキ袖返スエ足佑橋ヘ行留

通小町

佑次第内ヘ入如常

扨も ウケ　けふも 正　如何ゝ案内 佐ヘ
御物語らへ 大小ノ前下居正　恥ーや 佐ヘ　小野とは 正立
市原 佐ヘ　跡とひ ヒラキ右廻ヒラキ中入太コ座甘

太夫一聲コサズ衣カヅキ出一ノ松邊留佑見合ニ正ヘ出佐ヘ向舞出ス

薄おし分 大小ノ前行　ほゝ出て 打切ニ衣ヲヌキ捨　まねかば 右ニテ佑ヘ二マチク
思ひは 正　さらべ 心持少引心　はゝれー 内ヘ入

袱を取て 佑ノ右ノ袖ニ両手掛ヒキ留心　ひらるゝ 佑少ヒク心　ひやふる 太夫ヒキモドシ
我袱も 手ヲロシ　共ゐ涙 右ヘノリ込二人ハ佐ヘ　扨も 正
本來 佑佐ノ上ニ座ス　思ひも 佑ヘ　誠と 正
忍び車 佑ヘ　車の 正　山城の 正ヘヒラキ
君を 佑ヘ甘笠右ニ取正　袖を打 左ノ袖アシライ　目ゝ美へ 笠ニテ面カクス心
鬼一口 笠ヲロシ　身ひとり サシ角取カザシ見上テ　雨の 拍子
立廻左ヘ廻仕テ柱先小廻笠面ニヲ、ヒテアラクラノロヤト心持有
夕暮は 直ス　夕暮何と 佑ヘ正　月は待 東ノ方見上テ
我をぼ 佑ヘ　空事 笠ニテ佑ヘサシ正ヘヒラキ　あかつき 拍子
數々多き 角取左ヘ廻リ　夜も 方角雲扇　たゞ獨 佑ヘ二三足ツメ後ヘ下リ平座
摺の數〳〵 左ノ手出ニヒ三ッ折　九十九一ッ折　今は一夜 左ノ手見テ

待日よ　立
藤　袴　左ノ手大口ニ掛
紅ゐの　右ヘ廻リ
月の盃　見テ
罪を　佐ヘハ子テ

笠も　見ル後ロヘステ
待らん　正ヘ出掛
衣紋　左右打込ヒラキスエ足
いまーめ　佑ノ方ヘ下居
小野の　扇右ヘ取右廻リ

善知鳥

佑子方何事無出佐座ニ座太夫呼掛ニノ松留

實　慎　足留
麻衣の　左ノ袖トキハチテ
客僧　立カヘリ佐ヘ見チクリ心

や思ひ　正
是を　兩手ニ持シホク打切ニ佐ヘ渡ス
亡者へ　シホリ

今その　佐ヘ
雲や　右ヘ甘心ニテ
見送りて　佐ヲ見直ニ中入

佐俳問答過テ佑諸出佐問答心付ベシイマトリイダシト水衣出シミル佐袖持來テ衣ノ上ニチクヨク〳〵ミテ

みのそも　扇ヒラキ上扇ヒラキ
すそ早　西ヘ見上
おんじゆは　扇左ニ取正ヘ出ハチテ
たゝ　立左ヘ廻リ
共よ佛道　合掌スエ足

荒なつかし　シホリ　佐甘笠渡ス取正先ヘ出下直合掌

後一聲コサズ内ニ留

鳥けたもの　ツメ足
籬が島　正ヘ見ヤリ打切ニ左ヘ廻
我子の　子方ヘ
雲の隔か　タラ〳〵ト下リシホリ
わだの　右ヘノリ拍子杖入マゼテ
松島や　左廻リ大小ノ前ニ
海こ一成し　正

衆罪　佐ヘ合掌打切正
心有ける　右ウケ面心持正
千世童　左ニテ二ツナアワロス心二三足出カ
〳〵　少甘心立カヘリ
我袖　左ノ袖アシライ
なくより　シホリ下居
忘れ斗る　兩手打平座シホリ

おくよ　右ウケ正ヘ出テ
親子　佑子方立シホリ下居
荒なつかし　ツカ〳〵ト歩子方座ス
今迄　佐座ヘ面遣ウ
たつや　正ヘ出テ左ヘ引心笠ヲミル
末の　右ウケ右手上テモ

打切杖持立甘心正シテ柱先ニテ

おろゆ　正ヘ出
木々の　頭取見上テ
波の　面遣ウ

平砂よ（角取左へ廻り正）

〜（正へ出笠両手ニ持左へ廻り）

隠れ笠（右ノヒザツキ）

沙婆（二重引スエ足）

羽を（扇ヒラキ打合）

つめんで（面へアテ、二三足下り）

よけんと（佐ノ方へ行正へ歩）

のがれ立

安き（佐へムチサシ）

御僧（拍子）

一撃コサズ内ニ留越テモ二段開テ出限らまし付足

阿漕

うとふ（右へノリ込翔）

かさを（笠ヲ上テ左右左へウケ）

かくれミの（立サシ廻角取カサシ心持）

冥道よ（正へ出掛）

あらふね（拍子）

さけをんと（サシ角取少廻り）

羽ぬけ（平座臥シ廻リモ）

うらも（ムチサシ高ク下へサシ角取）

いぬ（左廻り）

たすけて（右廻リノリ込ヒラキ留スエ足）

親と空（見上直ニ甘杖ヲ捨）

たより（正へ出掛）

ふりかゝる（左へ廻リ笠正へナゲ扇ヌキ）

罪人（右へウケ扇ニヲ二ツ正へ打）

とぎ（左手出シテ二三足歩）

煙よ（扇面ニヲ、ヒテ左へ廻り）

我と（心持）

今日も（ツメ足問答心持）

難波の（ウケ）

もーほ（角取左廻り）

されば（正）

うゝるや（佐へ）

度重る（ンホリ打切正）

立そゝ（竿右ニ取立）

すはや（左ニ結ヲトキテ）

浮ぬ（右へ廻リ掛ニ正）

ふき波（正へ歩竿左ニ持添テ）

さけぶ（両手下ケ耳ニアテ心持）

聞玉へ（ツメ足）

爰よも（正へ出）

人あみ（佐へ）

此浦の（佐へ）

沙婆よそ（正）

耻かーや（面クモラシ）

かけも（見付桂へ）

網の網（正へ出）

俄よ（佐正へ面遣ウ心持）

いさり（足留正見ヤリ竿捨）

波よ（右へ廻リヒラキ中入）

物の名（正）

おとを（佐へ）

御物語候へ（大小前ニ下居竿右ニ置佐へ惣してト）

さゝあき（正）

かーやく（佐へ）

浦ふれ（佐へ正）

海邊（正）

くり返〜〜（結竿ニマキ掛歩心結ニ竿ヲ巻掛）

海面（正へ見ヤリ）

こはうも（両手下ケ）

後出羽不越但太鼓コス一ノ松ニ留

世をば 面クモラシ　今宵も 正ミヤリ　道を替 ツメ足

忍び〳〵 左ヘ甘心正　沖よも 正　磯よも 右ヘ

阿漕の 内ヘ入

た ゞ 正

網置む 正先ヘ出右ノ方吉網チロシ下居結チダグリ柄ニノセテ置立イロヱ留網ノ側ニ下居結チ取コシ引立謠出ス　唯 罪 結チダグリ上　耳あて 面ヲセ

多 を 直ス　波 も 後ロヘ網捨飛ヒラク心立

あらあつや 両手上テ心持　うーみつ 扇ヌキ二重ヒラキスエ足　火車あ 扇ヒラキ二マチキ正ヘ出

くるーめて 出掛　目のまへ サシ右廻リヒラキ　實 打合心持

思ふも 正〳〵ヘノリ込ニ右　ちやば 正ヘ出掛　阿こきの サシ廻ヒラキ

猶執念 正ヘ扇ツリチロシ　引網の 扇引上ル心　手 訓 左ノ手アシライ

鱗 サシ廻ヒラキ　惡 魚 正ヘヒラキ　紅蓮大 右ヘノリ込

身 を サシ角取　ほねを 扇ムチニアテ　道 を 左ヘ廻リ大小ノ前ヘ

焔 煙 頭取面遣ウ　立居よ 臥シ廻リ平座　めいど 立右ヘ廻リ佐ヘムチサレ

たゞけ 右廻リノリ込　又波よ 扇左ニ取下居扇ヲヽヒ留

女郎花

呼掛如常内ヘ入問答心付ベシ

たゞりと ツメ足　詫 の 正　よ〜知人 佐ヘ

一 本 左手サス　なまめき 正　女郎と 正ヘ出

誰僧老 ヒラキ　彼 角取左ヘ廻リ　ためーも 佐ヘ

此尉こそ 佐ヘ　此方へ 正三足斗歩右ウケテモ　山下の ワキ正ヘ

和光の 正ヘ直ス　御旅所 二三足歩合掌　紅葉も 右ウケ見廻ス

日 も 正　こけの 角取　三ッの 左ヘ廻リ仕柱先

有がた　正ツメ
谷　見チロシ
三千　左ヨリ見廻ス下チ見廻ス心面遣ウ
是こそ　佐
此方へ　正ニ三足出
此男塚　佐
ゆさねば　佐
後出羽不越佑内ニ入太夫一ノ松ニ
妹背の　正ヒラキ
荒有がた　佐合掌
驚き　正歩ツメ足
岩松　右ウケ少見上ケ
諸木　正見ヤリ
あけの　右廻リ
御暇ゆ　カヘル心暫ト足留
是成は　右ウケ
小野の　佐
誰そ　佐ヒラキ
消よ　拍子
わらそふ　佐
あへなき　心持
山うぢへ　見上テ
鳩の　正歩見上心ツメ
恭し　正
あら何共　佐
又とあた　正
恥かしや　面クモラシ正
ふけ行　右廻リヒラキ中入
花の　佐大小ノ前ヘ行太夫内ニ入
放生川　正出下居佐ノ上ニ座
あくし　右廻リカヘル心

其塚　佐
我袖も　右ノ袖アシライ
又　右カヘリ
男山の　直右ヘ廻
徒成　出ヒラキ
同じ道　左ヘ廻リ
女塚ふ　正
ぬしは　佐
あら闇浮　右ヘ廻リ小廻正ヘヒラキ
翔　留地頭小廻ニ扇ヒラキ正ヘヒラキ
〈　正ヘ出掛
道も　橋ノ方ヘ見ヤリ二三足歩
行上れば　正ヘ臥シニッ
剱は　立扇チ上テ下居右ノヒザッキ扇ムチニアテ
磐石は　臥シ立
扨は　正
此花恨　正三足歩
本の如　正ヘムチサシ拍子一
跡の　レホリ
科そのー　拍子
つゝいそ　正ヘノリ込ヒラキ下居
又男山　扇左ノ肩ヘヨセテワキ正見上
跡吊ひて　ヒラキ
草の袂　左ノ袖アシライ
あびき　ツメ
こふよ　右ヘノリ込
思ひ取　拍子
ふうー　直
ともふ　立右ヘ廻リ
其塚は　ツメ足
邪淫の　拍子左右打込ヒラキ
剱の　正上チサシ行飛廻リ雲ノ扇下居

ほねを 拍子立大小ノ前ヘ行
よゝゐ 打合
剱の 扇ウケ正ヘ出チロシサシ流シ
花の 右ヘノリ込右ヘ廻リ佐ヘ
い何成 正タラ〳〵ト下リ跡ヘ廻ヒラキ
露の ムネサシヒラキ品合掌袖返留スエ足

舟橋

一聲越内ヘ大佑向合如常

眞の橋 入替
如何よ 佐ヘ
是は仰 佐ヘ
讀る 佐ヘ
いゃ 正佑佐ヘ
さのみ 向合
渡ゝて 佐ヘツメ
殊更 佐ヘ
祈りし 佐ヘ
去るがら 向合
渡らん 佐ヘツメ正佑笛ノ上ニ座
造玉へ 佐ヘ打切ニ正
佐のよ ウケ出正ヘ
御通 佐ヘ
比も 角取
さして正ヘ出いたつらにワキヘ
舟橋 正ウケテ左ヘ廻リ品ニ
道作 佐ヘ
峯々 左ヘ廻リ佐ヘ正
さんゆ 佐ヘ
語りて 大小ノ前ヘ座
めつらと 佐ヘ

妄執 正
閉られて 佐ヘ
磐石 佐ヘ少面フセル心
我跡 佐ヘ
夕日 方角ヘ
霞の 右ノ上ヲ見廻中有の正橋と立正ヘ心付
雲と 立正ヘ出
橋と ヒラキ
爰は 角取左廻中程ニテフミヒラキ
鐘こう 右ヘ廻正ヘヒラキ中入佑太コ座甘

後出羽不趣佑仕手柱先ヘ立太夫一ノ松留

如何よ 佐ヘ
見やさん ツメ
ゐく涙 右ヘウケ
雨と 見上テ
水満り 左ヘノリ込ヒラキ品ニ
柱を 頭サス
是々 佐ヘ向内ヘ入ヒラキ佑大小ノ前
見 我 右ヘノリ込角取
底の 下ヲ見左廻正ヘヒラキ
知 我 右ヘ廻リ小廻佐ヘ合掌
いで〳〵 佐ヘ
よゝや 佑佐ノ上ニ座ス
共よ 佑ヘツメ正ヘヒラキ働
月も 見上橋ヘ甘人も橋ヘ逢瀬のミカヘリ
向ひの ミカヘリ
峯よ 正ヘ雲扇モ人のけハサシ込
心嬉〳〵や ユウケン

たがひよ 拍子　橋を 身ヲ取雲扇　のさ〜き 雲扇始雲扇ニハ頭トリ

行逢 内〜入 はなせるウケ正〜ノリ込　板間 正行掛拍子ニフミヒラキ　ものつはと ヒザヲチクヅシ平座

〜う心 イ立〜〜ニ扇サシ打杖ヌキ　川橋 打杖逆手ニツキ左ノ手掛イ立　悪龍の 立角取左廻角〜ヒラキ品ニ打杖上ケ

邪淫の 拍子　我と 左〜臥シ廻リ　行者の 佐〜

眞如 立右〜廻佐〜ムチサシヒラキ品打杖捨合掌スエ足

鷹

一聲片越内ニ入竿左ニ持

亡心何よ ヒラキ　こがれそ 右ウケ　忍ひ 二三足出ヒラキ

隙ぞ 直　ふ〜きの 佐〜　本より 正

不審 佐〜ツメ　此里人 佐〜　實々 佐〜

いとま 佐〜　船人は ツメ足 正　現 ウケ

みるめも 正〜出　心の 佐〜　有がた 左〜廻リ

法の 佐〜〜大小ノ前ニ座扇ヌキ　是は 佐〜　頼政を 佐〜

今や〜〜 佐〜　去ほど 正　頼政 イ立正見上右〜見廻ス

矢取て 正扇左ニ取　南無敬　よつ引 ヒザ立カ〜角〜矢ヲハナス心

手こだへ 手ヲロス心持有　得たり 逆ニ扇右〜取左〜身ヲ取ヒザ立カ〜　おつる 立ツカ〜〜ト歩両手ニテ引チロスヤウニ左ノヒザツキ

つゞけ 左ニテチサ〜扇ニテ二三サス心　扨火 扇取直立少上テ　頭は 扇佐〜ヨセ左ヲミテ

尾は 扇右〜ヨセ左ヲミテ　足手 下ヲ見乍二重ヒラキ　あく聲 右〜廻ウケ佐〜ヒラキ下居正

あらべこそ 佐〜正後見竿左ニ置　あき世 扇サシ　掉とり 左ニ取立

乗と 正〜出ヒラキ右〜甘ヤウニテシテ柱先留竿捨中入

後出羽不越内〜入佐〜ヒラキ合掌

頼へ〜やあ 正〜ヒラキ　五十 拍子角取左〜少廻小廻佐〜ヒラキ合掌　扨も我 佐〜

王城 佐ヘヒラキ　東三條 橋ヘ甘　丑みつ 内ヘ入

うべよ 正ヘ出左ヘノリ込飛廻下居　即 拍子角取左ヘ廻リ見付柱ヘヒラキ品ニ扇上　いとり 四ツ拍子

思ひも 身カヘ角ヘフミ込左ヘ引品ニ扇ニ左ノ手カケ　當れば 扇左ノ脇ヘツキ立右ノ足カケ廻後ヘ下リ　地 あ 臥シ平座

思へば 面直心持　君の 扇ニテ一ツ打佐ヘ　其時 立甘扇サシ打杖ヌキ正

宇治 ヒラキ　階を 左ヘノリ込ヒラキ　郭公 上ヲ見

仰られ 正ヘ出右ノヒザツキ打杖ツキ　左の 袖返シアシライ　月を 頭取見上

射るよ 立正ヘ出ヒラキ下居　御 劔 打杖両手ニ掛戴打杖逆ニトリ　御前 敬立右ヘ廻打杖取直

うつほ 角ヘムチサレ行掛ニ打杖肩ヘカケ　よとみつ ソリ廻リ左右ヘ下リ　ふかれ 平座扇ヌキ橋ヘ行モ

月日も 立扇ヒラキ角取左廻　はるこのよ 橋ヘ雲扇　〜 両手マチキ行掛リニ

海月も 橋ヘノリ込左ヘ取飛カヘリ下居

殺生石

呼掛如常問答心付ベシ内ヘ入

あだを 佐ヘツメ　あすのこ 正　こけよ ウケ正ヘ出

又立歸る ヒラキ佐ヘ　物冷敷 角取左ヘ廻リ　此原の 正

秋の 大小ノ前ヘ行座ス　玉ゆの 佐ヘ　御殿の 佐ヘ

ひかりよ 佐ヘ　あすのこ 佐ヘ　今は何をか 佐ヘ

あらはづらし 佐ヘ　夕煙 立　立うへり 立甘心ニテカヘリ

さんげ 佐ヘ　夕やみの ツキ正ウケ二三足歩　我うけ 左ノ袖佐ヘアシライ

恐れ玉そよ 佐ヘヒラキ　石よ 右ヘ廻ヒラキ造物ヘ中入

後出羽一段打チロシ聞語

二つゆ 造物ニツツル　玉もの 佐ヘ　我王法 正

うりよ 佐ヘ　安部の 正　玉藻か 扇左ヘ取

苦しめそ（スエ足 拍子）　（いそく 扇右ニ取 飛下リ）　雲井を（正サシ行 飛廻下居）

其後（立正ヘヒラキ 拍子右ヘノリ込）　兩人よ（角取左廻リ正 ヘ出ヒラキ）　野干は（右ヘ廻小廻 佐ヘヒラキ）

是いぬ（正ヘヒラキ 拍子）　兩介は（角取 左廻）　草を（サシ分右ヘ廻 角ヘヒラキ）

顯れ（角ヘ行扇左ニ取廻カヘ シ弓引心角ヘ二三足歩）　矢の下（扇左手カケ左ノ脇ヘ ツキ立ソリ廻平座）　なすのゝ（立臺ヘ上リ 袖カヅキ）

殺生石（拍子臺 カ下リ）　御法を（佐ヘムチサシヒラキ敬）　約束（立サシウケノリ込臺ヘ飛 上リ袖カツキ留立入）

車僧

呼掛如常内ヘ入問答心付

車僧の（ツメ足）　三界（正ヘ出 佐ヘ）　廻るも（角取左廻小廻 リ正ヒラキ）

見聞（二重引 スエ足）　深立（右ウケ 見上テ）　峯と（正ヘヒラキ）

太郎坊（佐ヘヒラキ）　よもふり（右ヘ廻小廻リ正 ヘヒラキ中入）

後大癒一ノ松留

拠車輪（佐ヘ）　我ほど（正）　車僧（佐ヘ）

魔道（内ヘ入角 取左廻リ）　ぼたい（正ヘヒラキ）　佛あれど（拍子右ヘ ノリ込）

車僧（佐ヘ）　行者も（正ヘヒラキ）　祈るば（サシ分右ヘ廻佐ヘツ カ〳〵ト行圓ヲロシ）

行くらゝ（大口後取平 座問答心付）　さものゝ（立打杖ヲキ 仕柱先ヘ）　なとうは（佐ヘ）

ゑもとを（打杖フリ上佐 ヘ行一ツ打）　實々甘心　拠牛を（佐ヘ）

偖御僧（佐ヘ）　中々の事（正）　ふーざやう（車ナミ身カ ヘ角取左廻）

車とぞ（佐ヘヒラキ 二重引正）　雪のヒラキ　車の（左ヘノリ込 ヒラキ拍子）

けよ（角取左 廻リ）　うて共（打杖フリ上佐 ヘ行一ツ打）　留むれは（左手掛）

此車の（拍子）　法の（右ヘ廻リ正ヘ サシ行飛廻リ）　けんまく（佐ヘ臥シ 飛廻下居）

誠よ（立右ヘ廻リ 佐ヘ身入）　魔障を（ムチサシヒラキ品ニ打 杖捨合掌袖返スエ足）

大會

初同ニ出内入問答心付

のまひて　ッメ足　　とうとう〳〵　正

目をあさぎ　佐へ　　佛の　正

能々御覽　ッメ足　　云ふと　正ヘヒラキ見上テ

ほろ〳〵　右ヘノリ込劃拍子　　木の葉　扇ヒラキ雨手マヘキ出カケ

谷わ　下ヘ右ヘ廻リ小廻ヒラキ中入

後一疊臺イヌ大小ノ前ニ出太夫大癋一ノ松留

深き事　ヒラキ　　あたりを　少ヒラキ見上テ

ふかの　内ヘ入臺ヘ上リ床木掛　　砂の上　徑ヒラキ

空より　上ヲ見廻　　如來　經上ヲ目ムル心

みるより　經二ッ打臺ヲトヒ下リ正ヘ出マク側ヘ見込笛座ヘ甘

あれよ　右ウケ

其時　佐へ

ふり來る　面遣ウ

梢よ　上ヲサシ

大地を　下ヲ見

一面わ　經下テ

俄よ　經左ヘヨセ右ノ上ヲ見込

ハヤ笛佐内ニ入留

せらるの　ハッ拍子〳〵ニ出カケ　　あさま　サシ廻レテヘヒラキ

太夫衣カッキ出佐座方佐ヘヒラキ品ニ衣チロシ舞働廻レ舍利之如

のべかり　佐太夫ノ方ヘ出掛打杖ニテ二ッ打　　たちまち　下居

恐奉　ヒザ立敬　　帝釋　佐入

岩根を　橋ヘノリ込飛廻袖カッキ留

ハヤ笛ノ内ニ衣カッキ大會頭巾取圖持佐出ル見合ニ正ヘ出ル

羽風　ユウケンノヤウニシテ角取ソリ廻リ下リ平座

其時　正ヘ臥シニッ角取左廻

鞍馬天狗

口明過何事無出名乘達拜太コ座ヘ甘子方ニ四人佐出橋ニ立並手折　内ニ入地謠ノ前立

いさ〳〵下居

俳小舞ノ内ニ見付柱ノ方出平座

のや〳〵御立ト　子方立入佐モ入牛佐座ヘ行

荒痛 太夫へ
誰をうも 子方へ
さんゆ 正
夕を 右ウケ
花ぞ 子方へ
有時を 右ノ方ヘ少シ廻リカヘリ正
君兵法 右ヘ出掛
更をと 立サシ右廻小廻正ヒラキ中入立乍敬心斗
ライ序子方モ入
後子方一聲越内留
白柄の 長刀カイ込佐座ヘ行長刀ッキ立居
思ひよらずや 子方へ
花ゐ 正
荒痛子方へ
鐘を 開心
此方へ 立子方ノ側ヘ行左手掛正ニ三足出
今を何をとう 子方へ
平家 子方ヘサシヒラキ品ニ下居敬
あり共 正
戀の 子方へ
松嵐 正
おくも 右ヲ見上立モ花を子方へ向行
扨ゐ 子方へ
大天狗 ヒラキ
明日 又子方ヘヒラキ

後大鼓一ノ松留
大天狗 ヒラキ
大山 左ヘノリ込ヒラキ
比良 袖返シ左ヘ右ヘサシ分
みねを 見上左廻リ
谷ゐ 右ヨリ橋ヘ行少廻ヒラキ
たをーを 拍子左袖カエシ子方ヘ拍子二ッヲミ込ヒラキ袖返シ
語つて 大小ノ前ヘ行床木カヽル
左り 見ル
落たる 下チミヲ床木ヨリ下リ圓ニ左手ソエ
傳へ 子方へ
四州 サシ込ヒラキ
いつゐる 右ヘ廻
如意ケ 右ヘサシヒラキ
霞と 正ヘ出ノリ込飛ヒラキ品ニ左袖カツキ座
嵐 マヂキ内ヘ入正ヘチロス両手ニウケンニテ内入正ヘヒラキ
相がそ房 拍子
有なト 出掛
がまん 内入角取
月を 見上テ
あら 子方へ
又其後 正
やあ 正
兵法の 床木ニ掛
荒天狗 拍子

師匠や 子方へ　　如何ゝよゝ 正　　思召ゝや 圖ニテヒザ打子方へ

抑武器 立拍子

鮮働 留小廻ヒラキ

抑武器 拍子正へ出掛　　源平 サシ分右廻身ヲ入　　清和 上方へムチサレヒラキ正へヒラキ

あら〳〵 左手出ユヒ折　　おゝれる 正へサシ飛廻下居　　遠波 臥シ二ツ

浮雲 立右廻リ南ユウケン　　御身と 子方へヒラキ下居敬　　御暇 立右へカヘル子方長刀カイ込左ノ袖ヲ留

袂ゝ 見カヘリ　　實 子方へサシ右へ廻子方座へ行　　弓矢の ヒラキ

頼めや 角取袖巻左へ廻リ掛ニ右袖マキ橋ノリ込飛廻左ノ袖カヅキ留

是界

次第如常内へ入正名乗遠拝道行中ノ打切ウケ二三足歩着足

太郎坊ゝ 一ノ松ニ行正　　山の姿 見ル心

如何ゝ 幕へ　佑出問答心付

先某か入替内へ入佑佐座へ行太夫大小ノ前向合大口後取平座問答心付

先々 方角　　心の 太夫　　めくは 正

大小の 向合　　悲願哉 向合　　悲〳〵さゝ 向合

焔を 向合　　待こそ 向合　　いざ諸共 立太夫右へカヘリ

雲の 正へヒラキ　　打渡り 拍子　　我名や 左へクリ

東を 方角へヒラキ　　杉の 見上テ　　南ゝつゞく サシ右へ廻リ小廻正へヒラキ中入

後大廻一ノ松ニ留

是界 ヒラキ　　あら佐へ　　夫若作 内入右へウケ

痛〳〵や 佐へヒラキ　　欲界 角取左へ廻小廻正へヒラキ　　〳〵ぎや 拍子

邪法 二三足出ヒラキ　　一如ゝ 出掛　　凡聖 サシ分右へ廻小廻正へヒラキ拍子　働

角取左ヘ廻掛ニ佐ヲ見込橋ヘ行一ノ松頭取佐ヲ見込内ヘ入ワキ正ヘノリ込ウケ佐ノ方ヘツカ〳〵ト
ノリ込車ノ幌ニ左手掛

うむたら　下リ平座　明王　見上イ立　こんゲら　立正ヘ二ツマヲクヤウニ出掛サシ右ヘ廻リ小廻正ヘヒラキ品ニ

〳〵　出掛

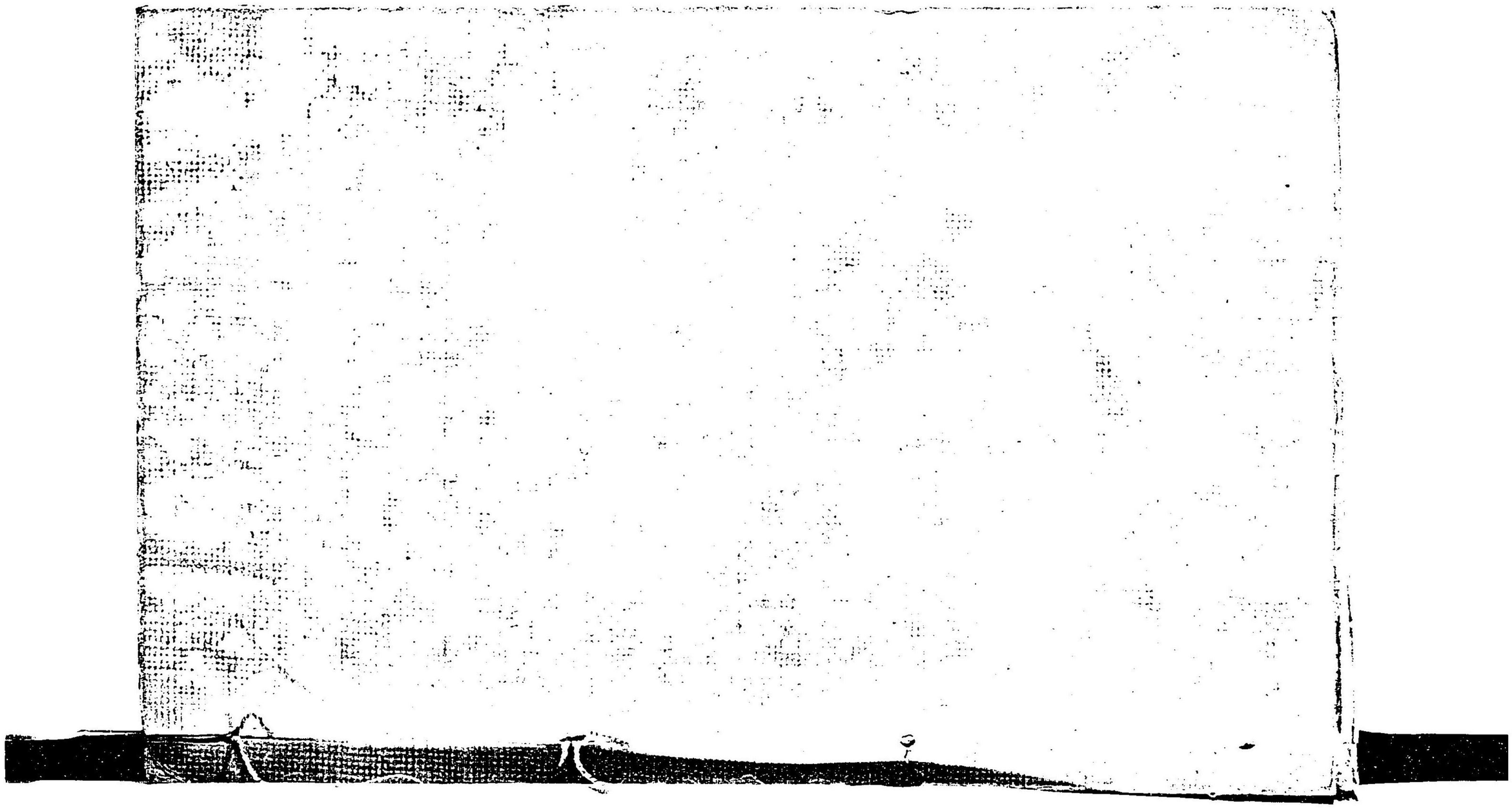
御先を　袖カツキ飛ヒラキ拍子　舞働　扨おゆ　拍子　山ごうぜ　両手マヲキ正ヘ出

東を　方角ヘムヲサシヒラキ　南ゆ　方角サレ廻正ヘヒラキ　力も　立橋ヘ行

吹とらんを　角取左ヘソリ廻リ　地ゆ　平座　今より　立角取左ヘ廻リ掛橋ヘノリ込飛廻袖カツキ留

又飛　ユウケンコヲ内ヘ入佐ヘヒラキ　ゆほと　敬

能樂蘊奥集卷之四畢



東京圖書館

門	
類	
函	八
架	ベ
號	ゆ
冊	9